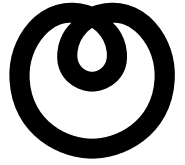


NTT



Pacsia

取扱説明書【応用ガイド】

目次

応用ガイドの目次

1 内線電話機をより便利に使う

電話機から登録・設定するには	4
不在着信転送を設定する	4
時計アラームを設定/解除する	5
システムモードを切り替える	5
着信時の外線ランプと音について	6
ネットワークサービスを利用するには	7
INSキャッチホンサービスを利用する	7
三者通話(ミキシングモード)を利用する	7
通信中転送を利用する	7
着信転送を利用する	8
でんわばんサービス	
でんわばんWサービスを利用する	8
INSボイスワープを利用する	9
INSマジックボックスを利用する	9
特番一覧	10
電話機能一覧	11

2 電話機能の詳細設定

電話機能設定	15
INS回線設定	15
i・ナンバー設定	16
フレックスホン設定	17
ダイヤルイン設定	18
着サブアドレスダイヤルイン設定	19
発信者番号ダイヤルイン設定	20
発信許可番号設定	21
発信禁止番号設定	22
内線電話機設定	23
モード切替設定	29
システム設定	30
ドアホン設定	34

3 電話機能を便利に使う設定例

内線ホットラインを設定するには	35
内線ホットラインを設定する	35
オフフック外線自動捕捉を設定するには	36

オフフック外線自動捕捉を設定する	36
発信規制を設定するには	37
発信許可番号を設定する	37
発信禁止番号を設定する	37
電話機ごとにサービスクラスを設定する	38
保留メロディを切り替えるには	39
保留メロディを切り替える	39
内線電話機に名前を登録するには	40
内線電話機に名前を登録する	40
内線の呼出方式を設定するには	41
内線の呼出方式を設定する	41
ドアホンからのチャイム音が鳴る	
電話機を設定するには	42
ドアホンからのチャイム音が鳴る	
電話機を設定する	42
ファクスや単体電話機から発信する	
回線を限定するには	43
アナログポートから外線発信する	
回線を限定する	43
サブアドレスでファクスに着信させるには	44
着サブアドレスでファクスへ	
着信する設定をする	44
ファクスの内線電話機設定をする	45
システム設定を確認する	46
主装置からダイヤルアップ接続する	
回線を限定するには	47
主装置からダイヤルアップ接続する	
回線を限定する	47

4 ルータ機能の詳細設定

ルータ機能設定	48
LAN設定	48
接続先設定	50
不特定着信設定	64
ルーティング設定	65
DHCPサーバ設定	69
ProxyDNS設定	72
DNS通知設定	74
スケジュール設定	75
通信料金管理設定	77
静的IPマスカレード設定	79

IPアドレス自動発信設定	81
MACアドレス自動発信設定	82
プロトコルタイプ自動発信設定	83
エイジング時間設定	84
IPパケットフィルタリング設定	85
MACアドレスフィルタリング設定	90
イーサネットタイプフィルタリング設定	92
プロトコル/フレームタイプ フィルタリング設定	94
着信リソースBOD設定	96
FTP設定	97

5 ルータの運用

運用方法について	98
運用時に利用できる操作	98
PINGを行うには	99
マニュアル操作を行うには	100
マニュアル発信を行う場合	100
マニュアル切断を行う場合	101
レポート表示を行うには	102
接続先情報を表示する場合	102
パケット統計情報を表示する場合	103
フィルタリング情報を表示する場合	103
ログを表示する場合	104
IPルーティング情報を表示する場合	104
通信料金情報を表示する場合	105
DNSキャッシュテーブルを表示する場合	105
DHCP割り付け状態を表示する場合	106
ARPテーブルを表示する場合	106
ダイナミックMACアドレステーブルを 表示する場合	106
設定一覧表示を行うには	107
プログラムをバージョンアップするには	108

6 ルータの主な設定例

インターネットサービスプロバイダとの接続設定例 (LAN型ダイヤルアップ接続)	110
IPルーティング接続設定例	113
ブリッジ接続設定例	116

アクセスサーバ接続設定例	118
複数の相手と接続する場合	122
IPアドレス変換機能を使用したインターネット接続1 (端末型ダイヤルアップ接続)	125
IPアドレス変換機能を使用したインターネット接続2 (LAN型ダイヤルアップ接続)	127
ソースルーティングによる複数プロバイダとの 接続設定例	130
アクセスサーバ接続による コールバックの設定例	133
アクセスサーバ接続による PIAFS通信の接続設定例	136
DHCPによるIPアドレスの自動割り当て設定例	137

7 ご参考に

意図しない発信が行われる条件について	138
IPアドレスの割り付け方法	139
IPアドレスとは	139
IPアドレスを主装置に割り付けるには	139
IPルータについて	140
IPルータの動作	140
IPルータとブリッジの違い	140
フィルタリングについて	141
イーサネットパケットの構造	142
MACフレームのフィルタリング	142
IPパケットの構造とフィルタリング	143
ARP・RARPパケットの構造とフィルタリング	145
NetWareパケットの構造とフィルタリング	146
AppleTalkパケットの構造とフィルタリング	147
動作の詳細	148
発信動作	148
着信動作	149
コールバックについて	150
IPアドレス変換機能について	152
DHCPによる動的アドレス割り付け	154
パソコンの設定	155
Windows NT®4.0 / Windows®2000	155
Macintosh	162
用語の説明 (総合編)	166
索引 (総合編)	170

1
より
内線
電話機
を
便利に
使う

2
詳細
電話機
機能
の
設定

3
電話機
機能
を
便利
に
使う
設定
例

4
詳細
ルータ
機能
の
設定

5
ルータ
の
運用

6
ルータ
の
主な
設定
例

7
ご
参考
に

不在着信転送を設定する

離席中など不在にしているとき、自分にかかってきた電話を、一時的に他の内線電話機に転送できます。個別着信だけを転送するか、放送着信と個別着信の両方を転送するかを選ぶことができます。不在着信転送を取りやめるときは、解除の操作を行います。

設定できる電話機

内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	×		×

転送元から設定する

<転送元で不在着信転送を登録する>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。
設定ボタンを押します。

不在着信転送用の番号 () を押します。

  または   を押します。

  : 個別着信のみ転送

  : 個別着信と放送着信を転送

転送先の内線番号をダイヤルボタンで押します。

設定ボタンを押します。

スピーカボタンを押します。

<転送元で不在着信転送を解除する>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。
設定ボタンを押します。

不在着信転送用の番号 () を押します。

設定ボタンを押します。

スピーカボタンを押します。

転送先から設定する

<転送先で不在着信転送を登録する>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。
設定ボタンを押します。

不在着信転送用の番号 () を押します。

転送元の内線番号をダイヤルボタンで押します。

  または   を押します。

  : 個別着信のみ転送


  : 個別着信と放送着信を転送

設定ボタンを押します。

スピーカボタンを押します。

<転送先で不在着信転送を解除する>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。
設定ボタンを押します。

不在着信用の番号 () を押します。

転送元の内線番号をダイヤルボタンで押します。

設定ボタンを押します。

スピーカボタンを押します。



ワンポイント

外線個別着信とは

ダイヤルイン、着サブアドレスダイヤルイン、発信者番号ダイヤルイン、i・ナンバー追加番号の着信です。

放送着信とは

契約者回線番号で着信し、着サブアドレスダイヤルイン、発信者番号ダイヤルイン、i・ナンバー追加番号着信に該当しなかった場合の着信です。

不在時の表示について

不在着信転送で着信したとき、呼び出した方と転送先の電話機に内線番号が同時に表示されます。



<呼び出した方の表示>

11 カラ テンソウ
12

<転送先の表示>

11 カラ テンソウ
10

不在時に外線に転送したい場合は

INSボイスワープ ( P9) やフレックスホンの着信転送 ( P8) などのネットワークサービスをご利用ください。



お知らせ

転送先で不在着信転送の登録が行われていても、その先への転送はできません。

単体電話機を転送元にした設定はできません。

複数の電話機から、同じ電話機に不在着信転送を登録することができます。

放送着信に限り不在着信転送された場合、転送元・転送先両方の電話機の着信音が鳴ります。

システムコードレスとは、デジタルシステムコードレス電話機(MBS-PS)およびデジタルシステムKT形コードレス電話機(MBS-PSKT)のことです。

時計アラームを設定 / 解除する

時計アラームをセットしておく、その時刻に電話機のスピーカからアラームを鳴らすことができます。アラームには1回だけ鳴るワンショットアラームと、毎日鳴るデイリーアラームがあります。ワンショットアラームとデイリーアラームの両方をセットすることもできます。

設定できる電話機

内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	×	×	×

<アラームを設定する>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。設定ボタンを押します。
ワンショットアラーム番号 ()、またはデイリーアラーム番号 () を押します。
ワンショットアラーム：1回鳴るアラーム
デイリーアラーム：毎日鳴るアラーム
時刻(時、分)を4桁で入力します。
設定ボタンを押します。
スピーカボタンを押します。

<アラームを解除する>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。設定ボタンを押します。
ワンショットアラーム番号 ()、またはデイリーアラーム番号 () を押します。
ワンショットアラーム：1回鳴るアラーム
デイリーアラーム：毎日鳴るアラーム
クリアボタンを押します。
設定ボタンを押します。
スピーカボタンを押します。

<アラームの設定を確認する>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。設定ボタンを押します。
ワンショットアラーム番号 ()、またはデイリーアラーム番号 () を押します。
ワンショットアラーム：1回鳴るアラーム
デイリーアラーム：毎日鳴るアラーム
アラームの設定が表示されます。
スピーカボタンを押します。

<アラームを止める>

アラームが鳴っているとき、ハンドセットを取りあげます。または、スピーカボタン、クリアボタンを押します。



お知らせ

外線あるいは内線通話中に鳴ったアラームを止めるには、クリアボタンを押します。
アラームは、止めなければ1分間鳴り続けます。

システムモードを切り替える

サービスクラスや着信方式などを、モード別(昼/夜)に切り替えることができます。

モード切替は、内線10の電話機からマニュアル操作(手動切替)で切り替えることができます。また「モード切替設定」(P29)で切替時刻を設定することにより自動的(自動切替)に切り替えることもできます。

設定できる電話機

内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	×	×	×

<昼モードに切り替える>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。機能ボタンを押します。
昼モード切替用の番号 () を押します。
スピーカボタンを押します。

<夜モードに切り替える>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。機能ボタンを押します。
夜モード切替用の番号 () を押します。
スピーカボタンを押します。

<自動切替に復帰する>

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。機能ボタンを押します。
自動切替復帰用の番号 () を押します。
スピーカボタンを押します。



お知らせ

夜モードのときは内線電話機に「ヤカンモード」と表示されます。
マニュアル操作でモード切替を行ったあとは、自動切替への復帰操作をするまで、自動切替にはなりません。

着信時の外線ランプと音について

着信時の外線ランプの表示と着信音の鳴り方

	内線電話機		単体電話機
	外線ランプ表示(色)	着信音の鳴り方	着信音の鳴り方
一般着信	点滅(赤)	ブルルルルル...	リーン
一斉内線呼出	点滅(赤)	ピーピー	-
ドアホン着信	点滅(赤)	ピンポーン(チャイム音)	-
内線着信(信号呼出)	点滅(赤)	ブルル...	リンリン
内線着信(音声呼出)	点滅(赤)	ピーピー	-
ダイヤルイン 発信者番号ダイヤルイン 着サブアドレスダイヤルイン i・ナンバー追加番号1着信	点滅(緑)	ブルブルブルブル...	リーン
i・ナンバー追加番号2着信	点滅(緑)	ブルルブルル...	リーン
呼出状態転送着信(内線)	点滅(緑)	ブルル...	リンリン
呼出状態転送着信(外線)	点滅(緑)	ブルルルルル...	リーン
不在転送着信(内線)	点滅(赤)	ブルル...	リンリン
不在転送着信(外線)	点滅(緑)	ブルルルルル...	リーン
長時間保留警告	点滅(緑)	ブルルルルルルル...	-
着信未応答通知	点滅(緑)	ブルルルルル...	リーン
時計アラーム	点滅(赤)	ブルブルブルブル...	-
保留呼び返し	-	-	リーン/リンリン

: 内線ランプの表示



ワンポイント

着信音について

ブルルルルル... : 長く(1秒間)鳴って、停止を繰り返します。

ブルル... : 短く(0.5秒)鳴って、停止を繰り返します。

ブルルブルル... : やや短く2回鳴って、停止を繰り返します。

ブルブルブルブル... : 短く4回鳴って、停止を繰り返します。

ブルルルルルルル... : やや短く鳴り続けます。



お知らせ

2種類以上の着信が重なったときは、どれか1種類の着信音が鳴ります。

不在着信転送(外線)、着信未応答通知の着信音は、転送される着信の種別により異なります。

INSキャッチホンサービスを利用する

外の相手の方とお話し中に外から電話がかかってきたとき、その着信に回答して通話することができます。INSキャッチホンサービスはフレックスホンサービスの1つです。INSキャッチホンサービスをご利用になるには、当社との利用契約が必要です。

利用できる電話機

内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	x	x	x

< INSキャッチホンサービスを利用する >

通話中に外から電話がかかってくると、電話機に「ツウシンチュウ チャクシン」と表示されます。

ディスプレイに「ツウシンチュウ チャクシン」と表示されたら、相手の方に待っていただくように伝え、フックボタンを押します。

通話していた相手の方には保留メロディが流れます。

2番目にかけてきた相手の方とお話してください。

もう一度、フックボタンを押すと、前の方とお話することができます。

フックボタンを押すたびに相手の方が切り替わります。

三者通話（ミキシングモード）を利用する

外の相手の方とお話し中に、さらに別の相手の方へ電話をかけて3人同時にお話しすることができます。また通話中にINSキャッチホンを受けたときも3人同時に通話できます。三者通話はフレックスホンサービスの1つです。三者通話をご利用になるには、当社との利用契約が必要です。

利用できる電話機

内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	x	x	x

< 三者通話を利用する >

外の相手の方とお話し中に付加サービスボタンを押すか、機能ボタン、**0**を押します

ディスプレイにサービスメニューが表示されます。

「サンシャツウワ」を指すメニューボタンを押します。

別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

相手の方が応答したら、「ミキシング」を指すメニューボタンを押します。

3人でお話できます。

< INSキャッチホンのときに三者通話を利用する >

INSキャッチホンで相手の方を切り替えて通話しているときに付加サービスボタンを押すか、機能ボタン、**0**を押します。

「ミキシング」を指すメニューボタンを押します。

3人でお話できます。



ワンポイント

「キリカエ」を指すメニューボタンを押したときは「三者通話を利用する」の手順で「ミキシング」を指すメニューボタンを押す前は、「キリカエ」を指すメニューボタンを押すたびに相手の方を切り替えることができます。

通信中転送を利用する

外の相手の方とお話し中に、別の相手の方に電話をかけて取りつぐことができます。またキャッチホンサービスをご利用中に、外の相手の方どうして通話していただくこともできます。通信中転送はフレックスホンサービスの1つです。通信中転送をご利用になるには、当社との利用契約が必要です。

利用できる電話機

内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	x	x	x

< 通信中転送を利用する >

外の相手の方とお話し中に付加サービスボタンを押すか、機能ボタン、**0**を押します。

ディスプレイにサービスメニューが表示されます。

「テンソウ」を指すメニューボタンを押します。

別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

相手の方が応答したら、「テンソウ」を指すメニューボタンを押します。

通話中だった外線が転送され、相手の方どうしてお話できます。

< INSキャッチホンのときに通信中転送を利用する >

INSキャッチホンで相手の方を切り替えて通話しているときに付加サービスボタンを押すか、機能ボタン、**0**を押します。

「テンソウ」を指すメニューボタンを押します。

通話中だった外線が転送され、相手の方どうしてお話できます。



お知らせ

転送できるのは、着信した電話のみです。こちらから発信した電話は転送できません。

着信転送を利用する

ネットワークサービスの着信転送を利用して、外からかかってくる電話を一時的に別の電話番号へ着信するように電話機から設定することができます。着信転送はフレックスホンサービスの1つです。着信転送をご利用になるには、当社との利用契約が必要です。

設定できる電話機

内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	x	x	x

< 着信転送先を設定する >

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。設定ボタンを押します。

着信転送先設定用の番号（**3 0**）を押します。**1** ~ **4**のいずれかを選び、転送するときの音声メッセージ（転送トーキ、転送元トーキ）の出しかたを選択します。

- 1** : 転送トーキなし、転送元トーキなし
- 2** : 転送トーキあり、転送元トーキなし
- 3** : 転送トーキなし、転送元トーキあり
- 4** : 転送トーキあり、転送元トーキあり

設定ボタンを押します。
転送したい電話番号をダイヤルボタンで押します。設定ボタンを押します。
転送先が設定されます。
スピーカボタンを押します。

< 着信転送を起動する >

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。設定ボタンを押します。

着信転送起動用の番号（**3 1**）を押します。着信転送が起動され、付加サービスボタンのランプは遅く点滅（赤）します。そのあと、外線からの着信は設定した電話番号へ転送されます。
スピーカボタンを押します。

< 着信転送を解除する >

ハンドセットを置いたまま、内線ボタンを押します。設定ボタンを押します。

着信転送解除用の番号（**3 2**）を押します。着信転送が解除され、付加サービスボタンのランプは消えます。そのあと、外線からは通常どおり着信します。
スピーカボタンを押します。



ワンポイント

転送トーキ、転送元トーキのメッセージ内容は着信転送する際、INSネット64より送られる音声メッセージを「転送トーキ」「転送元トーキ」といいます。

- 転送トーキ : 「ただいま電話を転送しますのでしばらくお待ちください」
(電話をかけた方に流れます)
- 転送元トーキ : 「電話が転送されてまいります」
(転送先の相手の方に流れます)

複数の電話機で着信転送を起動しているときはデータ設定で外線からの着信に鳴動する設定になっている電話機の中で、いちばん小さい内線番号の電話機の設定にしたがい転送されます。

でんわばんサービス・でんわばんWサービスを利用する

ネットワークサービスのでんわばんサービス・でんわばんWサービスを利用すると、不在時にかかってきた電話に対して、登録しておいたメッセージを伝えることができます。でんわばんサービス・でんわばんWサービスをご利用になるには、当社との利用契約が必要です。このサービスの詳細については、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。登録/登録解除は内線10の電話機より行います。

設定できる電話機

内線10の電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	x	x	x

< 不在登録をする >

ハンドセットを置いたまま、外線ランプが消えている外線ボタンを押します。

1 4 1 1 井を押します。

不在登録され、外線ランプが遅く点滅（赤）します。そのあとの着信は電話をかけてきた相手の方にINSネット64からメッセージを伝えます。

< 不在登録を解除する >

ハンドセットを置いたまま、不在登録している外線ボタンを押します。

1 4 1 0 井を押します。

不在登録が解除され、通常どおりに着信します。

INSボイスワープを利用する

ネットワークサービスのINSボイスワープを利用すると、(1)かかってきた電話を自動的に別の電話に転送する、(2)いったん応答した電話を簡単な操作で別の番号へ転送する、(3)外から転送の開始/停止を設定する、(4)転送先を変更するーなど便利な転送機能をご利用になれます。INSボイスワープをご利用になるには、当社との利用契約が必要です。

このサービスの詳細については、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

設定できる電話機

内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	×	×	×

<転送先リストへ登録する>

INSボイスワープの転送先電話番号を登録します。

ハンドセットを置いたまま、外線ランプが消えている外線ボタンを押します。

1 4 2 2 #を押します。

転送先電話番号をダイヤルボタンで押します。

「ソウシュツ」を指すメニューボタンを押します。

転送先電話番号が登録されます。

<転送サービスを開始する>

ハンドセットを置いたまま、外線ランプが消えている外線ボタンを押します。

1 4 2 1 1 #を押します。

転送サービスが開始されます。

<転送サービスを停止する>

ハンドセットを置いたまま、転送サービスを開始している外線ボタンを押します。

1 4 2 0 #を押します。

転送サービスを停止します。

INSマジックボックスを利用する

ネットワークサービスのINSマジックボックスを利用すると、(1)かかってきた電話を自動的に別の電話に転送する、(2)かけてきた方のメッセージを当社のメッセージセンターでお預かりする、(3)センタに録音されたメッセージを再生するーなどの便利な機能をご利用になれます。INSマジックボックスをご利用になるには、当社との利用契約が必要です。

このサービスの詳細については、局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

以下では、INSマジックボックスの転送サービスの開始/停止操作を例に説明します。

設定できる電話機

内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS
	×	×	×

<転送サービスを開始する>

ハンドセットを置いたまま、外線ランプが消えている外線ボタンを押します。

1 4 2 1 1 #を押します。

転送サービスが開始されます。

<転送サービスを停止する>

ハンドセットを置いたまま、転送サービスを開始している外線ボタンを押します。

1 4 2 0 #を押します。

転送サービスを停止します。



お知らせ

i・ナンバー追加番号やダイヤルイン追加番号にINSボイスワープ、INSマジックボックス等を契約し、内線電話機から設定操作を行う場合は、内線電話機設定の「発信者番号」欄にi・ナンバー追加番号やダイヤルイン追加番号を設定してください。

特番一覧

以下の機能にはあらかじめ特番が設定されています。
操作方法については参照先をご覧ください。参照ページに「㊦」が付いている場合は、かんたんガイドを参照してください。

ダイヤル中特番

「ツーツー…」という内線発信音が出ているときに、それぞれの特番を押して操作します。

名称	機能	番号	参照ページ
PBX形外線発信番号 1	空いている外線を選んで電話をかける	0	←P23
一斉内線呼出番号 1	一斉内線呼出を行う	7 0	←㊦P105
再ダイヤル用番号 1	同じ相手にかけ直す	8 0	←㊦P122
短縮ダイヤル発信用の番号 1	短縮ダイヤル発信を行う	8 1	←㊦P124
短縮ダイヤル登録用の番号 2	短縮ダイヤルの登録を行う	8 2	←㊦P123
共通保留応答用の番号 1	共通保留に応答する	8 3	←㊦P102
代理応答用の番号 1	代理応答を行う	㊦ ㊦	←㊦P106

1：単体電話機からでもご利用になれます。

2：単体電話機からのみご利用になれます。

機能特番

機能ボタンを押したあと、それぞれの特番を押して操作します。

名称	機能	番号	参照ページ
付加サービス用の番号	ISDN付加サービスを行う	機能ボタン 0	←P7
昼モード切替用の番号 3	昼モードに切り替える	内線ボタン 機能ボタン 1	←P5
夜モード切替用の番号 3	夜モードに切り替える	内線ボタン 機能ボタン 2	←P5
自動切替復帰用の番号 3	昼/夜モードを自動切替にする	内線ボタン 機能ボタン 3	←P5、29
着信記録確認用の番号	自動着信記録の読み出しを行う	機能ボタン 8	←㊦P108
簡易自動再発信用の番号	簡易自動再発信を行う	機能ボタン 9	←㊦P89

3：内線10の電話機のみご利用になれます。

設定特番

「ツーツー…」という内線発信音が出ているときに、設定ボタンを押したあと、それぞれの特番を押して操作します。

名称	機能	番号	参照ページ
カレンダー設定用の番号 3	カレンダーを設定する	設定ボタン 1 0	←㊦P74
時計設定用の番号 3	時計を設定する	設定ボタン 1 1	←㊦P76
ワンショットアラーム番号	ワンショットアラームを設定/解除/確認する	設定ボタン 2 0	←P5
デイリーアラーム番号	デイリーアラームを設定/解除/確認する	設定ボタン 2 1	←P5
着信転送先設定番号	フレックスホンの着信転送先を設定する	設定ボタン 3 0	←P8
着信転送起動番号	フレックスホンの着信転送を起動する	設定ボタン 3 1	←P8
着信転送解除番号	フレックスホンの着信転送を解除する	設定ボタン 3 2	←P8
ルータ機能データ初期化番号 3	ルータ機能の設定データを初期化する	設定ボタン 9 8	←㊦P71
電話機能データ初期化番号 3	電話機能の設定データを初期化する	設定ボタン 9 9	←㊦P71
着信拒否用の番号	着信拒否の設定を行う	設定ボタン ㊦	←㊦P85、㊦P105
不在着信転送用の番号	不在着信転送を行う	設定ボタン *	←P4

3：内線10の電話機のみご利用になれます。

非ダイヤル中特番

「ツーツー…」という内線発信音が出ているとき以外に、それぞれの特番を押して操作します。

名称	機能	番号	参照ページ
信号/音声呼出切替用の信号 1	内線で呼出中に内線の呼出方法を変える	0	←P23、㊦P103
話中呼出用の番号 1	お話し中の方を呼び出す	*	←P23、㊦P104

1：単体電話機からでもご利用になれます。

発信

名称	内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS	機能概要	関連設定データ
個別形外線発信		-		-	外線ボタンを押すことにより、そのボタンに割り付けられた外線を捕捉して発信できる機能	なし
PBX形外線発信					☐0 相手電話番号をダイヤルすることにより、外線捕捉して発信できる機能	PBX形発信時捕捉外線(端末)
内線個別信号呼出					内線番号をダイヤルすることにより、内線端末を信号で呼び出す機能	内線呼出選択(端末)
内線個別音声呼出					内線番号をダイヤルすることにより、内線端末を音声で呼び出す機能	内線呼出選択(端末)
信号/音声呼出切替					内線電話機を呼び出しているとき、☐0をダイヤルすることにより、信号呼出と音声呼出を交互に切り替えることができる機能	内線呼出選択(端末)
一斉内線呼出					☐7☐0をダイヤルすることにより、空き状態の全内線電話機を一斉に音声で呼び出せる機能	なし
内線ホットライン		-		-	設定した内線電話機をワンタッチで呼び出したり、その内線電話機の状態をランプで表示する機能	外線キー定義(端末)
話中呼出					お話し中の内線電話機を呼び出すことができる機能	話中着信可否(端末)
オフフック外線自動捕捉					ハンドセットを取りあげる、またはスピーカボタンを押すことで、外線または内線を自動捕捉できる機能	オフフック外線自動捕捉(端末) PBX形発信時捕捉外線(端末)
オンフック発信		-			スピーカボタンを押すことにより、ハンドセットを置いたまま発信できる機能	なし
ワンタッチオンフックダイヤル		-		-	ハンドセットを置いたまま、外線ボタンまたは内線ボタンを押してダイヤルする機能	なし
プリセットダイヤル		-			ダイヤル番号を表示したあとで、外線等を捕捉し発信できる機能	なし
再ダイヤル					外線発信時に自動的に記録されたダイヤル番号から選んで外線発信することができる機能(4回前の発信まで記録されます)	なし
ワンタッチダイヤル		-		-	ワンタッチボタンを押すだけで、外線ボタンを押してダイヤルするなど、登録してある操作を自動的に行うことができる機能	ワンタッチボタン(端末)
共通短縮ダイヤル					登録してある共通短縮ダイヤルをすべての電話機で利用することができる機能	共通短縮ダイヤル(システム) サービスクラス(端末)
個別短縮ダイヤル					電話機ごとに、個別に登録された短縮ダイヤルを利用することができる機能	個別短縮ダイヤル(端末) サービスクラス(端末)
簡易自動再発信		-	-	-	外線発信の際、相手の方が応答しないときやお話し中のとき、一定の間隔で再発信を繰り返すことができる機能	なし
発信規制					規制あるいは許可したいダイヤル番号を登録しておくことにより、外線発信を規制することができる機能	発信許可番号(システム) 発信禁止番号(システム) サービスクラス(端末)

「システムコードレス」とは、デジタルシステムコードレス電話機(MBS-PS)およびデジタルシステムKT形コードレス電話機(MBS-PSKT)のことです。

着信・応答

名称	内線 電話機	単体 電話機	システム コードレス	自営標準 PS	機能概要	関連設定データ
着番号 ダイヤルイン					INSネット64から通知されるダイヤルイン番号により、着信させる電話機を指定できる機能	ダイヤルイン設定(システム)
着サブアドレス ダイヤルイン					着サブアドレスにより、着信させる電話機を指定できる機能	着サブアドレスダイヤルイン設定(システム)
発信者番号 ダイヤルイン					INSネット64から通知される発信者番号により、着信させる電話機を指定できる機能	発信者番号ダイヤルイン設定(システム)
i・ナンバー着信					INSネット64から通知されるi・ナンバー情報により、着信させる電話機を指定できる機能	i・ナンバー契約(回線) i・ナンバー着信電話機(回線)
端末着信拒否		-		-	電話機からの操作により、一時的に着信音を鳴らさなくすることができる機能	なし
任意回線応答		-		-	着信時、点滅している外線ボタンを押すことでその着信に応答できる機能	なし
着信自動応答					着信音が鳴っている電話機で、ハンドセットを取りあげる、またはスピーカボタンを押すだけでその着信に応答できる機能	なし
代理応答					他の電話機へかかってきた着信に、代わりに応答できる機能	なし
不在着信転送		-		-	電話機の操作により、着信を一時的に別の電話機に転送できる機能	不在着信転送タイマ(システム)
内線ハンズフリー		-	-	-	マイクボタンを押してマイクランプを点灯しておくことにより、内線呼出に対してハンドセットを取りあげずに音声で応答できる機能	なし
自動着信記録		-		-	外線からの着信(放送/個別)を自動的に記録し、表示したり、その相手の方に発信することができる機能	なし
発信者名識別 表示		-		-	短縮ダイヤルに登録されている名前を着信時に表示できる機能	共通短縮ダイヤル(システム) 個別短縮ダイヤル(端末)

通話

名称	内線 電話機	単体 電話機	システム コードレス	自営標準 PS	機能概要	関連設定データ
スピーカ受話		-		1	電話機のスピーカから、相手の方の声を聞くことができる機能	なし
ハンズフリー通話		-	-	1	ハンドセットの代わりにスピーカとマイクを使用して通話することができる機能	なし
長時間通話警報		-		-	外線発信時に、一定時間通話が続くとディスプレイ表示および音で警報を通知することができる機能	長時間通話警報鳴動時間(システム) 長時間通話警報周期(システム) 長時間通話警報(端末)
通話中ダイヤル					外線通話中または内線通話中にダイヤルボタンを押すことにより、PB信号を送出できる機能	PB信号送出時間設定(システム)
フッキング	-		-	-	単体電話機でフッキングにより個別保留を行う機能	アナログポートフッキング検出時間(システム) アナログポートフッキング操作(端末)

1：機種によってはご利用になれません。

保留・転送

名称	内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS	機能概要	関連設定データ
個別保留・転送					個別保留操作を行うことにより、内線・外線を保留したり転送することができる機能	オンフック転送（端末）
共通保留・転送		-		-	保留ボタンを押すことで、通話中の外線を保留し、他の電話機へ転送する機能	オンフック転送（端末）
自動保留・転送		-		-	外線通話中に、内線ボタン、内線ホットラインボタンを押すことで、通話中の外線を個別保留し、他の電話機へ転送する機能	オンフック転送（端末）
呼出状態転送					転送先の内線電話機を呼出中に電話機の操作で、呼出状態のまま転送できる機能	呼出状態転送（システム） オンフック転送（端末）
一斉内線呼出転送					外線を保留したあと、一斉内線呼出をして応答した電話機に転送することができる機能	オンフック転送（端末）
長時間保留警告		-		-	一定時間以上、保留状態が続くと、保留した電話機に警告音を鳴らす機能	保留警告開始タイム（システム）
保留音源指定					保留音として「美女と野獣」または「アラジンのテーマ」のメロディを流すことができる機能	保留音選択（システム）

表示

名称	内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS	機能概要	関連設定データ
発信者番号表示		-			着信中や応答後に発信者番号と発信者名を表示できる機能（アナログ回線（電話網）からの着信時に発信者番号を表示するには、当社とのINSナンバー・ディスプレイの利用契約が必要です）	共通短縮ダイヤル（システム） 個別短縮ダイヤル（端末）
登録内容表示		-		-	再ダイヤル、短縮ダイヤル、ワンタッチボタンの登録内容がディスプレイに表示できる機能	共通短縮ダイヤル（システム） 個別短縮ダイヤル（端末） ワンタッチボタン（端末）
転送元番号表示		-		-	不在着信転送による着信時、転送元の電話機の内線番号と発信者情報を転送先の電話機に表示できる機能	内線名称（端末）
自内線番号・名称表示		-		-	自分の電話機の内線番号と名称を表示できる機能	内線名称（端末）

ドアホン

名称	内線電話機	単体電話機	システムコードレス	自営標準PS	機能概要	関連設定データ
ドアホン呼出					ドアホンを呼び出して通話することができる機能	ドアホン通話音量設定（システム）
ドアホン着信		-		-	ドアホンから内線電話機を呼び出すことができる機能	ドアホン着信鳴動電話機（システム）
ドアホン応答					着信自動応答や代理応答によりドアホンからの着信に応答する機能。またドアホン応答時の通話音量を送話 / 受話ごとに設定できる機能	ドアホン着信鳴動電話機（システム） ドアホン通話音量設定（システム）

ファクス

名称	内線 電話機	単体 電話機	システム コードレス	自営標準 PS	機能概要	関連設定データ
FAX収容	-	-	-	-	システムに最大2台のファクスを収容できる機能(ファクスとしてのサービスが提供されます)	FAX接続内線指定(システム)
FAX発信	-	-	-	-	ファクス端末の外線発信時、システムデータの設定により通信クラスを「G2/G3」で発信できる機能	FAX接続内線指定(システム) FAX発信時G2/G3指定(システム)
FAX自動着信	-	-	-	-	通信クラスが「G2/G3」の着信を自動的にファクスに着信させることができる機能	FAX接続内線指定(システム)
FAX自動転送					外線ファクス着信に電話機が応答したとき、相手ファクスからのCNG信号を検出し、自動でファクスへ転送することができる機能	FAX信号検出(システム) FAX信号検出回数(システム) FAX接続内線指定(システム)

ネットワークサービス

名称	内線 電話機	単体 電話機	システム コードレス	自営標準 PS	機能概要	関連設定データ
料金情報通知		-		-	外線に発信し、お話しが終わったあとで、回線から送られてくる料金データを表示することができる機能	通話料金表示(端末)
キーパッド送付		-	-	-	キーパッドを回線に送付し、各種ネットワークサービスを利用することができる機能	外線キー定義(端末)
通信中着信通知		-	-	-	使用中の外線に別の着信がきたことをお知らせする機能	通信中着信通知(回線)
INSキャッチホン		-	-	-	使用中の外線に別の着信がきたことをお知らせし、切り替えてお話しする機能	なし
三者通話		-	-	-	外線と通話中やINSキャッチホン使用時、外線の手の方2人と三者通話することができる機能	外線キー定義(端末)
通信中転送		-	-	-	電話機から操作することによりネットワークサービスの通信中転送サービスを利用することができる機能	外線キー定義(端末)
着信転送		-	-	-	電話機からの設定操作によりネットワークサービスの着信転送サービスを利用することができる機能	着信転送時応答設定(回線)
でんわばん・でんわばんW		-	-	-	ネットワークサービスのでんわばん・でんわばんWサービスの登録/解除を行うことができる機能	なし
INSボイスワープ		-	-	-	ネットワークサービスのINSボイスワープの転送先リスト登録、および電話機からの操作でサービスの開始/停止ができる機能	なし
INSマジックボックス		-	-	-	電話機から操作することによりネットワークサービスのINSマジックボックスを利用することができる機能	なし

「電話機能設定」を行うと、「かんたん設定」では設定できない項目を詳細に設定することができ、より便利に電話機をお使いになることができます。電話機能の設定画面を表示するには、ネットワーク上のパソコンでブラウザソフトを使います。(かんたんガイドP47)

INS回線設定

INS回線の詳細な設定を行います。

「INS回線設定」画面を表示するには、電話の詳細設定で「INS回線設定」をクリックし、設定する回線番号を選択します。



設定項目	説明	初期値
契約者回線番号	契約者回線番号を入力する。	なし
放送着信鳴動電話機	昼/夜モードごとに、応答できる内線番号および鳴動させる内線番号を指定する。	全電話機とも応答できる 全電話機とも鳴動させる
回線未応答通知	外線放送着信未応答時に、着信未応答通知タイマで設定された時間経過後、呼び出す内線番号を設定する。	なし

1 契約者回線番号

契約者回線番号を入力します。

2 放送着信鳴動電話機

放送着信時、昼/夜モードごとに、応答できる内線番号および鳴動させる内線番号を選択してください。



お知らせ

「応答できる内線」で選択していない電話機では、放送着信に対して外線ボタンを押すことで応答することはできませんが、代理応答(かんたんガイドP106)は可能です。
夜モードの設定を有効にするには、モード切替設定を行うか手動でモードを切り替える必要があります。(P5、29)



ワンポイント

放送着信とは
契約者回線番号で着信し、着サブアドレスダイヤルイン、発信者番号ダイヤルイン、i・ナンバー追加番号着信に該当しなかった場合の着信です。

2

3 回線未応答通知

外線放送着信未応答時に、着信未応答通知タイマ(P30)で設定された時間経過後、呼び出す内線番号を設定します。



ワンポイント

回線未応答通知の利用方法
着信音が鳴っているのに、だれも着信に回答できないようなときに留守番電話機で回答させたい場合などに設定します。

3

1
より便利に電話機を使う

2
電話機能の詳細設定

3
電話機能を使う設定例

4
ルータ機能の詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な設定例

7
ご参考に

i・ナンバー設定

i・ナンバーを契約しているとき、詳細な設定を行います。

「i・ナンバー設定」画面を表示するには、電話の詳細設定で「i・ナンバー設定」をクリックし、設定する回線番号を選択します。

「i・ナンバー設定」画面は、「INS回線設定」の下にあります。



設定項目	説明	初期設定
i・ナンバー契約	i・ナンバー契約の有無を設定する。	なし
付加契約者番号	追加契約された電話番号（追加番号1、2）を入力する。	なし
i・ナンバー着信電話機	昼/夜モードごとに、応答できる内線番号および鳴動させる内線番号を指定する。	なし
発信時通知 i・ナンバー	内線ごとに外線発信時に通知する i・ナンバーを選択する。	なし



ワンポイント

i・ナンバー追加番号で着信したときは内線電話機の着信音と外線ボタンのランプの色で放送着信と区別できます。（☞P6）



お知らせ

i・ナンバーサービスをご利用になるには、当社との利用契約が必要です。

1

i・ナンバー契約

- i・ナンバー契約をしている場合は「あり」を選びます。
- 契約していない場合は「なし」を選びます。この場合は、以下の項目は設定する必要はありません。

2

付加契約者番号

追加契約してある電話番号（追加番号1、2）を入力します。

3

i・ナンバー着信電話機

追加番号で着信したときに、昼/夜モードごとに、応答できる内線番号および鳴動させる内線番号を選択してください。

発信時通知 i・ナンバー

内線電話機から外線に発信したとき、相手の方に通知する電話番号を設定します。

「なし」：「内線電話機設定」の「発信者番号通知」および「発信者番号」の設定に従います。

「契約者回線番号」：「INS回線設定」の「契約者回線番号」に入力された番号を通知します。

「追加番号1、2」：「i・ナンバー契約」の「付加契約者番号」に入力された番号を通知します。

4



お知らせ

「内線電話機設定」の「発信者番号（☞P27）」を設定した場合、ここで設定した内容に関わらず、「発信者番号」が優先されます。

フレックスホン設定

フレックスホンを契約している場合、主装置の動作設定を行います。

「フレックスホン設定」画面を表示するには、電話の詳細設定で「フレックスホン設定」をクリックし、回線番号を選択します。

「フレックスホン設定」画面は、「INS回線設定」「i・ナンバー設定」の下にあります。



設定項目	説明	初期設定
通信中着信通知	通信中着信通知を許可する内線を指定する。	全電話機許可
着信転送時応答設定	着信転送機能で転送が拒否された場合の動作を選択する。	着信

1 通信中着信通知

通信中で空かない回線に別の着信があった場合、着信したことを通話中の電話機に表示して知らせるかどうかを設定します。



ワンポイント

通信中着信通知を利用すると
INSキャッチホンサービスを契約している場合、通信中着信通知に反応することができます。(←P7)

2 着信転送時応答設定

フレックスホンの着信転送機能を利用して、外からかかってきた電話をあらかじめ登録してある別の電話番号へ自動的に転送する設定を行っているとき、転送ができない場合の動作を選択します。

「着信」：内線電話機から着信音が鳴ります。

「切断」：着信を受けないで切断します。



お知らせ

フレックスホンの着信転送機能をご利用になるには、当社との利用契約が必要です。

1
より内線電話機を便利に使う

2
電話機能の詳細設定

3
電話機能を利用し設定例

4
ルータ機能の詳細設定

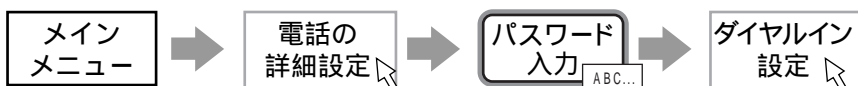
5
ルータの運用

6
ルータの主な設定例

7
ご参考に

ダイヤルイン設定

ダイヤルイン契約をしているとき、詳細な設定を行います。



設定項目	説明	初期設定
ダイヤルイン設定	ダイヤルイン着信時、昼/夜モードごとに、着信する内線を設定する。	なし

お知らせ

ダイヤルインサービスをご利用になるには、当社との利用契約が必要です。

ダイヤルイン番号

- 契約してあるダイヤルイン番号を入力します。最大16の番号を入力できます。
- ダイヤルイン番号は、市外局番から全桁入力しても、下4桁だけを入力しても構いません。

1

ワンポイント

ダイヤルイン番号で着信したときは
内線電話機の着信音と外線ボタンのランプの色で放
送着信と区別できます。(←P6)

2 内線番号

該当するダイヤルイン番号で着信したとき、着信音を鳴らしたい内線電話機を、昼/夜モードごとに選択します。

着サブアドレスダイヤルイン設定

サブアドレスダイヤルインで着信したときの設定を行います。



設定項目	説明	初期設定
着サブアドレス着信種別	着サブアドレスダイヤルインで着信したときの検索モードを選択する。	内線番号検索なし
着サブアドレス	着サブアドレスダイヤルインの着信先の内線番号を、昼/夜モードごとに設定する。	なし



ワンポイント

着サブアドレスダイヤルインで着信したときは内線電話機の着信音と外線ボタンのランプの色で放送着信と区別できます。(←P6)



お知らせ

アナログ回線（電話網）からの着信ではサブアドレスは利用できません。

1

着サブアドレス着信種別

着サブアドレスダイヤルインテーブルを検索して一致するサブアドレスがなかった場合の着信方法を選択します。
 「内線番号検索あり」：内線番号を検索し、着サブアドレスと一致する内線に着信します。一致する内線がなければ放送着信します。
 「内線番号検索なし」：放送着信します。

2

着サブアドレス

サブアドレス番号を入力します。最大16のサブアドレスを設定できます。指定できるサブアドレスは、1～4桁です。

3

内線番号

該当するサブアドレス番号で着信したとき、着信音を鳴らしたい内線電話機を、昼/夜モードごとに選択します。

発信者番号ダイヤルイン設定

設定した電話番号から着信したとき、着信音を鳴らす内線電話機を設定します。



設定項目	説明	初期設定
発信者番号ダイヤルイン設定	発信者番号により着信先の内線を昼/夜モードごとに設定する。	なし



ワンポイント

発信者番号ダイヤルインで着信したときは内線電話機の着信音と外線ボタンのランプの色で放送着信と区別できます。(P6)



お知らせ

アナログ回線(電話網)の発信者番号によって着信先を指定したい場合は、当社とのINSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。
相手の方が発信者番号を通知しない設定になっている場合や、発信者番号通知を提供していないエリアの場合は発信者番号ダイヤルインは動作しません。

1

発信者番号ダイヤルイン

設定したい発信者の電話番号を入力します。最大24の電話番号を設定できます。

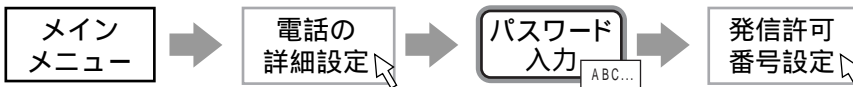
2

内線番号

該当する発信者から着信したとき、着信音を鳴らしたい内線電話機を、昼/夜モードごとに選択します。

発信許可番号設定

サービスクラス2(←P23)に適用する発信許可番号を設定します。



設定項目	説明	初期設定
発信許可番号設定	サービスクラス2で適用する発信許可電話番号を設定する。	なし

発信許可番号設定

- 「内線電話機設定」の「サービスクラス」をクラス2に設定した内線電話機から発信を許可する電話番号を設定します。(半角数字、最大12桁)
- 最大32か所までの電話番号を設定できます。



ワンポイント

発信許可番号設定の利用方法

サービスクラス2で運用している内線電話機は、ここで設定した番号で始まる相手先へ発信することができます。たとえば市内局番と市外の営業所の電話番号を設定しておく、サービスクラス2の電話機からは内線発信、市内発信、および市外の営業所への発信だけが許可されます。(ダイヤルした番号と発信許可番号とを先頭から比較し、一致した場合だけ発信できます。)

発信禁止番号設定

サービスクラス1 (←P23) に適用する発信禁止番号を設定します。



設定項目	説明	初期設定
発信禁止番号設定	サービスクラス1に適用する発信禁止番号を設定する。	なし

発信禁止番号設定

- 「内線電話機設定」の「サービスクラス」をクラス1に設定した内線電話機から発信を禁止する電話番号を設定します。(半角数字、最大8桁)
- 最大32か所までの電話番号を設定できます。

1



ワンポイント

発信禁止番号設定の利用方法

サービスクラス1で運用している内線電話機は、ここで設定した番号で始まる相手先へ発信することができません。たとえば「0990」を設定しておく、サービスクラス1の電話機からはダイヤルQ2に発信できなくなります。(ダイヤルした番号と発信禁止番号とを先頭から比較し、一致した場合は話中音となり発信できません。)

内線電話機設定

内線電話機ごとに詳細な設定を行います。

プルダウンメニューから設定データを編集したい内線を選びます。内線種別により編集できる項目は異なります。



設定項目	説明	初期設定
内線名称	電話機のディスプレイに表示する名称を登録する。(最大12桁)	なし
サービスクラス	昼/夜モードごとに、サービスクラスを選択する。	クラス1
オフフック外線自動捕捉	ハンドセットを取りあげたときに外線に発信できる状態にするかしないか設定する。	なし
PBX形発信時捕捉回線	オフフック自動外線発信もしくはダイヤル「0」により使用する外線を指定する。	外線-1、2、3、4
内線呼出選択	内線の呼出方法を「信号」呼出か「音声」呼出か選択する。	信号
キータッチトーン	ダイヤルボタンを押したときに確認音を出すか設定する。	あり
オンフック転送	ハンドセットを置いて保留転送を完了するかどうか設定する。	転送あり
端末未応答通知	外線個別着信未応答時に、着信未応答通知タイマで設定された時間経過後、呼び出す内線番号を設定する。	なし
話中着信可否	通話中に内線からの着信を通知するかどうか設定する。	許可
長時間通話警報	長時間通話警報をするかどうか設定する。	なし
発信者番号通知	外線発信時の発信者番号通知方法を回線ごとに設定する。	申込内容に従う
発サブアドレス通知	外線発信時の発サブアドレス通知方法を回線ごとに設定する。	通知しない
発信者番号	外線発信時に通知する発信者番号を回線ごとに設定する。(最大16桁)	なし
発サブアドレス	外線発信時に通知する発サブアドレスを設定する。(最大4桁)	なし
外線キー定義	内線電話機の外線ボタン(5~)の機能を設定する。	外線ボタン5 :付加サービスキー 外線ボタン6~:未定義
通話料金表示	ISDN回線から通知される通話料金を表示するかどうか設定する。	する
録音電話機設定	録音電話機を接続するか設定する。	しない
アナログポートフッキング操作	アナログポートのフッキング操作を無視するかどうか設定する。	有効



ワンポイント

内線の設定データをコピーするにはある内線に設定した設定データを他の内線にコピーすることができます。「コピー」ボタンをクリックすると、コピー元とコピー先がプルダウンメニューで表示されますので、それぞれ選択して「コピー」ボタンをクリックしてください。

1

内線名称

- 内線名称を入力します。電話機のディスプレイに常時表示されます。また内線通話のときに相手の方の名前が表示されます。
- 最大12桁（半角の英数字、カナ、記号、スペース）まで入力できます。

2

サービスクラス

昼/夜モードごとに以下のサービスクラスをプルダウンメニューから選びます。

- 「クラス0」：外線発信の規制を受けません。
- 「クラス1」：発信禁止番号（☞P22）と一致する番号への外線発信が規制されます。
- 「クラス2」：発信許可番号（☞P21）と一致する番号への外線発信が可能です。
- 「クラス3」：外線発信はすべて規制されます。



ワンポイント

サービスクラスの利用方法

業務内容に応じてサービスクラスを電話機ごとに設定することで、不要な発信を規制することができます。

- 「発信許可番号設定の利用方法」(☞P21)
- 「発信禁止番号設定の利用方法」(☞P22)

3

オフフック外線自動捕捉

- ハンドセットを取りあげるだけで外線に発信できる状態にするかどうか設定します。
- 使用する外線は「PBX形発信時捕捉回線」で指定します。



ワンポイント

オフフック外線自動捕捉の利用方法

アナログポートに外線にしか発信しないファクスを接続する場合、その内線のオフフック外線自動捕捉を「あり」に設定すると相手先のファクス番号の前に「0」をつけないでダイヤルすることができます。

4

PBX形発信時捕捉回線

オフフック外線自動捕捉あるいはダイヤル「0」により使用する外線を選択します。



ワンポイント

PBX形発信時捕捉回線の利用方法

「オフフック外線自動捕捉」を「あり」に設定しているファクスなどがある場合に、使用する外線を限定することができます。お買い求め時はすべての外線を使用する設定になっています。

5

内線呼出選択

内線呼出されるとき、呼び出される側の設定をします。

「信号」：呼出音が鳴ります。

「音声」：相手からの音声スピーカーから聞こえます。

6

キータッチトーン

ダイヤルボタンを押すたびに、「ピッ」という音を鳴らすかどうか設定します。

7

オンフック転送

保留転送の完了方法を指定します。お買い求め時の設定は「転送あり」です。

「転送あり」：外線通話中に保留ボタンを押し、転送先の内線番号を押して転送先と通話しハンドセットを置くと転送が完了します。

「転送なし」：外線通話中に保留ボタンを押し、転送先の内線番号を押して転送先と通話し設定ボタンを押すと転送が完了します。ハンドセットを置いただけでは転送されず、外線を保留したままとなります。



ワンポイント

転送先を呼び出している状態で転送するには「システム設定」の「呼出状態転送」(P30)を「許可」に設定すると、転送先を呼び出して相手の方が応答する前(転送先を呼び出している状態)でも転送を完了できます。

8

端末未応答通知

- 外線個別着信未応答時に、呼び出す内線をプルダウンメニューで指定します。
- 外線個別着信に対し、「システム設定」の「着信未応答通知タイム」(P30)で設定された時間応答しない場合に、別の内線を呼び出したいときにその内線を指定します。



ワンポイント

端末未応答通知の利用方法

たとえば端末未応答通知で受け付けの内線番号を設定すると、ダイヤルインなどで着信する内線を設定しているときに、その内線で応答がない場合は受け付けを呼び出すといったことが可能です。

外線個別着信とは

ダイヤルイン、着サブアドレスダイヤルイン、発信者番号ダイヤルイン、i・ナンバー追加番号の着信です。

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

9 話中着信可否

通話中に内線から着信があった場合の動作について設定します。

「許可」：通話中に内線から着信があった場合は、通常より小さい音量で着信音が鳴ります。

「不許可」：通話中に内線から呼び出された場合、呼び出した方には「ブーブー...」という話中音が聞こえ呼び出されませんが、呼び出した方が話中呼出用の番号(✖)を押すことで呼び出しが開始され、呼び出された方には通常より小さい音量で着信音が鳴ります。

10 長時間通話警報

● 長電話を警告したい場合などに「あり」に設定します。

● 「あり」に設定すると、「システム設定」の「長時間通話警報鳴動時間(☛P30)」と「長時間警報周期(☛P30)」により警報音を鳴らします。

11 発信者番号通知

● 外線発信時にこちらの電話番号を相手の方に通知する方法について、回線ごとに次の中から選択します。

「申込内容に従う」：当社との契約内容に従います。

「通知する」：当社との契約内容に関わらず、電話番号を通知します。

「通知しない」：当社との契約内容に関わらず、電話番号を通知しません。

● 電話機ごとに設定することができます。



お知らせ

電話番号を通知する設定にしても、相手の方の電話機などが発信者番号を表示する機能を備えていない場合や、相手の方が発信者番号表示サービスを契約されていない場合は、こちらの電話番号は表示されません。

通知する場合の番号は、「INS回線設定」の「契約者回線番号(☛P15)または「内線電話機設定」の「発信者番号(☛P27)」で設定します。両方設定されている場合は「発信者番号」の設定が優先されます。i・ナンバーを契約している回線は、ここで設定した内容に関わらず、「i・ナンバー設定」の「発信時通知 i・ナンバー(☛P16)」の設定が優先しますが、「内線電話機設定」の「発信者番号」が設定されている場合、「発信者番号」の設定が優先されます。ここで設定した内容に関わらず、電話をかける時電話番号の前に「184」または「186」を付加してダイヤルすると、その発信に限って非通知(「184」)または通知(「186」)になります。

12

発サブアドレス通知

•外線発信時に、その電話機のサブアドレスを通知するかどうかを、回線ごとに設定します。



お知らせ

通知する場合の発サブアドレスは「発サブアドレス」で設定します。「発サブアドレス」が設定されていない場合は、内線番号を発サブアドレスとして通知します。

発サブアドレス通知を「通知する」に設定した場合、「i・ナンバー設定」の「発信時通知i・ナンバー」(←P16)で設定した内容に関わらず、契約者回線番号が相手の方に通知されます。

13

発信者番号

外線発信時に、相手の方に通知する発番号(こちらの電話番号)を回線ごとに設定します。



ワンポイント

ダイヤルインを契約しているときはダイヤルイン契約されている場合に相手の方に通知する発信者番号は、契約者回線番号にするかダイヤルイン番号にするか、運用に応じて設定してください。



お知らせ

契約者回線番号、ダイヤルイン番号、代表グループ番号以外の電話番号を設定してもその番号は通知されず、契約者回線番号が通知されます。

14

発サブアドレス

外線発信時に相手の方に通知する発サブアドレスを入力します。指定できるサブアドレスは1~4桁です。

15

外線キ一定義

外線ボタン5以降の機能を次の中から選択します。

「未定義」 : 押しても無視されます。

「内線ダイレクトキー」 : パラメータで選択された内線番号を割り付けます。このボタンは内線ホットラインボタンになります。

「付加サービスキー」 : 付加サービスキーを割り付けます。フレックスホンなどの付加サービスをご利用になるとき、メニューを表示するボタンになります。「ネットワークサービスを利用するには」(←P7~9)



ワンポイント

外線キ一定義以外で付加サービスを利用するには付加サービスキーを割り付けなくても、機能ボタン で付加サービスメニューを表示できます。

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

16 通話料金表示

外線に発信し通話したあと、ISDN回線から通知される通話料金を表示するかどうか、電話機ごとに設定します。

お知らせ

電話をかける先や経路、サービス契約などの違いにより、料金が表示されないことがあります。通話料金の表示は目安です。実際の通話料金とは異なる場合があります。

17 録音電話機設定

録音電話機（かんたんガイド▶P18、19、130）を接続するか設定します。録音電話機を接続する場合、「する」に設定します。

お知らせ

録音電話機設定は、内線10～17のみの設定項目です。

18 アナログポートフッキング操作

アナログポートでのフッキング操作を有効にするか無効にするか設定します。

お知らせ

アナログポートフッキング操作を「無効」にすると、フッキングを使用した転送などのサービスがご利用になれません。アナログポートフッキング操作の設定は、内線20、21のみの設定項目です。

モード切替設定

モード切替設定を利用すると、設定した時間で昼/夜モードを自動的に切り替えることができ、昼間と夜間で着信音が鳴る電話機を変えることや電話機のサービスクラスを変えることができます。

新たにモード切替設定をする場合は、「新規」ボタンをクリックします。モード切替設定は最大8個まで設定できます。またモード切替時刻の変更・削除を行う場合は、その設定Noをクリックします。



設定項目	説明	初期設定
曜日	切り替えたい曜日を選択する。	なし
切替時刻	切り替えたい時刻を設定する。	なし
モード種別	切り替えるモードを選択する。	なし



ワンポイント

モード切替の設定例

月曜日から金曜日は朝8時から夜8時まで昼モード、それ以外の時間帯および土・日は夜モードに設定する場合、昼モードに切り替える設定と夜モードに切り替える設定を行います。

<昼モードに切り替える設定>

曜日 : 月、火、水、木、金を選択

切替時刻 : 08:00

モード種別 : 昼

<夜モードに切り替える設定>

曜日 : 月、火、水、木、金を選択

切替時刻 : 20:00

モード種別 : 夜

1

曜日

自動的に切り替えたい曜日を選択します。複数選択することができます。

2

切替時刻

切替時刻を24時間制で入力します。

3

モード種別

切り替えるモードを選択します。

「昼」: 指定した曜日の指定した時刻に、夜モードから昼モードに自動的に切り替えます。

「夜」: 指定した曜日の指定した時刻に、昼モードから夜モードに自動的に切り替えます。



お知らせ

WWWブラウザを利用した設定では、祝祭日の設定はできません。祝祭日にモードを切り替えるには、電話機からのボタン操作で切り替えてください。

•「システムモードを切り替える」(P5)

モード切替をご利用になる前に時計を正しく合わせてください。(かんたんガイドP76)

1
より内線電話機を
便利に使う

2
電話機能の
詳細設定

3
電話機能を利用
例

4
ルータ機能の
詳細設定

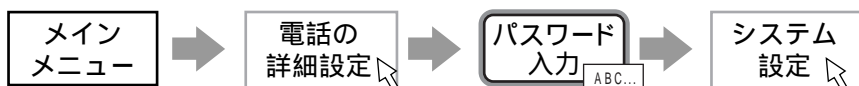
5
ルータの運用

6
ルータの主な
設定例

7
ご参考に

システム設定

回線ごとや内線ごとの個別の設定ではなく、システムとして一括設定する設定項目です。すべての回線と内線に適用されます。



設定項目	説明	初期設定
長時間通話警報鳴動時間	初期警報音までの時間を設定する。	18×10秒
長時間通話警報周期	2次警報音の周期を設定する。	18×10秒
保留音選択	保留音を選択する。	美女と野獣
呼出状態転送	呼出状態転送をするかどうかを設定する。	許可
保留警告開始タイマ	警告表示までの時間を設定する。	0秒（警告表示なし）
不在着信転送タイマ	不在着信転送までの時間を設定する。	0秒
着信未応答通知タイマ	着信未応答通知までの時間を設定する。	15秒
FAX接続内線指定	ファクスを接続するかどうかを設定する。	内線20：なし 内線21：なし
FAX発信時G2 / G3指定	G2 / G3ファクスとして発信するかどうかを設定する。	内線20：なし 内線21：なし
FAX信号検出 (CNG検出)	CNG信号検出をしてアナログポートのファクスに接続するかを設定する。	回線-1：あり 回線-2：あり
FAX信号検出回数 (CNG検出回数)	着信時にファクスのCNG信号を検出する回数を設定する。	2回
PB信号送出時間設定	PB信号の送出時間を選択する。	100 ms
アナログポートフッキング検出時間	アナログポートのフッキング検出時間を設定する。	300～1000 ms

1

長時間通話警報鳴動時間

- 初期警報音までの時間を設定します。
- 「内線電話機設定」の「長時間通話警報」(←P23)を「あり」に設定してある電話機の場合、通話時間がここで設定した時間になるといったん警報音が鳴ります。

2

長時間通話警報周期

- 2次警報音の周期を設定します。
- 「長時間通話警報鳴動時間」でいったん警報音が鳴ってから、さらに長時間通話警報周期で設定した時間が経過するたびに2次警報音が鳴り、繰り返します。

3

保留音選択

使用する保留音を「美女と野獣」「アラジンのテーマ」のいずれかから選択します。

4 呼出状態転送

- 呼出状態転送をするかどうかを設定します。
- 「許可」に設定すると、転送するとき転送先を呼び出して相手の方が応答する前に、呼び出し状態のまま転送することができます。



ワンポイント

転送先に転送することを必ず告げてから転送するには呼出状態転送で「拒否」を選択してください。

5 保留警告開始タイマ

- 保留警告開始タイマの時間を設定します。
- 保留したまま、保留警告開始タイマで設定した時間が経過すると、警告音を鳴らします。
- 保留警告開始タイマの時間を「0」秒に設定すると、保留警告されません。

6 不在着信転送タイマ

- 不在着信転送タイマの時間を設定します。
- 電話機からの操作で一時的に着信を他の内線に転送(←P4)する設定をしてある場合に、着信音が鳴りだしてから不在着信転送タイマで設定した時間内に応答がない場合に転送します。
- 「0」秒に設定すると、転送元の電話機の着信音を鳴らさずに最初から転送先の電話機を呼び出します。

7 着信未応答通知タイマ

- 着信未応答通知タイマの時間を設定します。
- 外線着信時、着信未応答通知タイマで設定した時間内に応答がないとき、他の内線電話機を呼び出すことができます。未応答時に呼び出す電話機は、個別着信の場合は「内線電話機設定」の「端末未応答通知」(←P23)で、放送着信の場合は「INS回線設定」の「回線未応答通知」(←P15)で設定します。
- 「0」秒に設定すると、このサービスを行いません。

8 FAX接続内線指定

- アナログポートにファクスを接続するかどうかをポート(TEL1、TEL2)ごとに設定します。
- ファクスからの着信であると判断したときに、FAX接続内線指定で「あり」に設定したアナログポートに自動転送します。



お知らせ

相手からG3ファクスであるという情報を伴って着信した場合、あるいは他の電話機で応答したときにファクスであるというCNG信号(ブッ...ブッ...)を検出した場合に、ファクスからの着信であると判断します。

TEL1と2どちらも「あり」に設定した場合で、どちらも通話中でない場合はTEL1に転送します。

(前ページのつづき)

9

FAX発信時G2 / G3指定

- ファクス発信時、G2 / G3ファクスであるという情報を伴って発信するかどうかをポート (TEL1、TEL2) ごとに設定します。
- G2 / G3ファクスという情報を伴って発信すると、相手がISDN回線の場合、相手の内線のG2 / G3 / G4ファクスに直接着信することができます。



お知らせ

相手のシステムやデータ設定によって、相手のファクスに直接着信することができない場合があります。

FAX発信時G2 / G3指定「あり」に設定すると、電話として発信した場合でもファクスに着信することがあります。

10

FAX信号検出 (CNG検出)

- ファクスのCNG信号を検出するかどうかを、回線ごとに設定します。
- FAX信号検出 (CNG検出) で「あり」に設定すると、外線着信時に電話機で応答した場合、通話音声をモニタします。通話音声にCNG信号 (プッ...プッ...) を「FAX信号検出回数 (CNG信号検出回数)」で設定された回数分検出すると、「FAX接続内線指定」で設定されているファクスに転送します。

11

FAX信号検出回数 (CNG検出回数)

- CNG検出回数を設定します。
- 「FAX信号検出 (CNG検出)」で「あり」に設定している場合、FAX信号検出回数 (CNG検出回数) で設定した回数分CNG信号を検出すると、ファクスであると判断します。



お知らせ

ファクスではない通常の電話に応答しても、CNG信号 (プッ...プッ...) に似たような音が聞こえると、間違ってファクスに転送されることがあります。このような場合は、設定回数を増やしてください。ただし、増やすと自動転送されるまでの時間が長くなり、うまく転送できないことがあります。

外線からの着信に応答し、CNG信号 (プッ...プッ...) が鳴っているときに応答した方が大きな声を出すと、CNG信号をうまく検出できないことがあります。

PB信号送出時間設定

PB信号の送出時間を設定します。



お知らせ

PB信号送出時間設定は、相手の方と通話中にPB信号を送出して、サービスを受けるときに適用されます。うまくサービスを受けられない場合には長く(150 ms)設定してください。

アナログポートフッキング検出時間

- アナログポートのフッキング検出時間を「100～300 ms」「300～1000 ms」「500～1500 ms」の中から選択します。
- 上記の下限値より短くフックスイッチを押すと無効になり、上限値より長く押すとオンフック(受話器を置いた)とみなします。



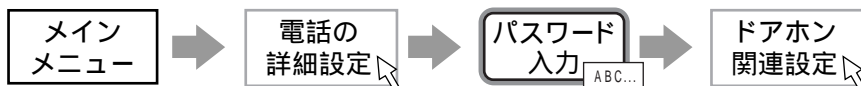
ワンポイント

フッキング操作とは
単体電話機のフックスイッチをポンと押します。つい長く押してしまって切れることが多いときには、アナログポートフッキング検出時間を長く(500～1500 ms)設定します。



ドアホン設定

ドアホンについて詳細に設定します。



設定項目	説明	初期設定
ドアホン着信鳴動電話機	ドアホン着信時に鳴動させる内線番号を選択する。	内線番号 10 ~ 17
ドアホン通話音量設定	ドアホン接続時の通話音量を設定する。	送話：小 受話：小

1

ドアホン着信鳴動電話機

ドアホンからの着信時に着信音（ピンポーン）を鳴らす電話機を選択します。お買い求め時は内線 10 ~ 17 の電話機から着信音が鳴る設定になっています。

ドアホン通話音量設定

ドアホンとの通話音量を、送話 / 受話ごとにプルダウンメニューから選択します。

「送話：小 / 中 / 大」：ドアホンから電話機への音声小さいときは大きくします。

「受話：小 / 中 / 大」：電話機からドアホンへの音声小さいときは大きくします。

2

お知らせ

ドアホン通話音量設定を大きく設定すると、内線電話機で自分の声も大きくなり、聞き取りにくくなる場合があります。また送話 / 受話ともに「大」に設定すると、ドアホンの種類によってはハウリングが発生し「ピー」という音が鳴り使用できない場合があります。この場合は設定値を下げてください。

内線ホットラインを設定するには

外線ボタン5以降の外線ボタンを内線ホットラインボタンとして登録すると、設定した内線電話機をワンタッチで呼び出せるだけでなく、その内線電話機の使用状態をホットラインボタンのランプ表示で知ることができます。

内線ホットラインを設定する

内線ホットラインを設定するには、「内線電話機設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。以下の設定例は、6回線標準電話機を例に説明しています。



- 1 プルダウンメニューから、設定したい内線番号を選んで「編集」ボタンをクリックします。設定画面が表示されます。
- 2 設定項目「外線キー定義」で、外線5以降の「種別」で「内線ダイレクトキー」を選択します。
- 3 外線5以降の「パラメータ」で、プルダウンメニューから、ホットラインで呼び出したい内線番号を選択します。
- 4 「設定」ボタンをクリックします。設定した電話機で内線ホットライン機能が使用できるようになります。内線ホットラインの使用方法は「内線ホットラインを使用するには」(←ワンポイント)をご参照ください。



ワンポイント

内線ホットラインを使用するには内線ホットラインを設定した電話機で次の手順に従って操作してください。

- ・ハンドセットを取りあげます。
- ・内線ホットラインボタンとして設定した外線ボタンを押します。
- ・相手の方が出たら、お話しください。

内線ホットラインボタンのランプ表示
ランプのつき方(色)と相手の内線電話機の状態は次のようになります。

ランプのつき方(色)	相手の電話機の状態
消灯	使用していません
点灯(赤)	使用中です
点滅(赤)	こちらの電話機を呼出中です



お知らせ

内線ホットラインボタンは、外線ボタン5以降の外線ボタンすべてに設定できます。外線ボタンの数についてはご使用になる電話機により異なります。相手の内線電話機が音声で呼び出す設定になっているときは、「内線ホットラインを使用するには」(←ワンポイント)の手順で、内線ホットラインボタンを押したあと、ハンドセットから呼びかけてください。

1
内線電話機を便利に使う

2
電話機能の詳細設定の

3
電話機能を便利に使う設定例

4
ルータ機能の詳細設定の

5
ルータの運用

6
ルータの主な設定例

7
ご参考に

オフフック外線自動捕捉を設定するには

ハンドセットを取りあげる（オフフック）だけで、空いている外線を自動捕捉するように設定すると、外線にだけ発信する電話機やファクスでの操作を簡単にすることができます。

オフフック外線自動捕捉を設定する



- 1 プルダウンメニューから、設定したい内線番号を選んで「編集」ボタンをクリックします。
設定画面が表示されます。
- 2 設定項目「オフフック外線自動捕捉」で、「あり」を選択します。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
設定した電話機がオフフック外線自動捕捉で動作するようになります。




ワンポイント

オフフック外線自動捕捉で外線に発信するには
オフフック外線自動捕捉を設定した電話機で次の手
順に従って操作してください。

ハンドセットを取りあげます。

相手の電話番号をダイヤルボタンで押します。

を押します。

相手の方が出たら、お話しください。



内線にかけるには

オフフック外線自動捕捉を設定した内線電話機から、
内線に電話をかけるときは、内線ボタンを押してから
内線番号をダイヤルしてください。

オフフック外線自動捕捉を設定した単体電話機から、
内線に電話をかけるときは、フッキングして「ツー
ツー...」という内線発信音を確認してから内線番号
をダイヤルしてください。



お知らせ

「オフフック外線自動捕捉で外線に発信するには」
(←ワンポイント)の手順で  を押さなかつ
たときは、6秒経過したあと自動的に  が押さ
れたものとみなされます。

オフフック外線自動捕捉を設定した単体電話機
から外線に発信するときも、「オフフック外線
自動捕捉で外線に発信するには」(←ワンポイ
ント)と同じ手順です。

発信規制を設定するには

業務内容に応じたサービスクラスを電話機ごとに設定することで、無駄な発信を規制することができます。

以下のような発信規制を行うとします。

内線10はいっさい規制をしない。

内線11と内線12は、国際発信「XXXX」(国際発信キャリア番号)と「0990」で始まる電話番号への発信を禁止する。

内線13と内線14は、市内への発信(AまたはBで始まる番号)、市外の営業所Cへの発信(電話番号: CCCCCCCCCC)、フリーダイヤルへの発信(0120で始まる番号)だけを許可する。

この場合、設定データは次のようになります。

発信許可番号 : A、B、CCCCCCCCCC、0120

発信禁止番号 : XXXX、0990

サービスクラス : 内線10 - クラス0、内線11 - クラス1、内線12 - クラス1
内線13 - クラス2、内線14 - クラス2

具体的には、以下の手順で設定を行います。

発信許可番号を設定する

サービスクラス2に適用する発信許可番号を設定します。発信許可番号を設定するには「発信許可番号設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。



1 任意の4つの電話番号欄にそれぞれ「A」、「B」、「CCCCCCCCCC」、「0120」を入力します。

2 「設定」ボタンをクリックします。
「発信禁止番号を設定する」に進みます。

発信禁止番号を設定する

サービスクラス1に適用する発信禁止番号を設定します。発信禁止番号を設定するには「発信禁止番号設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。



1 任意の2つの電話番号欄にそれぞれ「XXXX」、「0990」を入力します。

2 「設定」ボタンをクリックします。
「電話機ごとにサービスクラスを設定する」に進みます。

1
より内線電話機に便利に使う

2
電話機能の詳細設定

3
電話機能を便利に使う設定例

4
ルータ機能の詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な設定例

7
ご参考に

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

電話機ごとにサービスクラスを設定する

電話機ごとにサービスクラスを設定するには「内線電話機設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。



- 1 プルダウンメニューから、設定したい内線番号を選んで「編集」ボタンをクリックします。
設定画面が表示されます。
- 2 設定項目「サービスクラス」で、昼/夜モードごとにプルダウンメニューから、設定したいクラスを選択します。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
内線10～14の各電話機のクラスをすべて設定したら、発信規制の設定は完了です。

お知らせ

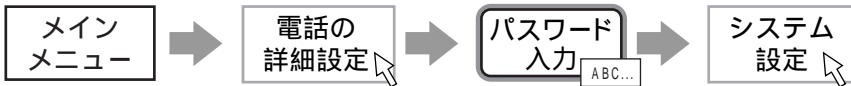
各電気通信事業者の番号計画はサービス更新等に伴い変更されることがあります。変更されたときは、発信禁止番号と発信許可番号の見直しが必要です。

保留メロディを切り替えるには

保留メロディを「美女と野獣」(お買い求め時の設定)と「アラジンのテーマ」から選んで切り替えることができます。

保留メロディを切り替える

保留メロディを切り替えるには、「システム関連設定」画面を表示したあと、手順に従って操作を行います。



1 設定項目「保留音選択」で、「美女と野獣」か「アラジンのテーマ」のいずれかを選択します。

2 「設定」ボタンをクリックします。
保留したときのメロディが選択した曲に切り替わります。

1
より
内線
電話
機能
を
使
う

2
電
話
機
能
の
詳
細
設
定

3
電
話
機
能
を
便
利
に
使
う
設
定
例

4
ル
ー
タ
機
能
の
詳
細
設
定

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
ル
ー
タ
の
主
な
設
定
例

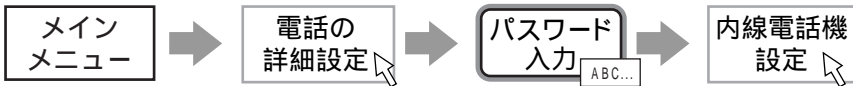
7
ご
参
考
に

内線電話機に名前を登録するには

内線電話機それぞれに名前を登録しておくことで、各内線電話機のディスプレイに登録した名前が表示されます。また内線通話のとき、相手の方の内線電話機に登録されている名前が表示されます。

内線電話機に名前を登録する

内線電話機に名前を登録するには、「内線電話機設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。



1 プルダウンメニューから、設定したい内線番号を選んで「編集」ボタンをクリックします。設定画面が表示されます。

2 設定項目「内線名称」で、登録したい名前を入力します。
名前は、最大12桁（半角の英数字、カナ、記号、スペース）まで入力できます。

3 「設定」ボタンをクリックします。

- 各電話機の名前をすべて登録したら、内線名称の設定は完了です。
- 登録が完了すると、内線通話のときに相手の方の名前がディスプレイ表示されるようになります。

内線の呼出方式を設定するには

内線電話機を呼び出すときに、着信音を使うか音声で呼び出すかを、呼び出される電話機ごとに設定しておくことができます。お買い求め時は着信音を使う設定になっています。

内線の呼出方式を設定する

内線の呼出方法を設定するには、「内線電話機設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。



1 プルダウンメニューから、呼び出される側の内線番号を選んで「編集」ボタンをクリックします。

設定画面が表示されます。

2 設定項目「内線呼出選択」で、「信号」(お買い求め時の設定)または「音声」を選びます。

3 「設定」ボタンをクリックします。

- 設定したい各電話機すべてを設定したら完了です。
- 設定が完了すると、各内線電話機は設定した呼出方法で呼び出されます。



お知らせ

呼び出しているときに途中で **0** を押すことで、交互に呼出方法を切り替えることができます。デジタルシステムコードレス電話機、デジタルシステムKT形コードレス電話機の内線呼出方式は別途設定が必要です。詳しくは、デジタルシステムコードレスセットの取扱説明書を参照してください。

1
内線電話機を
より便利に使う

2
電話機能の
詳細設定

3
電話機能を便利
に使う設定例

4
ルータ機能の
詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な
設定例

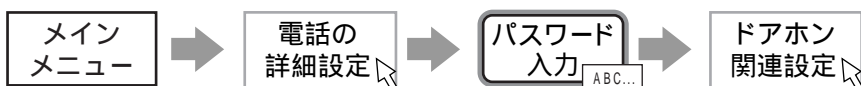
7
ご参考に

ドアホンからのチャイム音が鳴る電話機を設定するには

お買い求め時の設定では、すべての内線電話機からチャイム音が鳴りますが、設定によりチャイム音の鳴る電話機を限定することができます。

ドアホンからのチャイム音が鳴る電話機を設定する

チャイム音が鳴る電話機を限定するには、「 ドアホン関連設定 」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。



1

設定項目「ドアホン着信鳴動電話機」で、チャイム音を鳴らしたい電話機を選択します。

お買い求め時の設定ではすべてが選択された状態になっていますので、チャイム音を鳴らしたくない電話機のチェックマークを外してください。

2

「設定」ボタンをクリックします。

ドアホンから着信すると、選択した電話機だけからチャイム音が鳴ります。

ファクスや単体電話機から発信する 回線を限定するには

お買い求め時の設定では、アナログポート（内線20、内線21）から外線に発信するとき、使用する外線は限定されていません。運用上、設定したい場合は次のように設定します。

アナログポートから外線発信する外線を限定する

アナログポートから外線発信する外線を限定するには、「内線電話機設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。



1 プルダウンメニューから、内線20または内線21を選んで「編集」ボタンをクリックします。

設定画面が表示されます。

2 設定項目「PBX形発信時捕捉外線」で、捕捉する外線番号（1～4）を選択します。

お買い求め時の設定ではすべてが選択された状態になっていますので、捕捉したくない外線のチェックマークを外してください。

3 「設定」ボタンをクリックします。

設定したアナログポートから発信する際、選択されていない外線は使用しなくなります。

1
内線電話機を
より便利に使う

2
電話機能の
詳細設定

3
電話機能を便利
に使う設定例

4
ルータ機能の
詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な
設定例

7
ご参考に

サブアドレスでファクスに着信させる には

ダイヤルインサービスや i・ナンバーサービスを契約していなくても、相手の方がISDN回線であれば、あらかじめ登録しておいたサブアドレスによって、ファクスからの着信は、アナログポートに接続したファクスだけに着信させることができます。

以下のような設定を行うとします。

設定した着サブアドレス「1234」で着信したときはファクスへ着信させる。

契約者回線番号だけでファクスを着信したときは、いったん内線電話機の着信音を鳴らし、ファクスからのCNG信号を検出したらファクスへ自動転送させる。

ここでは、ファクスが発信で使用する回線は外線3と外線4に限定し、ファクスはアナログポート1（TEL1：内線20）へ接続され、そのサブアドレスは「1234」とします。また他のサブアドレスは使用しないものとします。

具体的には、以下の手順で設定を行います。

着サブアドレスでファクスへ着信する設定をする

サブアドレスで着信する電話機を設定するには、着サブアドレスダイヤルイン設定を行います。「着サブアドレスダイヤルイン設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行ってください。



1 設定項目「着サブアドレス着信種別」で、「内線番号検索なし」を選択します。

- お買い求め時の設定では「内線番号検索なし」が選択されています。
- 「内線番号検索なし」を選択するのは、他の着サブアドレスを使用しないためです。

2

No1の着サブアドレス欄に「1234」を入力し、内線番号欄で「内線20」を選択します。

- サブアドレス「1234」はあらかじめ相手先に連絡しておきます。
- 着サブアドレスダイヤルインの設定は、昼/夜モードごとに設定できます。
- 「内線20」はアナログポート1に接続したファクスの内線番号です。

3

「設定」ボタンをクリックします。

「ファクスの内線電話機設定をする」に進みます。

お知らせ

アナログ回線（電話網）からのファクスや電話を受ける場合は、サブアドレスをご利用になれませんのでご注意ください。

ファクスの内線電話機設定をする

ファクスから外線に発信するとき、使用する外線を指定し、ファクスのサブアドレスをつけて発信するように設定します。

ファクスの内線電話機設定をするには、「内線電話機設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。



1 プルダウンメニューから、内線20を選んで「編集」ボタンをクリックします。
設定画面が表示されます。

2 設定項目「PBX形発信時捕捉回線」で、外線番号3と外線番号4を選択します。
お買い求め時の設定ではすべてが選択された状態になっていますので、外線番号1と2のチェックマークを外してください。

3 設定項目「発信者番号通知」の回線-2で「通知する」を選択します。

4 設定項目「発サブアドレス通知」の回線-2で「通知する」を選択します。

5 設定項目「発信者番号」の回線-2に契約者回線番号を入力します。

6 設定項目「発サブアドレス」に「1234」を入力します。

7 「設定」ボタンをクリックします。
「システム設定を確認する」に進んでください。

(次ページへつづく)

1
内線電話機を
より便利に使う

2
電話機能の
詳細設定

3
電話機能を利用
する設定例

4
ルータ機能の
詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な
設定例

7
ご参考に

(前ページのつづき)

システム設定を確認する

「かんたん設定」がすでに設定されている場合は、「システム関連設定」画面でファクスの設定を確認します。



- 1 設定項目「FAX接続内線指定」で、内線20が「あり」に設定されていることを確認します。
- 2 設定項目「FAX信号検出」で、回線-2が「あり」に設定されていることを確認します。
- 3 何も変更していないときはそのまま終了します。変更した場合は「設定」ボタンをクリックします。
これで設定は完了です。サブアドレス「1234」がついて着信したときはファクスに自動着信し、サブアドレスなしで着信したときは、内線電話機から着信音が鳴って応答し、CNG信号を検出したらファクスへ自動転送されます。

主装置からダイヤルアップ接続する 回線を限定するには

「かんたん設定」では、ダイヤルアップ接続するとき、使用する外線は限定されていません。
運用上、限定したい場合は次のように設定します。

主装置からダイヤルアップ接続する外線を限定する

設定は、内線電話機と同様に「内線電話機設定」で行います。

「内線電話機設定」画面を表示したあと、手順に従って設定を行います。



1 プルダウンメニューから、ルータを選んで「編集」ボタンをクリックします。
設定画面が表示されます。

設定項目「PBX形発信時捕捉回線」で、捕捉する外線番号（1～4）を選択します。
お買い求め時の設定ではすべてが選択された状態になっていますので、捕捉したくない外線のチェックマークを外してください。

2



ワンポイント

ダイヤルアップ接続時に、料金割引サービスや料金定額サービスを契約している回線からのみ発信させたい場合は
ご契約の回線の外線だけにチェックマークを入れてください。

3

「設定」ボタンをクリックします。

ダイヤルアップ接続する際、選択されていない外線は使用しなくなります。

1
内線電話機を
より便利に使う

2
電話機能の
詳細設定

3
電話機能を便利
に使う設定例

4
ルータ機能の
詳細設定

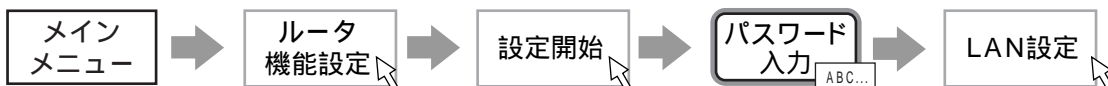
5
ルータの運用

6
ルータの主な
設定例

7
ご参考に

LAN設定

システムのLANインタフェース（10BASE-T：イーサネット）に対する設定を行います。
「LAN設定」画面を表示するには、詳細設定で接続先設定の「LAN設定」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
インタフェース名	LANインタフェースの名称を設定する。 インタフェースの名称は、システム内で重複してはならない。	最大8文字(A ~ Z、 a ~ z、0 ~ 9、-、/、_)	LAN1
IPアドレス	LANインタフェースのIPアドレスを設定する。	X.X.X.X (X:0 ~ 255、10進数)	192.168. 1.254
ネットマスク	LANのネットマスクを、ネットワークアドレスのビット数で設定する。	1 ~ 30	24
ダイナミック ルーティング	RIPプロトコルによる動的（ダイナミック）ルーティングを行うかどうかを設定する。	しない / RIP	しない
ルーティング情報 送出	RIPプロトコルのルーティング情報をLANインタフェース側に送出するかどうかを設定する。 ダイナミックルーティングを「RIP」にした場合のみ有効となる。	しない / する	しない

1

インタフェース名

インタフェース名を入力します。

2

IPアドレスとネットマスク

IPアドレスを入力し、ネットマスクは、“ / ” の後ろに入力してください。



ワンポイント

ネットマスクの設定について
PACSIAでは、ネットマスクはネットワークアドレスのビット数で設定します。たとえば、ネットマスクのドット付き10進数表現が「255.255.255.192」の場合、「1」のビット数が26ビットなので、設定するネットマスクの値は26となります。



お知らせ

IPアドレスを変更した場合は、設定データ保存後、主装置およびパソコンの再起動を行ってください。

3

ダイナミックルーティング

ダイナミックルーティングの設定を選択します。

4

ルーティング情報

ルーティング情報送出的設定を選択します。



お知らせ

ダイナミックルーティングを「RIP」にした場合のみ有効になります。



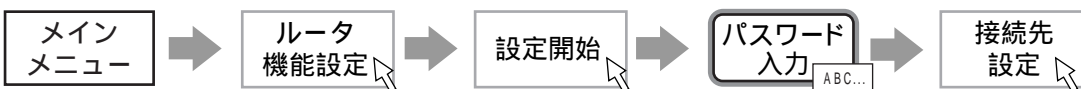
お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

接続先設定

接続先の設定は、リモート接続を行う相手に対して設定を行います。設定する項目は、設定する接続モードにより異なります。接続先設定の最大登録数は16です。接続モードをアクセスサーバにする設定は1つだけ行うことができます。

「接続先設定」画面を表示するには、詳細設定で接続先設定の「接続先設定」をクリックします。



名称	説明	適用接続モード		
		IPルータ	ブリッジ	アクセスサーバ
接続モード	通信時の接続モードを設定する。			
接続先名	インタフェースの名称を設定する。 他の接続先と同じ接続先名を設定できない。			
自動発信	本接続先設定により自動発信を行うかを設定する。			-
1 相手電話番号	自動発信する相手電話番号を設定する。 相手電話番号は、電話番号とサブアドレスを設定する。			-
自動着信	本接続先設定により自動着信を行うかを設定する。			
1 相手電話番号	着信時に応答する相手の電話番号を設定する。 他の接続先と同じ電話番号を設定できない。			
認証要求	相手に対して認証要求を行うプロトコルを設定する。			
1 相手ログイン名	認証の際に、相手から通知されるログイン名を設定する。			
2 相手パスワード	認証の際に、相手から通知されるパスワードを設定する。			
接続先の認証	相手からの認証要求に対して認証を行うプロトコルを設定する。			-
1 通知ログイン名	相手から認証を求められたときに通知するログイン名を設定する。			-
2 通知パスワード	相手から認証を求められたときに通知するパスワードを設定する。			-
2Bch MP 接続	128マルチリンクPPPを行うか設定する。			
TCPヘッダ圧縮	VJヘッダ圧縮によりTCPヘッダの圧縮を行うか設定する。		-	
ブリッジ接続	接続モードが「IPルータ」の場合に、ブリッジ接続を行うか設定する。		-	-
ネットワークブロードキャストパケット送出	IPのネットワークブロードキャストパケットを送出するかどうか設定する。	-	-	
相手に割り付けるIPアドレス	動作モードが「アクセスサーバ」の場合に、相手に割り当てるIPアドレスを設定する。	-	-	
IPアドレス割り付け	回線側にIPアドレスを割り付けるかを設定する。		-	-
1 IPアドレス	接続先にIPアドレスを割り付ける場合に設定する。 IPアドレスを割り付けない場合は「Unnumbered」となる。		-	-
ネットマスク	IPアドレスのネットマスクを設定する。		-	-
2 ダイナミックルーティング	RIPプロトコルによる動的（ダイナミック）ルーティングを行うか設定する。		-	-
3 ルーティング情報送出	RIPプロトコルによるルーティング情報を送出するか設定する。		-	-

1
より内線電話機に便利に使う

2
詳細設定の電話機能の

3
電話機能を利用する設定例

4
ルータ機能の詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な設定例

7
ご参考に

名称	説明	適用接続モード		
		IPルータ	ブリッジ	アクセスサーバ
IPアドレス変換	NAT独自拡張によるIPアドレス変換を行う場合の変換方式を設定する。		-	-
1 割り付けられたIPアドレス	インターネットサービスプロバイダから割り付けられたIPアドレスを設定する。IPアドレス変換方式が「LAN型ダイヤルアップ」の場合のみ設定可能である。		-	-
2 IPアドレス変換テーブル	IPアドレス変換方式が「LAN型ダイヤルアップ」の場合に、グローバルIPアドレスとローカルIPアドレスの変換テーブルを設定する。		-	-
コールバック	コールバックを行うか設定する。			
1 コールバック方式	コールバックを行う場合に、相手に発信する電話番号の指定方式を設定する。			
2 相手電話番号	コールバックを受け付ける場合に、相手に発信する電話番号を設定する。			
接続時データ通信量	2チャンネル目の自動発信を行う条件とするトラヒックデータ通信量を設定する。バルク設定「2Bch<MP>接続」が「する」の場合のみ設定可能である。			
接続時データ継続時間	2チャンネル目の自動発信を行う条件とするトラヒックデータ通信量の連続継続時間を設定する。バルク設定「2Bch<MP>接続」が「する」の場合のみ設定可能である。			
接続時データ測定方向	2チャンネル目の自動発信を行う条件とするトラヒックの測定方向を設定する。バルク設定「2Bch<MP>接続」が「する」の場合のみ設定可能である。			
切断時データ通信量	回線を自動切断する条件とするトラヒックデータ通信量を設定する。バルク設定「2Bch<MP>接続」が「する」の場合は、2チャンネル目の条件設定も行う。			
切断時データ継続時間	回線を自動切断する条件とするトラヒックデータ通信量の連続継続時間を設定する。バルク設定「2Bch<MP>接続」が「する」の場合は、2チャンネル目の条件設定も行う。			
切断時データ測定方向	回線を自動切断する条件とするトラヒックデータの測定方向を設定する。バルク設定「2Bch<MP>接続」が「する」の場合は、2チャンネル目の条件設定も行う。			

: 設定可能
- : 設定不可

接続先設定を行うには

新規に登録する場合

- 1 プルダウンメニューから接続モードを選択します。
アクセスサーバ接続の登録は1つだけ行うことができます。
- 2 「新規作成」ボタンをクリックします。
- 3 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 4 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると確認画面が表示されます。
- 5 確認画面で「OK」ボタンをクリックします
設定内容が新規登録され、「接続先設定」画面に戻ります。
確認画面から設定をやり直す場合は、ブラウザの「戻る」ボタンをクリックしてください。

変更する場合

- 1 一覧から変更する接続先名を選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、変更を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。
- 4 確認画面で「OK」ボタンをクリックします。
設定内容が新規登録され、「接続先設定」画面に戻ります。
確認画面から設定をやり直す場合は、ブラウザの「戻る」ボタンをクリックしてください。

削除する場合

- 1 一覧から削除する接続先名を選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、確認します。
- 3 「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。
- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
設定内容が削除され、「接続先設定」画面に戻ります。
確認メッセージに対して「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定画面に戻ります。



お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。
設定項目の詳細については、各モードの設定をご覧ください。(☞P53～63)

IPルータの場合

接続モードが「IPルータ」の場合、次の項目を設定します。

名称	設定範囲	初期設定
接続先名	最大8文字 (A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	WAN_1 ~ WAN_G
* 発信設定		
1 自動発信	する / しない	する
2 相手電話番号	最大36桁 (0~9、*)	
* 着信設定		
1 自動着信	する / しない	する
2 相手電話番号	最大36桁 (0~9、*)	
* 認証要求設定		
1 認証要求	しない / PAP / CHAP	しない
2 相手ログイン名	最大32文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	
3 相手パスワード	最大32文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	
* 接続先の認証設定		
1 接続先の認証	受け入れない / PAP / CHAP	受け入れない
2 通知ログイン名	最大64文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	
3 通知パスワード	最大64文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	
* バルク接続設定		
1 2Bch MP 接続	する / しない	しない
* データ圧縮設定		
1 TCPヘッダ圧縮	する / しない	しない
* ブリッジ接続設定		
1 ブリッジ接続	する / しない	しない
* IPアドレス設定		
1 IPアドレス割り付け	する / しない	しない
2 IPアドレス	X.X.X.X/Y (X: 0~255、Y: 1~32、10進数)	
3 ダイナミックルーティング	RIP / しない	しない
4 ルーティング情報送付	する / しない	しない
* IPアドレス変換設定		
1 IPアドレス変換	しない / LAN型ダイヤルアップ / 端末型ダイヤルアップ	しない
2 割り付けられたIPアドレス	X.X.X.X (X: 0~255、10進数)	
3 IPアドレス変換テーブル	X.X.X.X (グローバルIPアドレス) - X.X.X.X (ローカルIPアドレス) 最大登録数16 (X: 0~255、10進数)	
* コールバック設定		
1 コールバック	する / しない	しない
2 コールバック方式	相手から指定 / 相手電話番号を指定	相手から指定
3 相手電話番号	最大36桁 (0~9、*)	
* 自動接続 / 切断設定		
1st チャネル切断		
1 通信量	0 ~ 64 (Kbps)	0
2 継続時間	1 ~ 1000 (sec)	150
3 測定方向	送信 / 受信 / 双方向	送信
2nd チャネル接続		
1 通信量	0 ~ 64 (Kbps)	20
2 継続時間	1 ~ 1000 (sec)	5
3 測定方向	送信 / 受信 / 双方向	双方向
2nd チャネル切断		
1 通信量	0 ~ 64 (Kbps)	20
2 継続時間	1 ~ 1000 (sec)	120
3 測定方向	送信 / 受信 / 双方向	双方向

1
より内線電話機を
便利に使う

2
詳細設定機能の
設定

3
電話機能を利用
設定例

4
ルータ機能の
詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な
設定例

7
ご参考に

1 接続先名

接続先名を入力します。

発信設定

プルダウンメニューから、自動発信するかどうかを選択します。



ワンポイント

電話番号の設定について

電話番号は、接続する相手の電話番号とサブアドレスを設定します。

入力方法は、「電話番号」、「*」、「サブアドレス」の順番で入力します。電話番号とサブアドレスの間には必ず識別子として「*」を入力してください。2桁目以降に「*」が入力された場合は、サブアドレスとして判断します。また電話番号およびサブアドレスは、0～9、*以外の文字は入力できません。

入力例	説明
電話番号 + サブアドレス 0312345678 * 100	電話番号 : 0312345678 サブアドレス : 100
電話番号のみ 0312345678	電話番号 : 0312345678 サブアドレス : なし

着信設定

- プルダウンメニューから、自動着信するかどうかを選択します。
- 自動着信「する」に設定した場合は、相手電話番号を入力します。

3



お知らせ

自動着信「する」に設定した場合の設定の詳細は、「着信動作」(P149)を参照してください。
自動着信「する」に設定し「相手電話番号」を設定しない場合は、「不特定着信設定」(P64)の接続先を検索します。

認証要求設定

- プルダウンメニューから、認証要求するかどうかを選択します。
- 認証要求「PAP」または「CHAP」に設定した場合は、相手ログイン名/相手パスワードを入力します。

4



お知らせ

相手パスワードは画面には「*」で表示されます。

5

接続先の認証設定

- プルダウンメニューから、相手からの認証要求を受け入れるかどうかを選択します。
- 接続先の認証「PAP」または「CHAP」に設定した場合は、通知ログイン名/通知パスワードを入力します。



お知らせ

接続先の認証を「受け入れない」に設定した場合、通知ログイン名/通知パスワードは設定する必要がありません。
通知パスワードは画面には「*」で表示されます。

6

バルク接続設定

- 2Bch <MP> 接続をするかどうかを選択します。

7

データ圧縮設定

- TCPヘッダ圧縮を行うかどうかを選択します。

8

ブリッジ接続設定

- ブリッジ接続するかどうかを選択します。



お知らせ

ブリッジ接続「する」に設定した場合、IPパケット以外のパケットをブリッジ転送します。
ブリッジについては、「IPルータとブリッジの違い」を参照してください。(P140)

9

IPアドレス設定

- プルダウンメニューから、「接続先」にIPアドレス割り付けを行うかどうかを選択します。
- IPアドレス割り付け「する」に設定した場合、IPアドレスを入力します。
- ダイナミックルーティングを行うかどうかを選択します。
- ダイナミックルーティング「RIP」を選択した場合、ルーティング情報を送出するかどうかを設定します。

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

10

IPアドレス変換設定

- プルダウンメニューから、IPアドレス変換を行うかどうかを選択します。
- IPアドレス変換「LAN型ダイヤルアップ」に設定した場合、割り付けられたIPアドレスを入力します。
- IPアドレス変換「LAN型ダイヤルアップ」に設定した場合、必要に応じてIPアドレス変換テーブルを入力します。



お知らせ

割り付けられたIPアドレス、IPアドレス変換テーブルは、IPアドレス変換を「LAN型ダイヤルアップ」に設定した場合のみ有効です。設定の詳細は、「IPアドレス変換機能について」を参照してください。(☞P152)

11

コールバック設定

- コールバックするかどうかを選択します。
- コールバック「する」を選択した場合で、コールバック方式に「相手電話番号を指定」を選択したときは、相手電話番号を入力します。



お知らせ

コールバックを行う場合は、必ず認証要求設定をしてください。認証要求設定が「しない」の場合、コールバックを行うことはできません。設定の詳細は、「コールバックについて」を参照してください。(☞P150)

12

自動接続 / 切断設定

データ通信量による自動接続 / 切断を行う場合の条件を入力します。



お知らせ

2ndチャンネル目の設定は、2Bch MP 接続「する」に設定した場合のみ有効です。自動接続 / 切断は以下の条件により行われます。

- 自動切断：「測定方向」において「通信量」以下の状態が「継続時間」の間連続して測定された場合に切断します。
- 自動接続：「測定方向」において「通信量」以上の状態が「継続時間」の間連続して測定された場合に接続します。

1stチャンネル切断の測定は、2ndチャンネルが切断されたあとに開始されます。

ブリッジの場合

接続モードが「ブリッジ」の場合、次の項目を設定します。

名称	設定範囲	初期設定
接続先名	最大8文字 (A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	WAN_1 ~ WAN_G
* 発信設定		
1 自動発信	する / しない	する
2 相手電話番号	最大36桁 (0~9、*)	
* 着信設定		
1 自動着信	する / しない	する
2 相手電話番号	最大36桁 (0~9、*)	
* 認証要求設定		
1 認証要求	しない / PAP / CHAP	しない
2 相手ログイン名	最大32文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	
3 相手パスワード	最大32文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	
* 接続先の認証設定		
1 接続先の認証	受け入れない / PAP / CHAP	受け入れない
2 通知ログイン名	最大64文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	-
3 通知パスワード	最大64文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	-
* バルク接続設定		
1 2Bch MP 接続	する / しない	しない
* コールバック設定		
1 コールバック	する / しない	しない
2 コールバック方式	相手から指定 / 相手電話番号を指定	相手から指定
3 相手電話番号	最大36桁 (0~9、*)	-
* 自動接続 / 切断設定		
1st チャネル切断		
1 通信量	0 ~ 64 (Kbps)	1
2 継続時間	1 ~ 1000 (sec)	150
3 測定方向	送信 / 受信 / 双方向	送信
2nd チャネル接続		
1 通信量	0 ~ 64 (Kbps)	20
2 継続時間	1 ~ 1000 (sec)	5
3 測定方向	送信 / 受信 / 双方向	双方向
2nd チャネル切断		
1 通信量	0 ~ 64 (Kbps)	20
2 継続時間	1 ~ 1000 (sec)	120
3 測定方向	送信 / 受信 / 双方向	双方向

1

接続先名

接続先名を入力します。

発信設定

プルダウンメニューから、自動発信するかどうかを選択します。



ワンポイント

電話番号の設定について

電話番号は、接続する相手の電話番号とサブアドレスを設定します。

入力方法は、「電話番号」*「サブアドレス」の順番で入力します。電話番号とサブアドレスの間には必ず識別子として「*」を入力してください。2桁目以降に「*」が入力された場合は、サブアドレスとして判断します。

また電話番号およびサブアドレスは、0～9、*以外の文字は入力できません。

入力例	説明
電話番号 + サブアドレス 0312345678 * 100	電話番号 : 0312345678 サブアドレス : 100
電話番号のみ 0312345678	電話番号 : 0312345678 サブアドレス : なし

2

着信設定

- プルダウンメニューから、自動着信するかどうかを選択します。
- 自動着信「する」に設定した場合は、相手電話番号を入力します。

3



お知らせ

自動着信「する」に設定した場合の設定の詳細は、「着信動作」(P149)を参照してください。
自動着信「する」に設定し「相手電話番号」を設定しない場合は、「不特定着信設定」(P64)の接続先を検索します。

認証要求設定

- プルダウンメニューから、認証要求するかどうかを選択します。
- 認証要求「PAP」または「CHAP」に設定した場合は、相手ログイン名/相手パスワードを入力します。

4



お知らせ

相手パスワードは画面には「*」で表示されます。

5

接続先の認証設定

- プルダウンメニューから、相手からの認証要求を受け入れるかどうかを選択します。
- 接続先の認証「PAP」または「CHAP」に設定した場合は、通知ログイン名/通知パスワードを入力します。



お知らせ

接続先の認証を「受け入れない」に設定した場合、通知ログイン名/通知パスワードは設定する必要がありません。
通知パスワードは画面には「*」で表示されます。

6

バルク接続設定

2Bch <MP> 接続をするかどうかを選択します。

7

コールバック設定

- コールバックするかどうかを選択します。
- コールバック「する」を選択した場合で、コールバック方式に「相手電話番号を指定」を選択したときは、相手電話番号を入力します。



お知らせ

コールバックを行う場合は、必ず認証要求設定をしてください。認証要求設定が「しない」の場合、コールバックを行うことはできません。
設定の詳細は、「コールバックについて」を参照してください。(←P150)

8

自動接続 / 切断設定

データ通信量による自動接続 / 切断を行う場合の条件を入力します。



お知らせ

2ndチャンネル目の設定は、2Bch MP 接続「する」に設定した場合のみ有効です。
自動接続 / 切断は以下の条件により行われます。

- 自動切断：「測定方向」において「通信量」以下の状態が「継続時間」の間連続して測定された場合に切断します。
- 自動接続：「測定方向」において「通信量」以上の状態が「継続時間」の間連続して測定された場合に接続します。

1stチャンネル切断の測定は、2ndチャンネルが切断されたあとに開始されます。

アクセスサーバの場合

接続モードが「アクセスサーバ」の場合、次の項目を設定します。

名称		設定範囲	初期設定
接続先名		最大8文字 (A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	WAN_1~WAN_G
* 着信設定			
1	自動着信	する / しない	する
2	相手電話番号	最大36桁 (0~9、*)、最大登録数16	-
* 認証要求設定			
1	認証要求	しない / PAP	しない
2	相手ログイン名	最大32文字、最大登録数16 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	-
3	相手パスワード	最大32文字、最大登録数16 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	-
* バルク接続設定			
1	2Bch MP 接続	する / しない	しない
* データ圧縮設定			
1	TCPヘッダ圧縮	する / しない	しない
* ネットワークブロードキャスト設定			
1	ネットワークブロード キャストパケット送出	送出する / 送出しない	送出しない
* IPアドレス割り付け設定			
1	相手に割り付ける IPアドレス	X.X.X.X (X: 0~255、10進数) 最大登録数2(No.1、No.2)	-
* コールバック設定			
1	コールバック	する / しない	しない
2	コールバック方式	相手から指定 / 相手電話番号を指定(各相手電話番号ごとに設定)	相手から指定
3	相手電話番号	最大36桁 (0~9、*)、最大登録数16	-
* 自動接続 / 切断設定			
1stチャンネル切断			
1	通信量	0~64 (Kbps)	0
2	継続時間	1~1000 (sec)	150
3	測定方向	送信 / 受信 / 双方向	送信
2ndチャンネル接続			
1	通信量	0~64 (Kbps)	20
2	継続時間	1~1000 (sec)	5
3	測定方向	送信 / 受信 / 双方向	双方向
2ndチャンネル切断			
1	通信量	0~64 (Kbps)	20
2	継続時間	1~1000 (sec)	120
3	測定方向	送信 / 受信 / 双方向	双方向

1

接続先名

接続先名を入力します。

2

着信設定

- プルダウンメニューから、自動着信するかどうかを選択します。
- 自動着信「する」を選択した場合は、相手電話番号を入力します。



お知らせ

アクセスサーバ接続では、着信する相手電話番号を最大16個まで指定できます。
自動着信「する」に設定した場合の設定の詳細は、「着信動作」(P149)を参照してください。
自動着信「する」に設定し「相手電話番号」を設定しない場合は、「不特定着信設定」(P64)の接続先を検索します。

3

認証要求設定

- プルダウンメニューから、認証要求するかどうかを選択します。
- 認証要求「PAP」を選択した場合は、相手ログイン名/相手パスワードを入力します。



お知らせ

相手ログイン名/相手パスワードの組は、最大16個まで設定することができます。
設定した相手ログイン名/相手パスワードの組は、着信設定で設定した相手電話番号のNoに関係なく適用されます。
相手パスワードは画面には「*」で表示されます。

4

バルク接続設定

2Bch < MP > 接続をするかどうかを選択します。

5

データ圧縮設定

TCPヘッダ圧縮を行うかどうかを選択します。

6

ネットワークブロードキャスト設定

ネットワークブロードキャストパケットの送出を行うかどうかを設定します。

(前ページのおつづき)

IPアドレス割り付け設定

- No.1 IPアドレスを入力します。
- 必要に応じて、No.2 IPアドレスを入力します。



お知らせ

相手に割り付けるIPアドレスのNo.1 IPアドレスとNo.2 IPアドレスは、異なるIPアドレスを設定してください。

着信時はNo1 IPアドレスかNo2 IPアドレスのどちらかのIPアドレスが自動的に割り付けられます。

DHCPサーバで設定されている範囲のIPアドレスは設定できません。

IPアドレスが1つしか設定されていない場合は、同時に1対地でのみの接続となります。

設定の詳細は、「アクセスサーバ接続設定例」を参照してください。(←P118)

7



ワンポイント

リモートパソコンからWindows®のファイル共有機能を利用する場合

リモートパソコンからネットワークAのサーバマシンを検索したり、共有ファイルを利用したりする場合は、次の設定を行ってください。

- NetBIOSフィルタリング設定を削除してください。
- 接続先設定のネットワークブロードキャストパケット送出設定を「送出する」に設定します。
- 両方のパソコンにTCP/IPプロトコル(WINSクライアント)、Microsoftネットワーククライアントをインストールしてください。サーバマシンにはMicrosoftネットワーク共有サービスをインストールしてください。
- NetBEUIプロトコルでは接続できません。
- NetBIOSフィルタリング設定を削除する場合は、以下の「主装置をご利用に当たってのご注意」をお読みください。

主装置をご利用に当たってのご注意

主装置は、LAN間に接続されたパソコンからの要求により、自動的に回線接続を行います。そのため、ご使用になるPACSLAの設定やパソコンのOS、アプリケーション等の条件により意図しない発信が行われ、通話料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。詳しくは「意図しない発信が行われる条件について」(←P138)を参照してください。

8

コールバック設定

- コールバックするかどうかを選択します。
- コールバック「する」を選択した場合で、コールバック方式に「相手電話番号を指定」を選択したときは、相手電話番号を入力します。
- コールバックする相手電話番号の設定は、認証要求で設定された相手ログイン名/パスワードのNoと対応しています。



お知らせ

コールバックを行う場合は、必ず認証要求設定をしてください。認証要求設定が「しない」の場合、コールバックを行うことはできません。設定の詳細は、「アクセスサーバ接続によるコールバックの設定例」を参照してください。(P133)

9

自動接続 / 切断設定

データ通信量による自動接続 / 切断を行う場合の条件を入力します。



お知らせ

2ndチャンネル目の設定は、2Bch MP 接続「する」を選択した場合のみ有効です。自動接続 / 切断は以下の条件により行われます。

- 自動切断：「測定方向」において「通信量」以下の状態が「継続時間」の間連続して測定された場合に切断します。
- 自動接続：「測定方向」において「通信量」以上の状態が「継続時間」の間連続して測定された場合に接続します。

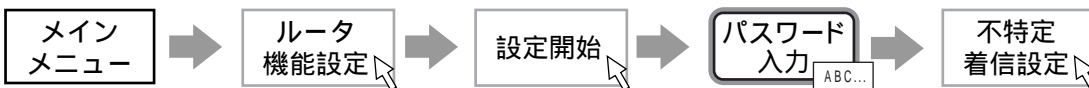
1stチャンネル切断の測定は、2ndチャンネルが切断されたあとに開始されます。

不特定着信設定

あらかじめ登録しておいた接続先に不特定着信を設定すると、すでに登録してある相手電話番号に関わらず自動着信し、リモート接続を行うことができます。

不特定着信は、すでに登録してある接続先の中から1つの接続先に対してのみ設定可能です。

「不特定着信設定」画面を表示するには、詳細設定で接続先設定の「不特定着信設定」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
接続先名	不特定着信を行うかどうかを設定する。	不許可 / 接続先名	不許可

接続先名

- プルダウンメニューから、不特定着信の設定を選択します。

1

お知らせ

プルダウンメニューには、すでに設定されている接続先名が表示されます。

お知らせ

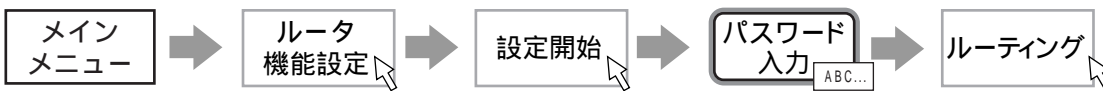
不特定着信を行うには、接続先設定の着信設定で自動着信「する」に設定してください。
設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

ルーティング設定

IPルーティングは、登録されたIPアドレスとネットマスクの設定により、デフォルトルーティング/ホストルーティング/ネットワークルーティング/ソースルーティングを行います。ルーティング用のテーブルは、デフォルトルートを1つ、送信先IPアドレスによるルーティングを16個、送信元IPアドレスによるルーティングを4個設定可能です。

ルーティング先が接続先で設定されている場合で回線が接続されていないときは、自動発信を行います。

「ルーティング設定」画面を表示するには、詳細設定でルーティング設定の「ルーティング設定」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
IPアドレス	ルーティングする送信先IPアドレスまたは送信元IPアドレスを設定する。デフォルトルートでは使用しない。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし
ネットマスク	ルーティングする送信先IPアドレスまたは送信元IPアドレスのネットマスクを、ネットワークアドレスのビット数で設定する。デフォルトルートでは使用しない。	1~32	なし
経路先	経路先の指定方法としてIPアドレスまたはLANインタフェース/接続先のどちらを指定するかを設定する。	IPアドレス/ 接続先名	IPアドレス
経路先IPアドレス	経路先のIPアドレスを設定する。 経路先を「IPアドレス」とした場合のみ設定する。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし
ホップ数	経路先との距離(コスト/ホップ数)を設定する。	1~16	なし

ルーティング設定を行うには

デフォルトルートを新規に登録または変更する場合

- 1 「defaultルート」を選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「ルーティング設定」画面に戻ります。

スタティックIPルーティング/ソースルーティングを新規に登録する場合

- 1 「新規」ボタンをクリックします。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「ルーティング設定」画面に戻ります。

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

スタティックIPルーティング/ソースルーティングを変更する場合

- 1 一覧から変更する設定No.を選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「ルーティング設定」画面に戻ります。

削除する場合

- 1 一覧からdefaultルートまたは削除する設定No.を選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、確認します。
- 3 「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「デフォルトルート設定を削除します。よろしいですか？」または「このルーティング設定を削除します。よろしいですか？」という確認メッセージが表示されます。
- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「削除しました。有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
確認メッセージに対して「キャンセル」ボタンをクリックすると設定画面に戻ります。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「ルーティング設定」画面に戻ります。



お知らせ

設定の詳細については、以下の「defaultルートの場合」「スタティックIPルーティングの場合」「ソースルーティングの場合」をご覧ください。

defaultルートの場合

1

経路先

- ブルダウンメニューから、経路先を選択します。
- スタティックIPルーティングおよびソースルーティングでルーティングされなかったパケットは、ここで選択した接続先へルーティングされます。

2

経路先IPアドレス

経路先「IPアドレス」に設定した場合は、経路先IPアドレスを入力します。



お知らせ

経路先IPアドレスの設定は、経路先を「IPアドレス」に設定した場合のみ有効です。

3 ホップ数

ホップ数を入力します。



お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

スタティックIPルーティングの場合

1 IPアドレスとネットマスク

- ルーティングを行う送信先IPアドレスを入力し、ネットマスクは、“ / ”の後ろに入力してください。
- ここで設定した送信先IPアドレスあての packets を主装置が受信すると、「経路先」で設定した接続先へルーティングします。

2 経路先

プルダウンメニューから、経路先を選択します。

3

経路先IPアドレス

経路先「IPアドレス」に設定した場合は、経路先IPアドレスを入力します。



お知らせ

経路先IPアドレスの設定は、経路先を「IPアドレス」に設定した場合のみ有効です。

4 ホップ数

ホップ数を入力します。



お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

ソースルーティングの場合

1

送信元IPアドレスとネットマスク

- ルーティングを行う送信元IPアドレスを入力し、ネットマスクは、“ / ” の後ろに入力してください。
- ここで設定した送信元IPアドレスからのパケットを主装置が受信すると、「経路先」で設定した接続先へルーティングします。パソコンごとに、利用するインターネットサービスプロバイダを設定することなどができます。

2

経路先

プルダウンメニューから、経路先を選択します。

3

経路先IPアドレス

経路先「IPアドレス」に設定した場合は、経路先IPアドレスを入力します。



お知らせ

経路先IPアドレスの設定は、経路先を「IPアドレス」に設定した場合のみ有効です。

4

ホップ数

ホップ数を入力します。



お知らせ

ソースルーティングにより複数のインターネットサービスプロバイダと接続する場合、ProxyDNS機能を使用すると正しくルーティングされないことがあります。(☞P130)

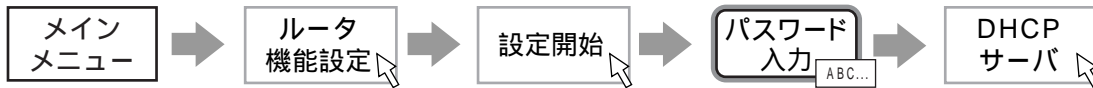
設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能は、接続されているLANからの要求により設定されたIPアドレスの割り付けやサーバアドレス情報の通知を行います。また、DHCP割り付けテーブルを設定することにより、最大8つのIPアドレスを静的に割り付けることが可能です。

「DHCPサーバ設定」画面を表示するには、詳細設定でDHCPサーバ設定の「DHCPサーバ」をクリックします。



PACSlAのDHCPサーバ機能としては、次のデータを割り付けまたは通知します。

- Client Server-assigned IP address : クライアントに割り付けるIPアドレス
- Server IP address (DHCP Server) : 主装置のIPアドレス
- Subnet mask : 主装置のサブネットマスク
- Gateway address : 主装置のIPアドレス
- Domain Name Server address : 主装置のIPアドレスまたは、設定されているDNSサーバアドレス
- NetBIOS over TCP/IP Name Server : 設定されているWINSサーバアドレス

DHCPサーバ設定

名称	説明	設定範囲	初期設定
DHCPサーバ機能	DHCPサーバ機能を使うかどうかを設定する。	しない/する	する
割り付けIPアドレス	クライアントに割り付けるIPアドレスの先頭を設定する。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	192.168.1.1
割り付け数	割り付けIPアドレスで指定したアドレスから割り付けを行うアドレスの数を設定する。	1~64	64
リース時間	DHCPクライアントに割り付けるIPアドレスの使用期限を設定する。「0」に設定された場合は無期限のリースとなる。	0~1000 (時間)	24
デフォルトゲートウェイ	通知するゲートウェイアドレスを設定します。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	192.168.1.254
プライマリWINSサーバ	プライマリWINSサーバのアドレスを通知する場合にアドレスを設定する。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし
セカンダリWINSサーバ	セカンダリWINSサーバのアドレスを通知する場合にアドレスを設定する。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし

DHCP割り付けテーブル設定 (最大8個)

名称	説明	設定範囲	初期設定
IPアドレス	静的に割り付けるIPアドレスを登録する。ここで登録されるIPアドレスはDHCPサーバ設定の範囲内で登録可能です。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし
ホスト名	IPアドレスを静的に割り付ける端末のホスト名を設定する。	最大32文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	なし
MACアドレス	IPアドレスを静的に割り付ける端末のMACアドレスを設定する。	XX:XX:XX:XX:XX:XX (X:0~F 16進数)	なし



お知らせ

DHCPの詳細については「DHCPによる動的アドレス割り付け」を参照してください。(P154)

DHCPにより通知されるDNSサーバアドレスは、設定により次のようになります。詳しくは「DNS通知設定」を参照してください。(P74)

ProxyDNS設定にてProxyDNS機能を「する」に設定した場合は、主装置のIPアドレスを通知します。ProxyDNS設定にてProxyDNS機能を「しない」に設定した場合は、DNSサーバアドレス通知で設定されたDNSサーバアドレスを通知します。

DHCP割り付けテーブルの設定は、ホスト名またはMACアドレスのどちらかの設定により静的に割り付けられます。

1
より内線電話機
便利に使う

2
詳細設定の
電話機能

3
電話機能を利用
設定例

4
ルータ機能の
詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な
設定例

7
ご参考に

1

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能を使用するかどうかを選択します。



お知らせ

DHCPサーバ機能「しない」を選択した場合は、以下の設定は無効となります。

2

割り付けIPアドレス

DHCPクライアントに割り付けるIPアドレスの先頭を設定します。



お知らせ

LANインタフェースのIPアドレスとネットマスクで設定されたサブネット外のIPアドレスは設定できません。

3

割り付け数

割り付け数を設定します。

4

リース時間

リース時間を設定します。

5

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。

6

プライマリWINSサーバとセカンダリWINSサーバ

プライマリWINSサーバとセカンダリWINSサーバのIPアドレスを設定します。



お知らせ

WINSサーバを使用しない場合は、未入力としてください。
PACISIAにはWINSサーバ機能は内蔵されていません。

DHCP割り付けテーブル

静的に割り付けるホスト名 / MACアドレスとIPアドレスの組を入力します。



お知らせ

静的にIPアドレスを割り付ける場合には、DHCP割り付けテーブルへの設定が必要となります。

IPアドレスは、DHCPサーバ設定で設定された範囲内での設定も可能です。ただし、LANインタフェースのIPアドレスとネットマスクで設定されたサブネット外のIPアドレスは無効となります。

ホスト名 / MACアドレスとIPアドレスの組は、最大8個まで設定することができます。

端末のMACアドレスは、接続されているLANカード / ボードに記載されています。詳しくは使用しているLANカード / ボードの取扱説明書を参照してください。

DHCPによるIPアドレスの割り付けは、LAN側のみサポートとなります。

IPアドレスの割り付けは、端末から通知されるホスト名、または、MACアドレスが一致した端末に割り付けます。



お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

1
より
内線
電話
機を
便利
に使
う

2
電話
機能
の
詳細
設定

3
電話
機能
を
便利
に
使
う
設
定
例

4
ル
ー
タ
機
能
の
詳細
設定

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
ル
ー
タ
の
主
な
設定
例

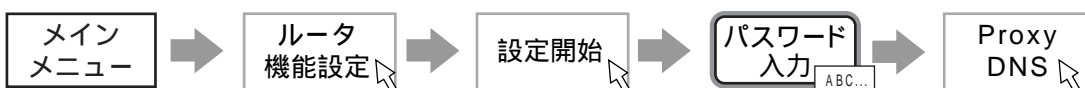
7
ご
参
考
に

ProxyDNS設定

ProxyDNS機能は、ネットワーク端末のDNSサーバIPアドレスを主装置のIPアドレスに設定することにより、接続されている接続先のDNSサーバを使用してアドレス解決を行います。このため、パソコン側の設定を変更せずにアドレス解決が可能となります。

またホストテーブルにホスト名とIPアドレスを登録することにより一致するホスト名に対してDNSの代理応答を行います。

「ProxyDNS設定」画面を表示するには、詳細設定でDNS関連設定の「ProxyDNS」をクリックします。



ProxyDNS設定

名称	説明	設定範囲	初期設定
ProxyDNS機能	ProxyDNS機能を使うかどうかを設定する。	しない / する	しない
DNS問い合わせ先	DNSの問い合わせを解決できないときの問い合わせ方法を設定する。 接続先指定された場合は、回線接続時に相手から通知されるDNSサーバIPアドレスに問い合わせを行う。 IPアドレス指定された場合は、設定されたDNSサーバIPアドレスに対して問い合わせを行う。	接続先名 / IPアドレス	IPアドレス
プライマリDNSサーバ	DNS問い合わせ先のプライマリDNSサーバIPアドレスを設定する。 DNS問い合わせ先の設定がIPアドレスの場合に設定する。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし
セカンダリDNSサーバ	DNS問い合わせ先のセカンダリDNSサーバIPアドレスを設定する。(省略可) DNS問い合わせ先の設定がIPアドレスの場合に設定する。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし
NetBIOS名前解決	ProxyDNS機能によりNetBIOSの名前解決を行うかどうかを選択する。	しない / する	しない

ホストテーブル設定 (最大32個)

名称	説明	設定範囲	初期設定
ホスト名	テーブルに登録するホスト名を設定する。	最大32文字 (制御コード、スペースを除くASCII文字)	なし
IPアドレス	ホスト名に対して割り付けるIPアドレスを登録する。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし

ProxyDNS機能

ProxyDNS機能を使用するかどうかを選択します。

1



お知らせ

ProxyDNS機能「しない」に設定した場合は、以下の設定は無効となります。

2

DNS問い合わせ先

プルダウンメニューから、DNS問い合わせ先を選択します。



お知らせ

問い合わせ先として接続先を選択した場合、接続先のインターネットサービスプロバイダによってはDNSサーバアドレスを取得できない場合があります。この場合、「IPアドレス」を選択し、インターネットサービスプロバイダから指定されたDNSサーバアドレスを問い合わせ先IPアドレスに設定します。

3

プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバ

- DNS問い合わせ先「IPアドレス」に設定した場合、問い合わせ先のプライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。
- プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバの設定は、DNS問い合わせ先を「IPアドレス」に設定したときのみ有効です。
- ProxyDNS設定にてProxyDNS機能を「する」に設定した場合、DHCPにより通知されるDNSサーバアドレスは主装置のIPアドレスを通知します。

4

NetBIOS名前解決

ProxyDNS機能によりNetBIOSの名前解決を行うかどうかを選択します。



お知らせ

NetBIOS名前解決「する」に設定した場合、意図しない発信が行われ、通信料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。(☞P138)

5

ホストテーブル

- DNS代理応答を行うホスト名とIPアドレスの組を入力します
- ホスト名とIPアドレスの組は、最大32個まで設定することができます。



お知らせ

ソースルーティングにより複数のインターネットサービスプロバイダと接続する場合、ProxyDNS機能を使用すると正しくルーティングされないことがあります。(☞P130)

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

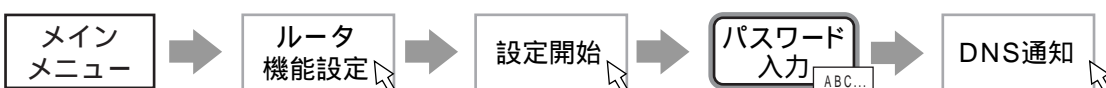
「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

DNS通知設定

DNS通知設定は、ProxyDNS機能を行わない場合に次の条件で通知するDNSサーバIPアドレスを設定します。

- 端末からのDHCPによるDNSサーバIPアドレスの要求
- 発信 / 着信時の接続相手からのDNSサーバIPアドレスの要求

「DNS通知設定」画面を表示するには、詳細設定でDNS関連設定の「DNS通知」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
DNSサーバアドレス通知	DNSサーバのIPアドレス通知を行うか設定する。	通知しない / 通知する	通知しない
プライマリDNSサーバ	通知するプライマリDNSサーバIPアドレスを設定する。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし
セカンダリDNSサーバ	通知するセカンダリDNSサーバIPアドレスを設定する。 (省略可)	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし

1 DNSサーバアドレス通知

DNSサーバアドレス通知をするかどうかを設定します。

お知らせ

DNSサーバアドレス通知「通知しない」を選択した場合は、以下の設定は無効となります。

2 プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバ

DNSサーバアドレス通知「通知する」を選択した場合、通知するプライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。

お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

スケジュール設定

スケジュール機能を使用することにより、次の項目で曜日・時間により最大8パターン登録することができます。

発信規制 : 自動発信の規制を設定できます。

発信/着信規制 : 自動発信・自動着信を両方とも規制する設定ができます。

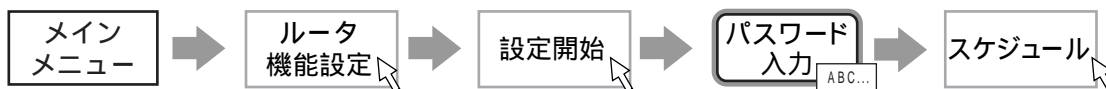
自動切断規制 : 通信中からの自動切断を行わないように規制する設定ができます。

～では、アクセスの規制を行うことができます。

では、各種時間帯サービス利用中に自動切断しないようにすることができます。

スケジュール機能による規制中でも、マニュアル操作による発信/切断はできます。

「スケジュール設定」画面を表示するには、詳細設定でスケジュール設定の「スケジュール」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
規制種別	規制する種別を設定する。	発信 / 発信/着信 / 自動切断	発信
曜日	規制する曜日を設定する。	月曜～日曜	なし
開始時間	規制する開始時間を設定する。	0:00～23:59	なし
終了時間	規制する終了時間を設定する。	0:00～23:59	なし



ワンポイント

午前8時から午後5時を規制対象とするには
開始時間に「08:00」を、終了時間に「17:00」を
設定します。

午後10時から翌朝の8時までを規制対象とするには
開始時間に「22:00」を、終了時間に「08:00」を
設定します。

終日規制の対象とするには
開始時間と終了時間に「00:00」を設定します。

ルータ機能設定

スケジュール設定を行うには

スケジュールを新規に登録する場合

- 1 「新規」ボタンをクリックします。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「スケジュール設定」画面に戻ります。

スケジュールを変更する場合

- 1 一覧から変更する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「スケジュール設定」画面に戻ります。

スケジュールを削除する場合

- 1 一覧から削除する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、確認します。
- 3 「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか?」という確認メッセージが表示されます。
- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「削除しました。有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
確認メッセージに対して「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定画面に戻ります。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「スケジュール設定」画面に戻ります。

1

規制種別

プルダウンメニューから、規制種別を選択します。

2

曜日

規制する曜日を選択します。曜日の設定は複数選択できます。

3

開始時間

規制を開始する時間を設定します。

4

終了時間

規制を終了する時間を設定します。



お知らせ

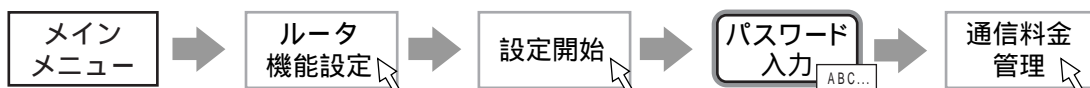
設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。
「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

通信料金管理設定

通信料金管理設定では、ルータに登録されているすべての接続先、または各接続先ごとに、月ごとの通信料金の上限を設定することができます。通信料金が上限金額に達すると発信規制を行います。接続先1つに対して1つの設定が可能で、すべてのインタフェースと合わせて最大17個まで登録可能です。

通信料金管理機能による規制中でも、マニュアル操作による発信はできます。

「通信料金管理設定」画面を表示するには、詳細設定でスケジュール設定の「通信料金管理」を選択します。



名称	説明	設定範囲	初期設定
接続先	通信料金管理を行う接続先を設定する。 すべての接続先の通信料金の合計に対して上限を設定する場合は「すべてのインタフェース」を設定する。	すべてのインタフェース / 接続先名	すべてのインタフェース
通信料金	通信可能な料金を設定する。	1~1000000(円)	なし
集計日	料金集計する日を設定する。	月末 / 1~31日	月末



お知らせ

通信料金は、通信終了時にINSネット64から通知される料金情報を利用します。目安ですので、通信事業者からの請求料金と一致しないことがあります。

通信料金管理設定を行うには

通信料金管理設定を新規に登録する場合

- 1 「新規」ボタンをクリックします。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「通信料金管理設定」画面に戻ります。
「集計日」の設定を変更する場合は、プルダウンメニューから集計日を選択後、「設定」ボタンをクリックします。

通信料金管理設定を変更する場合

- 1 一覧から変更する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「通信料金管理設定」画面に戻ります。
「集計日」の設定を変更する場合は、プルダウンメニューから集計日を選択後、「設定」ボタンをクリックします。

(次ページへつづく)

1
より
内線
電話
機能
に
使
う

2
詳
細
設
定
機
能
の

3
に
電
話
機
能
を
使
う
設
定
例

4
ル
ー
タ
機
能
の
詳
細
設
定

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
設
定
例
の
主
な

7
ご
参
考
に

(前ページのおつぎ)

通信料金管理設定を削除する場合

- 1 一覧から削除する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、確認します。
- 3 「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか?」という確認メッセージが表示されます。
- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「削除しました。有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
確認メッセージに対して「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定画面に戻ります。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「通信料金管理設定」画面に戻ります。
「集計日」の設定を変更する場合は、プルダウンメニューから集計日を選択後、「設定」ボタンをクリックします。

1 接続先

プルダウンメニューから、接続先を選択します。

2 通信料金

通信可能な料金を入力します。

お知らせ

通信料金は、通信終了時にINSネット64から通知される料金情報を利用します。目安ですので、通信事業者からの請求料金と一致しないことがあります。

通信料金は、「1」～「1 000 000」の範囲で入力してください。

3 集計日

プルダウンメニューから、集計日を選択します。

お知らせ

集計日「月末」に設定した場合、各月の月末で料金集計を行います。

お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。
「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

静的IPマスカレード設定

端末型ダイヤルアップ接続時に外部からの接続確立が必要なサービスを利用する場合、IPアドレス変換機能により接続の確立ができない場合があります。このようなときは、外部からの接続確立が必要なサービスに対して、静的IPマスカレード設定にTCP/UDPプロトコル、およびポート番号から内部のローカルIPアドレスへの変換を行うように設定することで、外部からの接続を確立することができます。最大16個まで設定可能です。

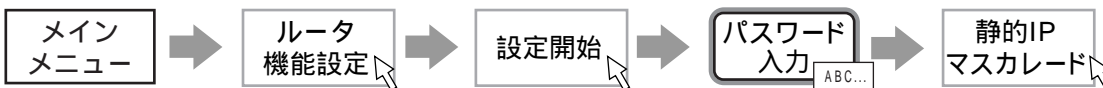
次のアプリケーションを利用して通信を行う場合は、静的IPマスカレード設定が必要です。

CU-SeeMe 1.0 (プロトコル: TCP/UDP、ポート番号: 7648)

NetMeeting 3.01 (プロトコル: TCP、ポート番号: 389、522、1503、1720、1731)

(注意: 5つのポート番号に対して静的IPマスカレード設定への登録が必要です)

「静的IPマスカレード設定」画面を表示するには、詳細設定でNAT設定の「静的IPマスカレード」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
プロトコル	変換するプロトコルを設定する。	TCP / UDP / TCP/UDP	TCP
ポート	TCPまたはUDPのポート番号を設定する。	0 ~ 65535 (10進数)	なし
IPアドレス	上記のプロトコルおよびポート番号と一致したパケットに対してアドレス変換を行うIPアドレスを設定する。	X.X.X.X (X:0 ~ 255 10進数)	なし



ワンポイント

NetMeetingの設定例

IPアドレス変換を行う端末型ダイヤルアップ接続にてNetMeetingを利用する場合の静的IPマスカレードの設定例は次のようになります。NetMeetingを利用するローカルネットワーク端末のIPアドレスは192.168.1.10とします。

NO.	プロトコル	ポート	IPアドレス
1	TCP	389	192.168.1.10
2	TCP	522	192.168.1.10
3	TCP	1503	192.168.1.10
4	TCP	1720	192.168.1.10
5	TCP	1731	192.168.1.10



お知らせ

変換するテーブルのIPアドレスは、固定で設定される必要があるため、DHCPサーバ設定によりIPアドレスを割り付ける場合は、必ず「DHCP割り付けテーブル」で静的にIPアドレスを割り付けるように設定してください。

CU-SeeMe、NetMeeting以外のポート番号についても静的IPマスカレードは設定可能ですが、他のサービスによっては接続できない場合があります。

CU-SeeMe、NetMeeting以外のサービスにおけるポート番号等、詳細については、各サービスのソフトメーカー、パソコンメーカーなどにお問い合わせください。

LAN型ダイヤルアップ接続では、静的IPマスカレードによるアドレス変換機能は利用できません。

ルータ機能設定

静的IPマスカレードテーブルを設定するには

静的IPマスカレードテーブルを新規に登録する場合

- 1 「新規」ボタンをクリックします。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「静的IPマスカレード設定」画面に戻ります。

静的IPマスカレードテーブルを変更する場合

- 1 一覧から変更する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「静的IPマスカレード設定」画面に戻ります。

静的IPマスカレードテーブルを削除する場合

- 1 一覧から削除する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、確認します。
- 3 「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか?」という確認メッセージが表示されます。
- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「削除しました。有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
確認メッセージに対して「キャンセル」ボタンをクリックすると設定画面に戻ります。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「静的IPマスカレード設定」画面に戻ります。

1

プロトコル

プルダウンメニューから、プロトコルを選択します。

2

ポート

ポート番号を入力します。

3

IPアドレス

IPアドレスを入力します。



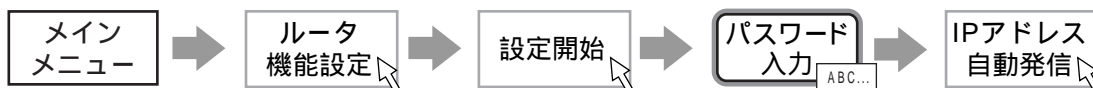
お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。
「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

IPアドレス自動発信設定

すべてのインターフェースから受信した送信先IPアドレスと本テーブルを比較し、該当する場合は指定された接続先の設定により自動発信を行います。IPアドレス自動発信用テーブルは最大16の登録が可能です。

「IPアドレス自動発信設定」画面を表示するには、詳細設定で回線関連設定の「IPアドレス自動発信」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
IPアドレス	自動発信を起動するIPアドレスの設定を行う。	X.X.X.X (X:0~255 10進数)	なし
ネットマスク	自動発信用IPアドレスに対するネットマスクの設定を行う。	1~32	なし
接続先	自動発信する接続先を選択する。	自動発信「する」に設定されている接続先から選択	なし

1 IPアドレスとネットマスク

IPアドレスを入力し、ネットマスクは、“/”の後ろに入力してください。

2 接続先

プルダウンメニューから、接続先を選択します。



お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

テーブルから削除する場合は、[Delete] キーまたは [BackSpace] キーなどでIPアドレスとネットマスクをクリア後、「設定」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

1
より
内線
電話
機能
を使
う

2
詳
細
電
話
機
能
の
設
定

3
に
電
話
機
能
を
使
っ
て
設
定
例

4
ル
ー
タ
機
能
の
詳
細
設
定

5
ル
ー
タ
の
運
用

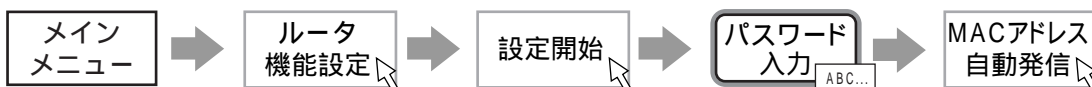
6
ル
ー
タ
の
主
な
設
定
例

7
ご
参
考
に

MACアドレス自動発信設定

すべてのインタフェースから受信した送信先MACアドレスと本テーブルを比較し、該当する場合は指定された接続先の設定により自動発信を行います。MACアドレス自動発信用アドレステーブルは最大16の登録が可能です。

「MACアドレス自動発信設定」画面を表示するには、詳細設定で回線関連設定の「MACアドレス自動発信」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
MACアドレス	自動発信を起動するMACアドレスの設定を行う。	XX XX XX XX XX XX (X: 0~F 16進数)	なし
接続先	自動発信する接続先を選択する。	自動発信「する」に設定されている接続先から選択	なし

1

MACアドレス

MACアドレスを入力します。

2

接続先

プルダウンメニューから、接続先を選択します。



お知らせ

MACアドレス自動発信設定はブリッジ接続の場合のみ有効となります。

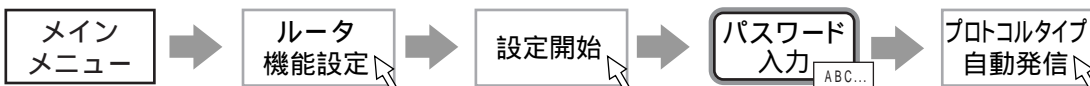
設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

テーブルから削除する場合は、[Delete] キーまたは [BackSpace] キーなどでIPアドレスとネットマスクをクリア後、「設定」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

プロトコルタイプ自動発信設定

LANインタフェースから受信したパケットのプロトコルと本テーブルを比較し該当する場合は指定された接続先の設定により自動発信を行います。プロトコルタイプ自動発信用テーブルは最大16の登録が可能です。「プロトコルタイプ自動発信設定」画面を表示するには、詳細設定で回線関連設定の「プロトコルタイプ自動発信」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
IPパケット	IPパケットによる自動発信を行うか設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (自動発信を行う場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>
NetWareパケット	NetWareパケットによる自動発信を行うか設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (自動発信を行う場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>
AppleTalkパケット	AppleTalkパケットによる自動発信を行うか設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (自動発信を行う場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>

1 IPパケット

IPパケットによる自動発信を行う場合、にします。

2 NetWareパケット

NetWareパケットによる自動発信を行う場合、にします。

3 AppleTalkパケット

AppleTalkパケットによる自動発信を行う場合、にします。



お知らせ

プロトコルタイプ自動発信設定はブリッジ接続の場合のみ有効となります。

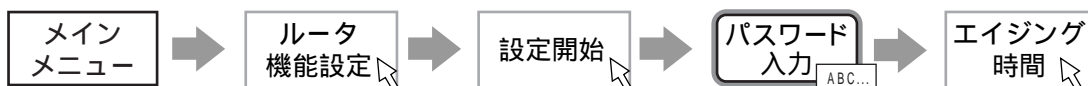
設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

エイジング時間設定

システムのMACアドレスのエイジング時間を設定します。エイジング時間が設定値を超えた場合に、ダイナミックMACアドレステーブルから削除されるようになります。

「エイジング時間設定」画面を表示するには、詳細設定でブリッジ関連設定の「エイジング時間」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
エイジング時間	各インタフェースにより学習したMACアドレスのエイジング時間(生存時間)(秒)の設定を行う。	0~65535秒	300秒

1

エイジング時間

エイジング時間を入力します。



お知らせ

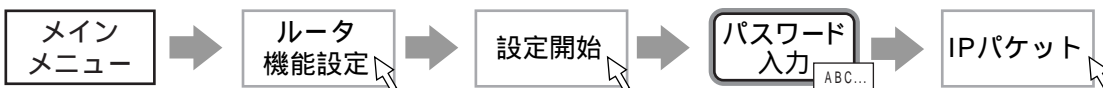
設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

IPパケットフィルタリング設定

IPパケットのフィルタリングは、すべてのインタフェース / LANインタフェース / 接続先(WANインタフェース)に対して設定することができ、あらかじめ登録しておいた最大32個のフィルタリング設定から選択します。フィルタリングは、送信先IPアドレス、送信元IPアドレス、プロトコルID、送信先ポート、送信元ポートごとに設定することができます。またフィルタリングするパケットの方向、およびフィルタリングの設定内容と一致した場合の動作の設定を行います。フィルタリングの動作の詳細については「フィルタリングについて」(P141)を参照してください。

「IPパケットフィルタリング設定」画面を表示するには、詳細設定でフィルタリング設定の「IPパケット」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
送信先IPアドレス ネットマスク	フィルタリングするパケットの送信先IPアドレスを設定する。 「アドレス入力」を設定した場合は、送信先IPアドレス (X.X.X.X、X : 0 ~ 255、10進数) とネットマスク (1 ~ 32) を入力する。	指定なし / アドレス入力	指定なし
送信元IPアドレス ネットマスク	フィルタリングするパケットの送信元IPアドレスを設定する。 「アドレス入力」を設定した場合は、送信元IPアドレス (X.X.X.X、X : 0 ~ 255、10進数) とネットマスク (1 ~ 32) を入力する。	指定なし / アドレス入力	指定なし
プロトコルID	フィルタリングするパケットのプロトコルIDを設定する。 「その他」を設定した場合は、プロトコルID (0 ~ 255) を入力する。	指定なし / TCP / UDP / その他	指定なし
送信先ポート	フィルタリングするパケットの送信先ポートを指定する。 「その他」を設定した場合は、以下のように送信先ポートの範囲指定 (X) を設定する。 ・プロトコル : TCP / UDP / TCP/UDP ・範囲指定 : ポート番号 = X ポート番号 > X ポート番号 < X ポート番号 < X < ポート番号 ポート番号は、0 ~ 65535の範囲で入力する。	指定なし / FTP / TELNET / DNS / GOPHER / HTTP / POP3 / NetBIOS / SNMP / その他	指定なし
送信元ポート	フィルタリングするパケットの送信元ポートを指定する。 「その他」を設定した場合は、以下のように送信元ポートの範囲指定 (X) を設定する。 ・プロトコル : TCP / UDP / TCP/UDP ・範囲指定 : ポート番号 = X ポート番号 > X ポート番号 < X ポート番号 < X < ポート番号 ポート番号は、0 ~ 65535の範囲で入力する。	指定なし / FTP / TELNET / DNS / GOPHER / HTTP / POP3 / NetBIOS / SNMP / その他	指定なし
フィルタリング方向	フィルタリングするパケットの方向を設定する。	双方向 / 送信 / 受信	双方向
フィルタリング種別	設定内容と一致した場合の動作を設定する。 「通信中のみフォワード」を設定した場合は、ISDN回線が接続されていればフォワーディングし、切断されていればフィルタリングする。	フィルタリング / フォワーディング / 通信中のみフォワード	フィルタリング
フィルタリング設定テーブル	すべてのインタフェース / LANインタフェース / 接続先に対し、設定したフィルタリングを行うかどうかを設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (フィルタリングする場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>



お知らせ

IPパケットフィルタリング設定では、初期設定によりLANインタフェースにNetBIOSフィルタリングが設定されています。

NetBIOSフィルタリングの設定は次のようになります。

設定No.1

- 送信先ポート : NetBIOS
- フィルタリング方向 : 双方向
- フィルタリング種別 : フィルタリング

上記の設定項目以外は「指定なし」に設定されます。

設定No.2

- 送信元ポート : NetBIOS
- フィルタリング方向 : 双方向
- フィルタリング種別 : フィルタリング

上記の設定項目以外は「指定なし」に設定されます。

NetBIOSフィルタリングの設定を解除するには、フィルタリング設定テーブルでLANインタフェースのNetBIOSフィルタリング設定を□にして無効にするか、「フィルタリング設定をするには」を参照して、NetBIOSフィルタリング設定を削除してください。

フィルタリング設定をするには

フィルタリング設定を新規に登録する場合

- 1 「新規」ボタンをクリックします。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「IPパケットフィルタリング設定」画面に戻ります。

フィルタリング設定を変更する場合

- 1 一覧から変更する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「IPパケットフィルタリング設定」画面に戻ります。

フィルタリング設定を削除する場合

- 1 一覧から削除する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、確認します。
- 3 「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか?」という確認メッセージが表示されます。
- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
「OKボタン」をクリックすると、「削除しました。有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
確認メッセージに対して「キャンセル」ボタンをクリックすると設定画面に戻ります。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「IPパケットフィルタリング設定」画面が表示されます。

送信先IPアドレスとネットマスク

- プルダウンメニューから、送信先IPアドレスを指定するかどうかを選択します。
- 送信先IPアドレス「IPアドレス」に設定した場合、IPアドレスを入力し、ネットマスクは、“ / ” の後ろに入力してください。



お知らせ

送信先IPアドレス「指定なし」を選択した場合、すべての送信先IPアドレスがフィルタリング対象になります。

送信元IPアドレスとネットマスク

- プルダウンメニューから、送信元IPアドレスを指定するかどうかを選択します。
- 送信元IPアドレス「IPアドレス」に設定した場合、IPアドレスを入力し、ネットマスクは、“ / ” の後ろに入力してください。



お知らせ

送信元IPアドレス「指定なし」を選択した場合、すべての送信元IPアドレスがフィルタリング対象になります。

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

3

プロトコルID

- プルダウンメニューから、プロトコルIDを選択します。
- プロトコルID「その他」を選択した場合、プロトコルIDを入力します。



お知らせ

プロトコルID「指定なし」を選択した場合、すべてのIPプロトコルがフィルタリング対象になります。

4

送信先ポート

- プルダウンメニューから、送信先ポートを選択します。
- 送信先ポート「その他」を選択した場合、プロトコルとポート範囲を指定します。



お知らせ

送信先ポート「指定なし」を選択した場合、すべての送信先ポートがフィルタリング対象になります。送信先ポート「その他」を選択し、ポート範囲を指定する場合、プルダウンメニューから「<X<」を選択したときは、「<X<」の前後の入力欄とも設定してください。

5

送信元ポート

- プルダウンメニューから、送信元ポートを選択します。
- 送信元ポート「その他」を選択した場合、プロトコルとポート範囲を指定します。



お知らせ

送信元ポート「指定なし」を選択した場合、すべての送信元ポートがフィルタリング対象になります。送信元ポート「その他」を選択し、ポート範囲を指定する場合、プルダウンメニューから「<X<」を選択したときは、「<X<」の前後の入力欄とも設定してください。

6

フィルタリング方向

プルダウンメニューから、フィルタリング方向を選択します。

フィルタリング種別

プルダウンメニューから、フィルタリング種別を選択します。



ワンポイント

フィルタリング種別について

フィルタリングテーブルのフィルタリング種別について以下に示します。テーブルの検索も以下の順番により行われます。

フォワーディング : 条件に一致したパケットはすべてフォワーディング（通過）します。

通信中のみフォワード : 条件に一致したパケットに対して、接続先が通信中の場合はフォワーディング、通信中以外の場合はフィルタリングを行います。通信中以外の場合はフィルタリングされるため、自動発信は行われません。

フィルタリング : 条件に一致したパケットをフィルタリング（破棄）します。ルーティングや自動発信設定と一致しても自動発信は行われません。

フィルタリング設定テーブルで複数のフィルタリング設定を選択した場合は、フィルタリング種別が「フォワーディング」、「通信中のみフォワード」、「フィルタリング」の順番に検索を行います。

なお、フィルタリング設定に一致しないパケットについてはすべてフォワーディングされます。

7



お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

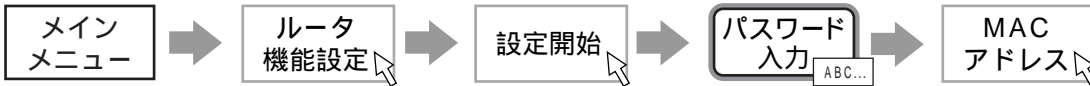
「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

フィルタリングを行うには、フィルタリング設定テーブルで使用するフィルタリングを選択後、「設定」ボタンをクリックしてください。フィルタリング設定テーブルの設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。

MACアドレスフィルタリング設定

MACアドレスのフィルタリングは、すべてのインタフェース / LANインタフェース / 接続先に対して設定することができ、それぞれ最大32個のフィルタリングが可能です。フィルタリングの動作の詳細については「フィルタリングについて」(P141)を参照してください。

「MACアドレスフィルタリング設定」画面を表示するには、詳細設定でフィルタリング設定の「MACアドレス」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
送信先MACアドレス	フィルタリングするパケットの送信先MACアドレスを設定する。「アドレス入力」を選択した場合は、MACアドレス (XX XX XX XX XX XX, X: 0~F、16進数)を入力する。	指定なし / アドレス入力	指定なし
送信元MACアドレス	フィルタリングするパケットの送信元MACアドレスを設定する。「アドレス入力」を選択した場合は、MACアドレス (XX XX XX XX XX XX, X: 0~F、16進数)を入力する。	指定なし / アドレス入力	指定なし
フィルタリング方向	フィルタリングするパケットの方向を設定する。	双方向 / 送信 / 受信	双方向
フィルタリング種別	設定内容と一致した場合の動作を設定する。「通信中のみフォワード」を設定した場合は、ISDN回線が接続されていればフォワーディングし、切断されていればフィルタリングする。	フィルタリング / フォワーディング / 通信中のみフォワード	フィルタリング
フィルタリング設定テーブル	すべてのインタフェース / LANインタフェース / 接続先に対し、設定したフィルタリングを行うかどうかを設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (フィルタリングする場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>

フィルタリング設定をするには

フィルタリング設定を新規に登録する場合

- 1 「新規」ボタンをクリックします。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「MACアドレスフィルタリング設定」画面に戻ります。

フィルタリング設定を変更する場合

- 1 一覧から変更する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「MACアドレスフィルタリング設定」画面に戻ります。

フィルタリング設定を削除する場合

- 1 一覧から削除する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、確認します。
- 3 「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか?」という確認メッセージが表示されます。
- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「削除しました。有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
確認メッセージに対して「キャンセル」ボタンをクリックすると設定画面に戻ります。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「MACアドレスフィルタリング設定」画面に戻ります。

送信先MACアドレス

- プルダウンメニューから、送信先MACアドレスを指定するかどうかを選択します。
- 送信先MACアドレス「アドレス入力」を選択した場合、MACアドレスを入力します。

1



お知らせ

送信先MACアドレス「指定なし」を選択した場合、すべての送信先MACアドレスがフィルタリング対象になります。

送信元MACアドレス

- プルダウンメニューから、送信元MACアドレスを指定するかどうかを選択します。
- 送信元MACアドレス「アドレス入力」を選択した場合、MACアドレスを入力します。

2



お知らせ

送信元MACアドレス「指定なし」を選択した場合、すべての送信元MACアドレスがフィルタリング対象になります。

3

フィルタリング方向

プルダウンメニューから、フィルタリング方向を選択します。

フィルタリング種別

プルダウンメニューから、フィルタリング種別を選択します。



ワンポイント

フィルタリング種別について

フィルタリングテーブルのフィルタリング種別について以下に示します。テーブルの検索も以下の順番により行われます。

フォワーディング : 条件に一致したパケットはすべてフォワーディング(通過)します。

通信中のみフォワード : 条件に一致したパケットに対して、接続先が通信中の場合はフォワーディング、通信中以外の場合はフィルタリングを行います。通信中以外の場合はフィルタリングされるため、自動発信は行われません。

フィルタリング : 条件に一致したパケットをフィルタリング(破棄)します。ルーティングや自動発信設定と一致しても自動発信は行われません。

フィルタリング設定テーブルで複数のフィルタリング設定を選択した場合は、フィルタリング種別が「フォワーディング」、「通信中のみフォワード」、「フィルタリング」の順番に検索を行います。

なお、フィルタリング設定に一致しないパケットについてはすべてフォワーディングされます。

4



お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

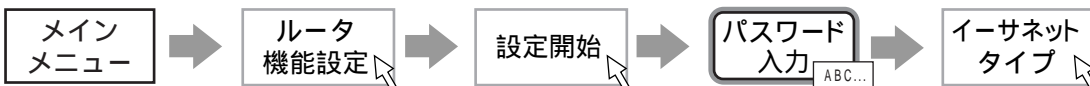
「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

フィルタリングを行うには、フィルタリング設定テーブルで使用するフィルタリングを選択後、「設定」ボタンをクリックしてください。フィルタリング設定テーブルの設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。

イーサネットタイプフィルタリング設定

イーサネットタイプのフィルタリングは、すべてのインタフェース / LANインタフェース / 接続先 (WANインタフェース) に対して設定することができ、それぞれ最大16個のフィルタリングが可能です。フィルタリングの動作の詳細については「フィルタリングについて」(P141)を参照してください。

「イーサネットタイプフィルタリング設定」画面を表示するには、詳細設定でフィルタリング設定の「イーサネットタイプ」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
イーサネットタイプ	フィルタリングするパケットのイーサネットタイプを設定する。「タイプ入力」を選択した場合は、イーサネットタイプ (XX XX、16進数) を入力する。	指定なし / タイプ入力	指定なし
フィルタリング方向	フィルタリングするパケットの方向を設定する。	双方向 / 送信 / 受信	双方向
フィルタリング種別	設定内容と一致した場合の動作を設定する。「通信中のみフォワード」を設定した場合は、ISDN回線が接続されていればフォワーディングし、切断されていればフィルタリングする。	フィルタリング / フォワーディング / 通信中のみフォワード	フィルタリング
フィルタリング設定テーブル	すべてのインタフェース / LANインタフェース / 接続先 (WANインタフェース) に対し、設定したフィルタリングを行うかどうかを設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (フィルタリングする場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>

フィルタリング設定をするには

フィルタリング設定を新規に登録する場合

- 1 「新規」ボタンをクリックします。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「イーサネットタイプフィルタリング設定」画面に戻ります。

フィルタリング設定を変更する場合

- 1 一覧から変更する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、各項目の入力を行います。
- 3 「設定」ボタンをクリックします。
「設定」ボタンをクリックすると、「有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「イーサネットタイプフィルタリング設定」画面に戻ります。

フィルタリング設定を削除する場合

- 1 一覧から削除する設定Noを選択します。
- 2 設定画面が表示されるので、確認します。
- 3 「削除」ボタンをクリックします。
「削除」ボタンをクリックすると、「この設定を削除します。よろしいですか?」という確認メッセージが表示されます。

- 4 確認メッセージに対して「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「削除しました。有効とするには「設定データ保存」を行ってください。」という確認メッセージが表示されます。
確認メッセージに対して「キャンセル」ボタンをクリックすると設定画面に戻ります。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
「OK」ボタンをクリックすると、「イーサネットタイプフィルタリング設定」画面に戻ります。

イーサネットタイプ

- プルダウンメニューから、イーサネットタイプを指定するかどうかを選択します。
- イーサネットタイプ「タイプ入力」を選択した場合、イーサネットタイプを入力します。



お知らせ

イーサネットタイプ「指定なし」を選択した場合、すべてのイーサネットタイプがフィルタリング対象になります。

1

2

フィルタリング方向

プルダウンメニューから、フィルタリング方向を選択します。

3

フィルタリング種別

プルダウンメニューから、フィルタリング種別を選択します。



ワンポイント

フィルタリング種別について

フィルタリングテーブルのフィルタリング種別について以下に示します。テーブルの検索も以下の順番により行われます。

フォワーディング : 条件に一致したパケットはすべてフォワーディング（通過）します。

通信中のみフォワード : 条件に一致したパケットに対して、接続先が通信中の場合はフォワーディング、通信中以外の場合はフィルタリングを行います。通信中以外の場合はフィルタリングされるため、自動発信は行われません。

フィルタリング : 条件に一致したパケットをフィルタリング（破棄）します。ルーティングや自動発信設定と一致しても自動発信は行われません。

フィルタリング設定テーブルで複数のフィルタリング設定を選択した場合は、フィルタリング種別が「フォワーディング」、「通信中のみフォワード」、「フィルタリング」の順番に検索を行います。

なお、フィルタリング設定に一致しないパケットについてはすべてフォワーディングされます。



お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

フィルタリングを行うには、フィルタリング設定テーブルで使用するフィルタリングを選択後、「設定」ボタンをクリックしてください。フィルタリング設定テーブルの設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。

1
より
内線
電話
機能
に
使
つ

2
詳
電
話
機
能
の
設
定

3
に
電
話
機
能
を
使
つ
設
定
例

4
詳
ル
ー
タ
機
能
の
設
定

5
ル
ー
タ
の
運
用

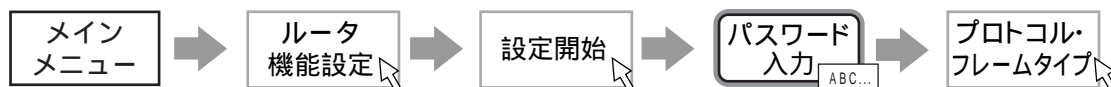
6
ル
ー
タ
の
主
な
設
定
例

7
ご
参
考
に

プロトコル/フレームタイプフィルタリング設定

プロトコル/フレームタイプフィルタリングは、すべてのインタフェース/LANインタフェース/接続先(WANインタフェース)に対して設定することができます。フィルタリングの動作の詳細については「フィルタリングについて」(P141)を参照してください。

「プロトコル/フレームタイプフィルタリング設定」画面を表示するには、詳細設定でフィルタリング設定の「プロトコル・フレームタイプ」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
IPプロトコル	IPに関連するパケットに対してフィルタリングを行うか設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (フィルタリングする場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>
NetWareプロトコル	NetWareに関連するパケットに対してフィルタリングを行うか設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (フィルタリングする場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>
AppleTalkプロトコル	AppleTalkに関連するパケットに対してフィルタリングを行うか設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (フィルタリングする場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>
その他	IP/NetWare/AppleTalkパケット以外のすべてのパケットに対してフィルタリングを行うか設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (フィルタリングする場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>
IEEE802.3フレームタイプ	イーサネットフレーム以外 (IEEE802.3フレームパケット) のパケットに対してフィルタリングを行うか設定する。	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> (フィルタリングする場合は <input checked="" type="checkbox"/> にする)	<input type="checkbox"/>

1

IP

IPプロトコルパケットに対してフィルタリングを行う場合、にします。

2

NetWare

NetWareプロトコルパケットに対してフィルタリングを行う場合、にします。

3

AppleTalk

AppleTalkプロトコルパケットに対してフィルタリングを行う場合、にします。

4

その他

IP / NetWare / AppleTalkプロトコル以外のすべてのパケットに対してフィルタリングを行う場合、にします。

5

IEEE802.3

IEEE802.3フレームパケットに対してフィルタリングを行う場合、にします。



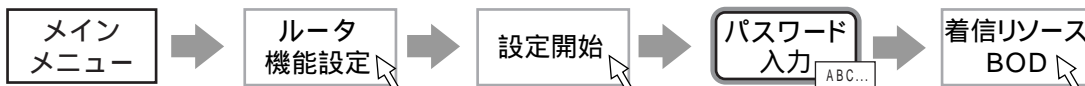
お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

着信リソースBOD設定

着信リソースBOD設定は、ルータが2Bch <MP> 接続しているときに電話がかかってきた場合、通信チャンネルを電話用に1本空けるかどうかを設定します。お買い求め時の設定は「しない」になっています。



名称	説明	設定範囲	初期設定
着信リソースBOD	着信リソースBOD機能を行うか設定する。	する / しない	しない

1 着信リソースBOD機能

着信リソースBOD機能を使用するかどうかを選択します。

お知らせ

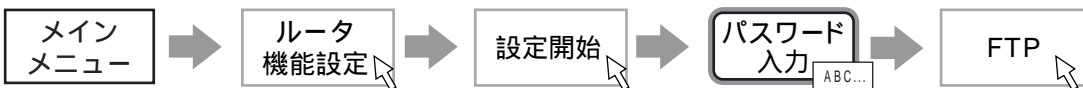
設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

FTP設定

FTP設定は、PACSIAの機能をバージョンアップ(←P108)するためのFTP転送時に使用するログイン名とパスワードを設定します。

「FTP設定」画面を表示するには、詳細設定でシステム設定の「FTP」をクリックします。



名称	説明	設定範囲	初期設定
FTPログイン	FTP転送をするかどうかを設定します。	する / しない	しない
ログイン名	主装置のFTPサーバにアクセスするログイン名を設定する。	最大8文字(A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	なし
新しいパスワード	主装置のFTPサーバにアクセスするパスワードを設定する。	最大8文字(A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	なし
確認のため再入力	主装置のFTPサーバにアクセスするパスワードを入力する。	最大8文字(A~Z、a~z、0~9、-、/、_)	なし

1 ログイン名

ログイン名を入力します。

2 新しいパスワード

新しいパスワードを入力します。



お知らせ

パスワードは画面には「*」で表示されます。

3 確認のため再入力

確認のため、新しいパスワードを再度入力します。



お知らせ

パスワードは画面には「*」で表示されます。



お知らせ

設定を有効にするには、設定データ保存を行ってください。設定データ保存を行うには、詳細設定メニューで「設定データ保存」をクリック後、表示された画面の「保存」ボタンをクリックしてください。

「元に戻す」ボタンをクリックすると設定をやり直すことができます。

動作確認前に、もう一度次の項目をチェックしてください

主装置のLED表示（前面のランプ表示）をご確認ください。正常に動作していますか？（かんたんガイド⇐P23）
10BASE-Tコネクタにケーブルが接続されていますか？（かんたんガイド⇐P24）

**お知らせ**

主装置の動作は、本体のLED表示や「運用時に利用できる操作」（⇐下欄）を利用して確認することもできます。

運用時に利用できる操作

ルータ設定メニューによりマニュアル操作やレポート表示が可能です。

運用時に利用できる操作は以下のとおりです

- PING
- マニュアル操作（発信/切断）
- レポート表示（動作状態、統計情報など）
- 設定一覧表示

入力方法は以下のとおりです。

パソコンからの入力は、ASCII文字のみですので、シフトJIS（漢字、ひらがな、カナ）は入力しないでください。

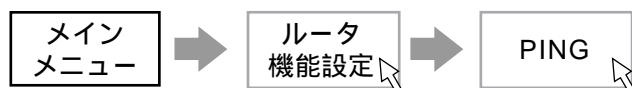
- 1 パソコンのブラウザソフトを起動します。
使用するブラウザは以下のものを推奨します。
 - Microsoft Internet Explorer 5以上
 - Netscape Navigator 4.0以上
- 2 ブラウザソフトの「アドレス」または「場所」に主装置のIPアドレスを入力し、[Return] キーを押します。
主装置のLANインタフェースに対して設定したIPアドレスを入力してください。
お買い求め時の主装置のIPアドレスは「192.168.1.254」です。
画面にはメインメニューが表示されます。
- 3 メインメニューから各操作を行います。
操作方法は各項目を参照してください。

**お知らせ**

JavaScriptの設定は、必ず「有効」にしてご利用ください。
表示される画面は、使用するブラウザソフトにより多少異なります。

PINGを行うには

PINGを行うと、指定したIPアドレスの相手に制御用のデータを送り、その応答が正しく返ってくるかどうかによって、相手と接続されているかどうかを調べることができます。



1 メインメニューで「ルータ機能設定」ボタンをクリックします。

ルータ設定メニューが表示されます。

2 ルータ設定メニューで「PING」ボタンをクリックします。

IPアドレス入力画面が表示されます。

3 PINGを行うIPアドレスを入力します。

4 「PING開始」ボタンをクリックします。

- 64バイトのICMPパケットを5回送出し、結果を表示します。

- 結果の見方は以下のとおりです。

「Reply」 : PINGの応答が正しく返されています。

「Timeout」 : PINGの応答を受信せずにタイムアウトしました。

「Network is unreachable」 : 要求されたIPアドレスの経路先が見つかりません。

「Receive Data Error」 : 応答データが異常です。

**お知らせ**

結果画面で「リトライ」ボタンをクリックすると再び同じIPアドレスに対してPINGを行います。

1
より
内線
電話
便利
に
使
え
る

2
電
話
機
能
の
詳
細
設
定

3
電
話
機
能
を
便
利
に
使
え
る
設
定
例

4
ル
ー
タ
機
能
の
詳
細
設
定

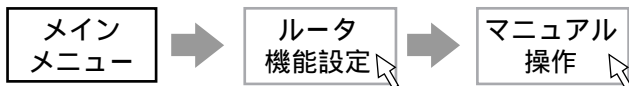
5
ル
ー
タ
の
運
用

6
ル
ー
タ
の
主
な
設
定
例

7
ご
参
考
に

マニュアル操作を行うには

マニュアル操作では、設定された回線インタフェースを指定して発信、切断を行うことができます。



1 メインメニューで「ルータ機能設定」ボタンをクリックします。
ルータ設定メニューが表示されます。

2 ルータ設定メニューで「マニュアル操作」ボタンをクリックします。
マニュアル操作メニューが表示されます。

3 発信または切断を選択します。
「発信」：マニュアル操作による回線の接続を行います。
「切断」：マニュアル操作による回線の切断を行います。

マニュアル発信を行う場合

設定された接続先を指定してマニュアル発信を行うことができます。

1 マニュアル操作メニューで「発信」を選択します。
マニュアル発信画面が表示されます。現在の回線の使用状態が表示されます。

2 プルダウンメニューから発信する接続先名を選択します。
マニュアル発信を行う接続先名を選択します。

お知らせ

プルダウンメニューには自動発信「する」の設定で、現在接続されていない接続先名のみを表示します。

3 「発信」ボタンをクリックします。
マニュアル発信を行い、その結果を表示します。

お知らせ

発信結果に「発信しました」と表示されても、空き回線がない場合や相手電話番号が正しく設定されていない場合などは回線が接続されません。回線の接続状態は、主装置前面のランプ表示（かんたんガイド➡P23）やログ表示（➡P104）により確認することができます。

マニュアル切断を行う場合

通信中の接続先を指定してマニュアル切断を行うことができます。

- 1 マニュアル操作メニューで「切断」を選択します。
マニュアル切断画面が表示されます。現在の回線の使用状態が表示されます。

2

- 2 プルダウンメニューから切断する接続先名を選択します。
マニュアル切断を行う接続先名を選択します。



お知らせ

プルダウンメニューには現在通信中の接続先名のみを表示します。

3

- 3 「切断」ボタンをクリックします。
マニュアル切断を行い、その結果を表示します。

1
より
内線
便利
に機
を使
う

2
詳
電
細
話
設
定
機
能
の

3
に
電
使
話
機
能
を
便
利
に
設
定
例

4
ル
詳
細
設
定
機
能
の

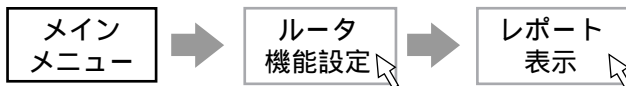
5
ル
ー
タ
の
運
用

6
設
定
例
ル
ー
タ
の
主
な

7
ご
参
考
に

レポート表示を行うには

レポート表示では、各種統計情報やログなどを表示することができます。



1 メインメニューで「ルータ機能設定」ボタンをクリックします。

ルータ設定メニューが表示されます。

2 ルータ設定メニューで「レポート表示」ボタンをクリックします。

レポート表示メニューが表示されます。

表示する項目を選択します。

表示したい項目をメニューの中から選択してください。

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 「接続先情報」 | : 接続先の状態を表示します。 |
| 「パケット統計情報」 | : 各接続先の送受信パケット数を表示します。 |
| 「フィルタリング情報」 | : 各接続先の送受信フィルタリング数を表示します。 |
| 「ログ表示」 | : 主装置の動作履歴を表示します。 |
| 「IPルーティング情報」 | : ルーティング情報を表示します。 |
| 「通信料金情報」 | : 主装置の通信料金を表示します。 |
| 「DNSキャッシュテーブル」 | : DNSキャッシュテーブルの登録内容を表示します。 |
| 「DHCP割り付け状態」 | : DHCPによるIPアドレス割り付け状態を表示します。 |
| 「ARPテーブル」 | : ARPテーブルの登録内容を表示します。 |
| 「ダイナミックMACアドレス」 | : ダイナミックMACアドレステーブルの登録内容を表示します。 |

接続先情報を表示する場合

接続先の状態を表示します。

1 レポート表示メニューで「接続先情報」を選択します。

接続先状態、回線状態を表示します。

- | | |
|-----------|---------------------|
| 「LAN接続状態」 | : LANの状態を表示します。 |
| 「接続先状態」 | : 使用中の接続先の状態を表示します。 |
| 「回線状態」 | : 回線の状態を表示します。 |

パケット統計情報を表示する場合

各接続先の送受信パケット数を表示します。

レポート表示メニューで「パケット統計情報」を選択します。

- LANおよび接続先の統計情報が表示されます。
- 画面表示される情報は次のとおりです。
 - 「累計」：インターフェースで送信 / 受信したパケット数
 - 「失敗」：送信 / 受信でエラーが発生したパケット数
 - 「破棄」：バッファ不足により受信できなかったパケット数

1



お知らせ

「クリア」ボタンをクリックするとすべてのパケット統計情報をクリアします。

「失敗」や「破棄」の値が多い場合は、ネットワークのトラフィックが異常に高くなっている可能性があります。

フィルタリング情報を表示する場合

各接続先の送受信フィルタリング数を表示します。

レポート表示メニューで「フィルタリング情報」を選択します。

LANおよび接続先の統計情報が表示されます。フィルタリング情報では、フィルタリング設定により破棄されたパケット数を確認することができます。

1



お知らせ

「接続先」のフィルタリング情報は、設定されているすべての接続先の総和を表示します。

「クリア」ボタンをクリックするとすべてのフィルタリング情報をクリアします。

ログを表示する場合

主装置の動作履歴を表示します。

レポート表示メニューで「ログ表示」を選択します。

- 主装置の動作履歴が表示されます。(最大160行表示)
- 画面表示される主な情報は次のとおりです。
 - 「システム起動」 : システムが正しく起動したことを表します。
 - 「< x x x > 発信」 : 相手電話番号「 x x x 」に対して発信したことを表します。
 - 「< x x x > 着信」 : 相手電話番号「 x x x 」から着信したことを表します。
 - 「通信中」 : 回線が通信状態になったことを表します。
 - 「切断 ¥ x x x 」 : 回線が切断されたことを表します。回線から通信料金が通知された場合は料金を表示します。
 - 「< x x x > 自動再発信規制中」 : JATEの規制により自動再発信が規制されたことを表します。
 - 「LCP Negotiation Start」 : LCPのネゴシエーションが開始されたことを表します。
 - 「LCP Open」 : LCPのネゴシエーションが成功したことを表します。
 - 「LCP Down or Terminate」 : LCPのネゴシエーションが終了したことを表します。
 - 「MP Open」 : MPネゴシエーションが成功したことを表します。
 - 「Authentication Start」 : ログイン名/パスワードによる認証ネゴシエーションが開始されたことを表します。
 - 「Authentication Success」 : 認証ネゴシエーションが成功したことを表します。
 - 「Authentication Error」 : 認証ネゴシエーションが失敗したことを表します。
 - 「IPCP Negotiation Start」 : IPCPのネゴシエーションが開始されたことを表します。
 - 「IPCP Open」 : IPCPのネゴシエーションが成功したことを表します。
 - 「IPCP Down or Terminate」 : IPCPのネゴシエーションが終了したことを表します。

1



お知らせ

「クリア」ボタンをクリックするとすべてのログ情報をクリアします。
ログ表示は電源を切るとクリアされます。

IPルーティング情報を表示する場合

ルーティング情報を表示します。

レポート表示メニューで「IPルーティング情報」を選択します。

設定した接続先IPルーティング情報、スタティックIPルーティング情報、および学習したダイナミックIPルーティング情報が表示されます。

1

通信料金情報を表示する場合

主装置の通信料金を表示します。

レポート表示メニューで「通信料金情報」を選択します。

通信料金情報が表示されます。



お知らせ

表示される通信料金は、各接続先に対してダイヤルアップ接続したときに、回線(INSネット64)から通知された料金の月ごとの合計です。この集計日(×日)は「通信料金管理設定」(P77)により設定します。

通信料金は当月と過去3か月分について表示されます。

「クリア」ボタンをクリックするとすべての通信料金情報がクリアされます。

通信料金はあくまでも目安です。通信料金割引サービスをご利用されている場合でも、割引前の料金が表示される場合があります。

通信料金が高い場合には以下の方法により、通信料金を節約することができます。

- 自動切断条件を見直す
- 不要な発信を防ぐためパケットフィルタを設定する
- i・アイプランなどの通信料金割引サービスを利用する
- 発信規制時間帯を設定する

DNSキャッシュテーブルを表示する場合

DNSキャッシュテーブルの登録内容を表示します。

レポート表示メニューで「DNSキャッシュテーブル」を選択します。

保存されているホスト名とIPアドレスの組が表示されます。



お知らせ

「クリア」ボタンをクリックするとDNSキャッシュテーブルの情報がクリアされます。

DHCP割り付け状態を表示する場合

DHCPによるIPアドレス割り付け状態を表示します。

「削除」ボタンをクリックすることにより、選択したDHCP割り付け情報を削除します。使用されていないIPアドレスを削除することにより、再度割り付けが可能です。

「保存」ボタンをクリックすることにより、DHCPの割り付け情報をフラッシュメモリへ保存します。再起動などによりフラッシュメモリからDHCPの情報を読み出すため、以前に割り当てた同じアドレスを割り付けることができます。

割り付け表示の状態は、次のようになります。

- 仮割り当て : 提案したIPアドレスを持っている状態
- リース中 : 割り当てたIPアドレスを持っている状態
- リース終了 : リース時間の期限切れ、もしくは返却されたIPアドレス
- 重複 : 重複したIPアドレスを持っている状態
(割り当てを行おうとしたが、ネットワーク上に同じIPアドレスを持つ端末が存在する状態)
- 重複チェック中 : 重複があるかチェックしている状態

1

レポート表示メニューで「DHCP割り付け状態」を選択します。

DHCP割り付け状態が表示されます。

ARPテーブルを表示する場合

ARPテーブルの登録内容を表示します。

1

レポート表示メニューで「ARPテーブル」を選択します。

学習されているIPアドレスとMACアドレスの組が表示され、生存時間が秒単位で表示されます。

ダイナミックMACアドレステーブルを表示する場合

ダイナミックMACアドレステーブルの登録内容を表示します。

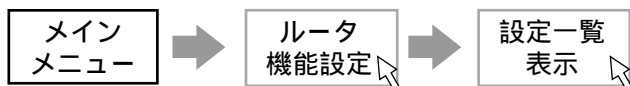
1

レポート表示メニューで「ダイナミックMACアドレス」を選択します。

学習されているダイナミックMACアドレステーブルが表示され、生存時間が秒単位で表示されます。

設定一覧表示を行うには

設定されているデータを一覧表示します。設定が有効なデータのみを表示します。



1 メインメニューで「ルータ機能設定」ボタンをクリックします。

ルータ設定メニューが表示されます。

2 ルータ設定メニューで「設定一覧表示」ボタンをクリックします。

設定されているデータが一覧表示されます。

画面表示される情報は次のとおりです。

- LAN設定
- 接続先設定
- 不特定着信設定
- ルーティング設定
- DHCPサーバ設定
- ProxyDNS設定
- DNS通知設定
- スケジュール設定
- 通信料金管理設定
- 静的IPマスカレード設定
- IPアドレス自動発信設定
- MACアドレス自動発信設定
- プロトコルタイプ自動発信設定
- エイジング時間設定
- IPパケットフィルタリング設定
- MACアドレスフィルタリング設定
- イーサネットタイプフィルタリング設定
- プロトコル・フレームタイプフィルタリング設定
- 着信リソースBOD設定
- FTP設定

1
より内線電話機に使用

2
電話機能の詳細設定の

3
電話機能を使用例を設定する

4
ルータ機能の詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な設定例

7
ご参考に

プログラムをバージョンアップするには

PACSLIAは、当社のホームページから最新のプログラムをダウンロードしてバージョンアップすることができます。プログラムファイルはいったんパソコンにダウンロードし、パソコンからの操作でバージョンアップを行います。

バージョンアップの手順 (Windows® 98の場合)

- ① FTP設定 (P97) により、FTPログイン時のログイン名/パスワードを設定し保存します。
- ② 当社のホームページから最新のプログラムファイルをダウンロードし、パソコンに新しいフォルダを作成して保存しておきます。当社ホームページは以下のとおりです。
<http://www.ntt-east.co.jp/ced/>
<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>
- ③ ダウンロードしたフォルダを開いて、ファイルをダブルクリックしてください。バージョンアップに必要ないくつかのファイルが、プログラムファイルのあるフォルダ内に自己解凍されます。
具体的なバージョンアップの手順は「readme.txt」に記述してありますので、よく読んでから操作を行ってください。
- ④ readme.txtに従って、最新のプログラムファイルを主装置に転送します。
プログラムの転送は約3分かかります。
- ⑤ 転送が正常に終了したら、主装置の電源スイッチをOFFにします。
- ⑥ 主装置の電源を再度ONにします。
プログラムの書き換えが実行され、正常に書き換えられると新しいプログラムで動作するようになります。



お知らせ

主装置へ転送するプログラムファイルは「電話機能プログラム」と「ルータ機能プログラム」の2種類があります。2つとも最新のプログラムに書き換えるには、手順 ~ をもう一度実行する必要があります。

手順 または の途中で、電源が切断されるなど正常に操作を進めることができなかつたときは、もう一度その手順から操作してください。

バージョンアップの手順（市販FTPクライアントソフトを使用した場合）

- 1 FTP設定(☞P97)により、FTPログイン時のログイン名/パスワードを設定し保存します。
- 2 当社のホームページから最新のプログラムファイルをダウンロードし、パソコンに新しいフォルダを作成して保存しておきます。当社ホームページは以下のとおりです。
<http://www.ntt-east.co.jp/ced/>
<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>
- 3 ダウンロードしたフォルダを開いて、ファイルをダブルクリックしてください。バージョンアップに必要ないくつかのファイルが、プログラムファイルのあるフォルダ内に自己解凍されます。解凍してできた「readme.txt」の内容を確認してください。
- 4 パソコンのFTPクライアントソフトを起動します。
- 5 FTPクライアントソフトへ主装置のIPアドレス、ログイン名/パスワードを設定します。
- 6 FTPクライアントソフトにより主装置へ接続します。
- 7 ローカルディレクトリとリモートディレクトリを指定します。リモートディレクトリはダウンロードするプログラムの種類により以下ようになります。
電話機能プログラム : /business
ルータ機能プログラム : /router
「readme.txt」の内容をよく読み、正しいディレクトリに転送してください。
- 8 ローカルディレクトリのプログラムファイルをリモートディレクトリへ転送します。プログラムの転送は約3分かかります。
- 9 転送が正常に終了したら、FTPクライアントソフトにより主装置接続を切断します。

10 主装置の電源をOFFにします。

11 主装置の電源を再度ONにします。プログラムの書き換えが実行され、正常に書き換えられると新しいプログラムで動作するようになります。



お知らせ

手順 または の途中で、電源が切断されるなど正常に操作を進めることができなかったときは、もう一度その手順から操作してください。

1
より
内線
電話機
を
便利に
使う

2
詳細
電話機
機能の
設定

3
に
電話機
機能
を
便利
に
使う
設定
例

4
詳細
ルータ
機能の
設定

5
ルータ
の
運用

6
設定
例
ルータ
の
主な

7
ご
参考
に

インターネットサービスプロバイダとの 接続設定例（LAN型ダイヤルアップ接続）

PACSIAは、LAN型のダイヤルアップIP接続によりインターネットサービスプロバイダ（以下プロバイダ）との接続が可能です。

別途、商用プロバイダとのLAN型ダイヤルアップ接続契約が必要です。

LAN型のダイヤルアップ接続は、プロバイダ契約時に割り当てられたIPアドレスを使用するものです。

設定について

ネットワークAとプロバイダのLAN型ダイヤルアップIP接続を行います。

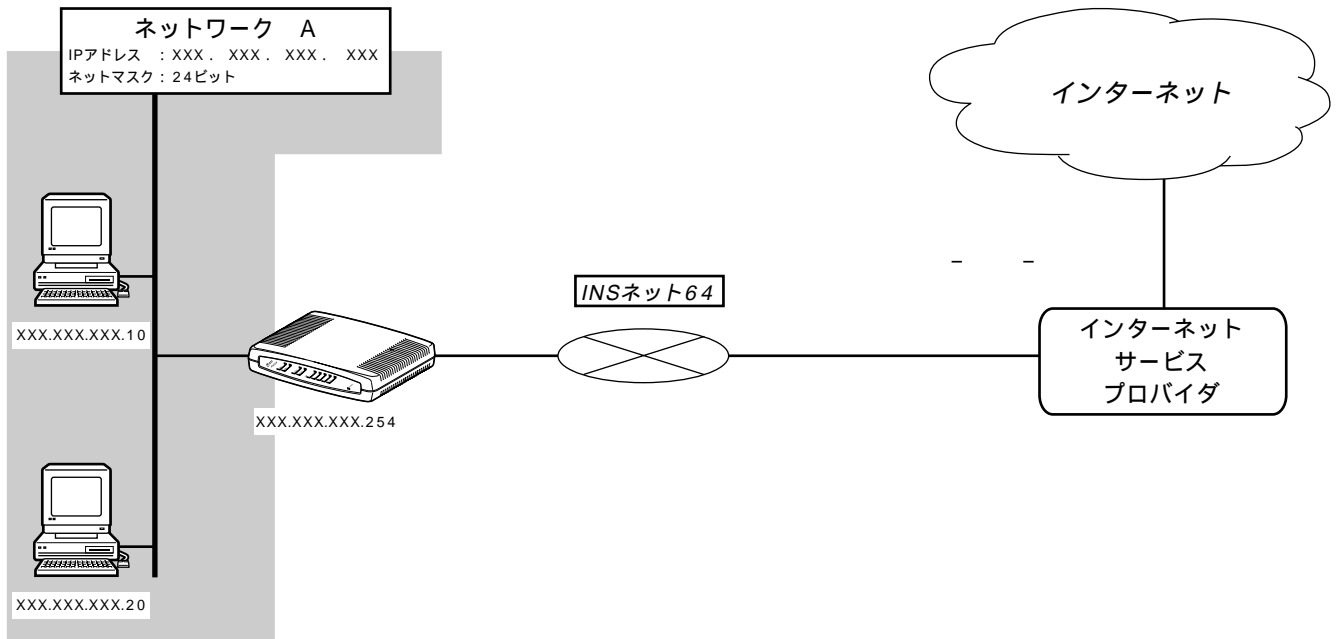
ネットワークAに接続される端末のIPアドレスは、すべてプロバイダとの契約時に指定されたIPアドレスを使用します。

それぞれのネットワークは次のようなものとします。

ネットワークA：プロバイダから割り付けられたIPアドレス XXX.XXX.XXX.0～254

：ネットマスク 24ビット

【構成図】



ネットワークAの主装置は次の項目の設定が必要です。

- 1.LAN設定（☞P48）
- 2.接続先設定（☞P50）
- 3.ルーティング設定（☞P65）
- 4.DHCPサーバ設定（☞P69）

プロバイダとの接続時には、契約時に指定されたログイン名およびパスワードを使用した認証機能（PAP / CHAP）を使用します。また、プロバイダのアクセスポイントとして電話番号を設定します。

またデフォルトルート（☞P66）として、プロバイダの設定を行った接続先を指定します。（注意：デフォルトルートの設定は、システムで1つのみ設定可能）

設定例では、ネットワークA以外のIPアドレスを主装置が受信するとプロバイダに自動接続を行います。ネットワークA側に主装置により他のネットワークが接続されている場合は、主装置のルーティング設定（スタティックIPルーティング）によりIPルートの設定が必要になります。



お知らせ

LAN型ダイヤルアップ接続にてDHCP機能を使用する場合は、DHCP割り付けテーブルの設定でグローバルなIPアドレスを指定しておく必要があります。

LAN型ダイヤルアップ接続にてグローバルなIPアドレスを使用する場合、LAN上のパソコンに対して外部から直接アクセスすることが可能になります。必要に応じてフィルタリング設定を行うか、別途ファイアウォールを設置してください。IPアドレス変換を行うことにより外部からアクセスできるパソコンを限定できます。詳しくは「IPアドレス変換機能を使用したインターネット接続2」(☞P127)を参照してください。

主装置をご利用に当たってのご注意

主装置は、LAN側に接続されたパソコンからの要求により、自動的に回線接続を行います。そのためにご使用になるPACSIAの設定やパソコンのOS、アプリケーション等の条件により意図しない発信が行われ、通話料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。詳しくは「意図しない発信が行われる条件について」(☞P138)を参照してください。

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

LAN設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	インタフェース名	Net-A
2	IPアドレス	XXX.XXX.XXX.254 / 24 (プロバイダから指定されたIPアドレスを使用します)
3	ダイナミックルーティング	しない
4	ルーティング情報送付	しない

(次ページへつづく)

（前ページのつづき）

接続先設定 IPルータ接続

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	接続先名	INTERNET
2	自動発信	する
	相手電話番号	
3	自動着信	しない
4	認証要求	しない
5	接続先の認証	PAP
	通知ログイン名	インターネットサービスプロバイダから割り当てられたログイン名
	通知パスワード	インターネットサービスプロバイダから割り当てられたパスワード
6	2Bch <MP> 接続	しない
7	ブリッジ接続	しない
8	IPアドレス割り付け	しない
9	IPアドレス変換	しない
10	コールバック	しない

ルーティング設定 デフォルトルート設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	経路先	INTERNET
2	経路先IPアドレス	
3	ホップ数	1

DHCPサーバ設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	DHCPサーバ機能	しない
2	割り付けIPアドレス	
3	割り付け数	
4	リース時間	
5	デフォルトゲートウェイ	
6	プライマリWINSサーバ	
7	セカンダリWINSサーバ	

IPルーティング接続設定例

PACSLIAはISDN回線を利用したイントラネットの構築が可能です。ISDN回線を使って2つのLAN間を接続し、IPパケットを転送したい場合はIPルーティングを使います。

1
内線電話機をより便利に使う

2
電話機能の詳細設定

3
電話機能を利用した設定例

4
ルータ機能の詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な設定例

7
ご参考に

設定について

ネットワークA（リモートオフィス）からISDN回線を利用し、ネットワークB（本社）のサーバマシンにアクセスする場合の設定例を示します。

ネットワークA側の主装置は、ネットワークBあてのIPパケットを受信した場合にネットワークB側の主装置に対して自動発信を行いIPルーティングによる接続を行います。

それぞれのネットワークは次のようなものとします。

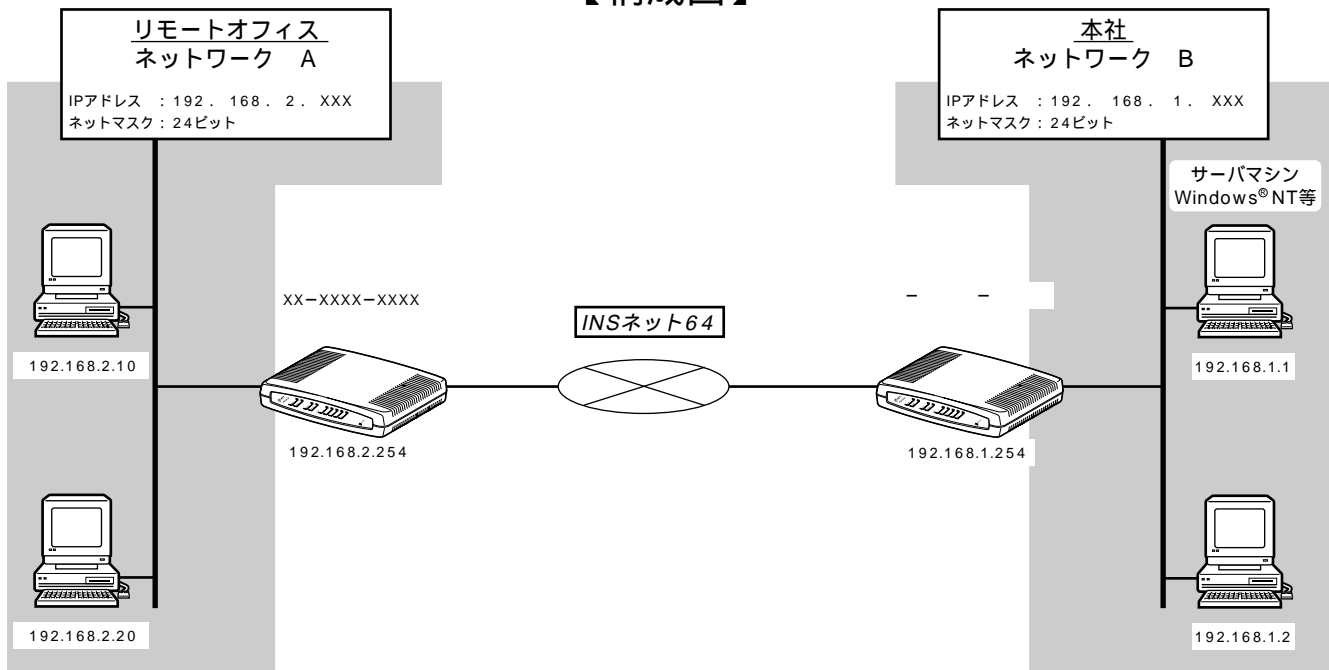
ネットワークA：IPアドレス 192.168.2.XXX

：ネットマスク 24ビット

ネットワークB：IPアドレス 192.168.1.XXX

：ネットマスク 24ビット

【構成図】



ネットワークAおよびBの主装置は次の項目の設定が必要です。

- 1.LAN設定（☞P48）
- 2.接続先設定（☞P50）
- 3.ルーティング設定（☞P65）
- 4.DHCPサーバ設定（☞P69）

（次ページへつづく）

(前ページのつづき)



ワンポイント

リモートパソコンからWindows®のファイル共有機能を利用する場合

ネットワークAからネットワークBのサーバマシンを検索したり、共有ファイルを利用したりする場合は、次の設定を行ってください。

- NetBIOSフィルタリング設定を削除してください。
- ネットワークA側のパソコンのlmhostsファイルに、ネットワークB側のサーバマシンのIPアドレスとホスト名を登録してください。
- 両方のパソコンにTCP/IPプロトコル(WINSクライアント)、Microsoftネットワーククライアントをインストールしてください。サーバマシンにはMicrosoftネットワーク共有サービスをインストールしてください。
- ネットワークB側のサーバマシンでWINSサーバが稼働している場合は、ネットワークA側のパソコンのTCP/IPプロトコル(WINSクライアント)の設定で、WINSサーバの欄にサーバマシンのIPアドレスを設定してください。この場合、lmhostsファイルへの登録は不要です。
- NetBEUIプロトコルではLANをまたがる接続はできません。
- NetBIOSフィルタリング設定を削除する場合は、以下の「主装置をご利用にあたっての注意」をお読みください。

主装置をご利用にあたっての注意

主装置は、LAN側に接続されたパソコンからの要求により、自動的に回線接続を行います。そのためにご使用になるPACSIAの設定やパソコンのOS、アプリケーション等の条件により意図しない発信が行われ、通話料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。詳しくは「意図しない発信が行われる条件について」(P138)を参照してください。

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

LAN設定

No	データ名称	設定するデータ	
		ネットワークAの主装置	ネットワークBの主装置
1	インタフェース名	Net-A	Net-B
2	IPアドレス	192.168.2.254 / 24	192.168.1.254 / 24
3	ダイナミックルーティング	しない	しない
4	ルーティング情報送出	しない	しない

接続先設定 (IPルータ接続)

No	データ名称	設定するデータ	
		ネットワークAの主装置	ネットワークBの主装置
1	接続先名	Remote_B	Remote_A
2	自動発信	する	しない
	相手電話番号		
3	自動着信	しない	する
	相手電話番号		XXXXXXXXXX
4	認証要求	しない	PAP
	相手ログイン名		ABC
	相手パスワード		XYZ
5	接続先の認証	PAP	受け入れない
	通知ログイン名	ABC	
	通知パスワード	XYZ	
6	2Bch<MP>接続	しない	しない
7	ブリッジ接続	しない	しない
8	IPアドレス割り付け	しない	しない
9	IPアドレス変換	しない	しない
10	コールバック	しない	しない

ルーティング設定 スタティックIPルーティング設定

No	データ名称	設定するデータ	
		ネットワークAの主装置	ネットワークBの主装置
1	IPアドレス	192.168.1.0 / 24	192.168.2.0 / 24
2	経路先	Remote_B	Remote_A
3	経路先IPアドレス		
4	ホップ数	1	1

DHCPサーバ設定

No	データ名称	設定するデータ	
		ネットワークAの主装置	ネットワークBの主装置
1	DHCPサーバ機能	しない	しない
2	割り付けIPアドレス		
3	割り付け数		
4	リース時間		
5	デフォルトゲートウェイ		
6	プライマリWINSサーバ		
7	セカンダリWINSサーバ		

ブリッジ接続設定例

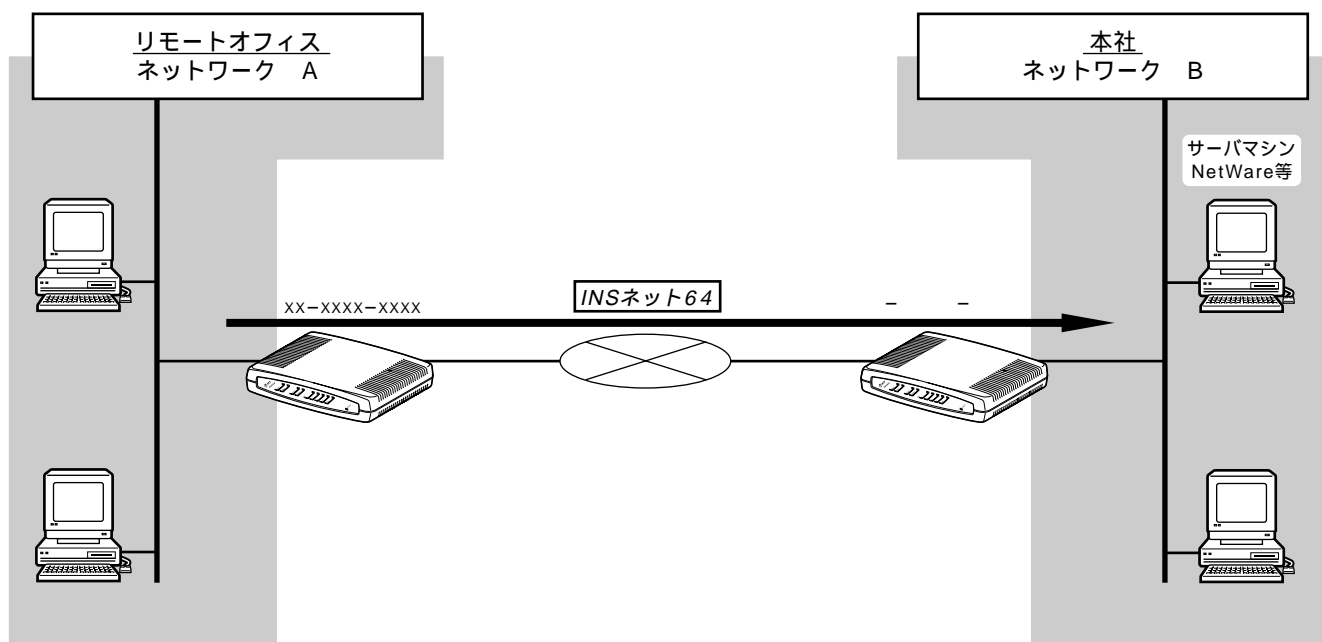
ISDN回線によって2つのLAN間を接続し、IPパケットに限らずさまざまなプロトコルのパケットを転送したい場合は、ブリッジ接続を行います。

IPパケットのほか、NetWareパケット、AppleTalkパケットによる自動発信を設定することができます。

設定について

ISDN回線によりネットワークA（リモートオフィス）とネットワークB（本社）をブリッジ接続します。本設定例は、ネットワークA側のパソコンがNetWareパケットを送信し主装置がそのパケットを受信したときに、ネットワークBの主装置に自動発信を開始するように設定します。

【構成図】



ネットワークAの主装置は次の項目の設定が必要です。

1. 接続先設定 (☛P50)
2. プロトコルタイプ自動発信設定 (☛P83)

ネットワークBの主装置は次の項目の設定が必要です。

1. 接続先設定 (☛P50)



お知らせ

ブリッジ接続する場合は、接続先設定の接続モードを必ず「ブリッジ」に設定してください。

ブリッジ接続を行うと、ブロードキャストパケットなどのパケットが転送されるため、IPルータ接続よりもトラフィックが高くなることがあります。

関係のないパケットにより自動接続を防止するためには、各種フィルタリングを設定してください。

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

接続先設定（ブリッジ接続）

No	データ名称	設定するデータ	
		ネットワークAの主装置	ネットワークBの主装置
1	接続先名	Remote_B	Remote_A
2	自動発信	する	しない
	相手電話番号		
3	自動着信	しない	する
	相手電話番号		XXXXXXXXXX
4	認証要求	しない	PAP
	相手ログイン名		Remote_A
	相手パスワード		A_PASS
5	接続先の認証要求	PAP	受け入れない
	通知ログイン名	Remote_A	
	通知パスワード	A_PASS	
6	2Bch<MP>接続	しない	しない
7	コールバック	しない	しない

プロトコルタイプ自動発信設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	接続先	Remote_B
2	IPパケット	<input type="checkbox"/>
3	NetWareパケット	<input checked="" type="checkbox"/>
4	AppleTalkパケット	<input type="checkbox"/>

アクセスサーバ接続設定例

PACSLIAには、遠隔地からのパソコンをLAN上に接続するアクセスサーバ機能があります。リモートパソコンをISDN回線を利用して接続することにより、LAN上のパソコンと同様に動作することができます。

- リモートパソコン側には、ISDN回線に接続するために同期式通信を行うターミナルアダプタ (TA) や ISDNカード、リモートアクセスを行うためのソフトウェアが必要になります。
- 主装置は、着信時に通知される相手の電話番号と認証機能 (PAP) を使用して、接続先設定に登録されている内容と一致した場合に接続を行います。認証が確認されると、登録されているIPアドレスをリモートパソコンに通知し、IPアドレスの自動割り付けを行います。

設定について

ネットワーク A とリモートパソコンとのアクセスサーバ接続を行います。

接続先設定は、接続モードを「アクセスサーバ」とし、割り付けるIPアドレスを設定します。割り付けるIPアドレスは、ネットワークアドレスがネットワーク A と等しいアドレスを設定します。

リモートパソコン設定は、接続時のログイン名、パスワードの設定が必要です。また、接続時に主装置から自動的にIPアドレスを割り付けるように設定する必要があります。

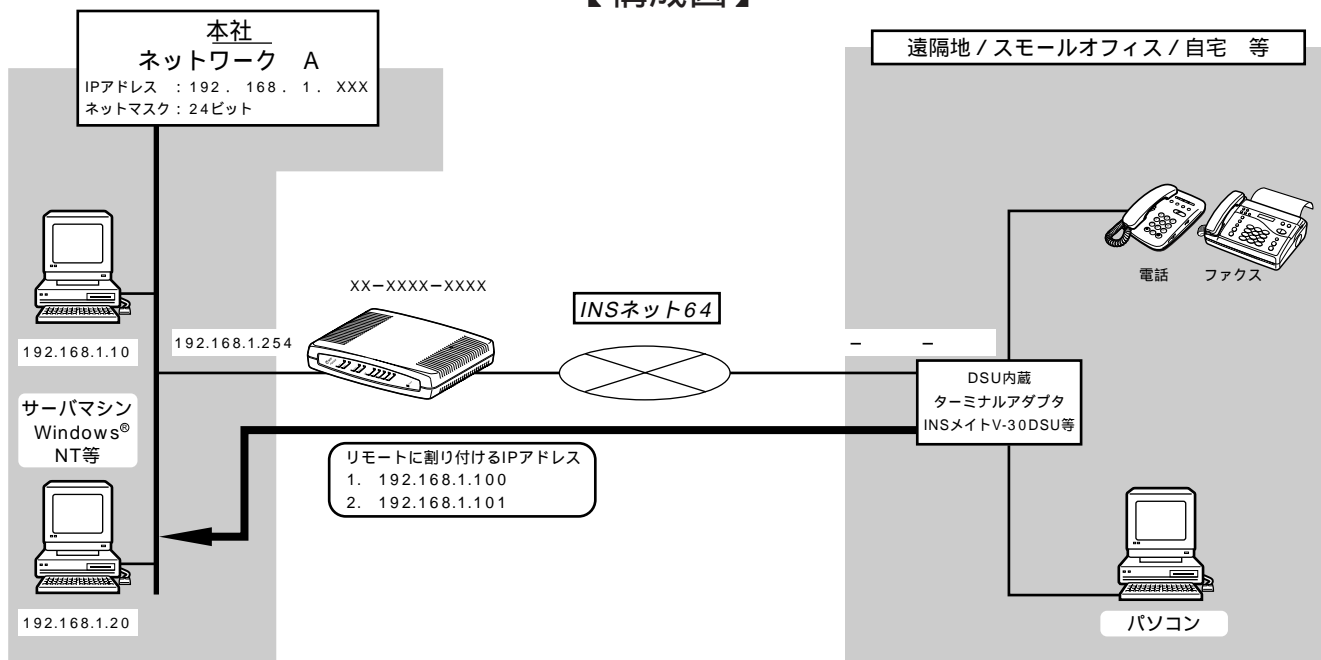
ネットワーク A : IPアドレス 192.168.1.XXX
 : ネットマスク 24ビット

リモート (遠隔地) に自動的に割り当てるIPアドレス
 : 192.168.1.100
 : 192.168.1.101

リモートアクセス1 ログイン名 : REMOTE_A
 パスワード : A_PASS

リモートアクセス2 ログイン名 : REMOTE_B
 パスワード : B_PASS

【構成図】



ネットワーク A の主装置は次の項目の設定が必要です。

1. LAN設定 (☞P48)
2. 接続先設定 (☞P50)

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

LAN設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	インタフェース名	Net-A
2	IPアドレス	192.168.1.254 / 24
3	ダイナミックルーティング	しない
4	ルーティング情報送出	しない

接続先設定（アクセスサーバ接続）（ 1 ）

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	接続先名	RMT_ACC
2	自動着信	する
	相手電話番号	(2)
3	認証要求	PAP
	相手ログイン名 1	REMOTE_A (2)
	相手パスワード 1	A_PASS (2)
	相手ログイン名 2	REMOTE_B (2)
4	相手パスワード 2	B_PASS (2)
	2Bch <MP> 接続	しない
5	No. 1 IPアドレス	192.168.1.100
	No. 2 IPアドレス	192.168.1.101
6	コールバック	しない

1：アクセスサーバ接続モードは、接続先の設定で1つしか設定できません。

2：相手電話番号および相手のログイン名/パスワードは最大16個まで設定することができます。

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)



ワンポイント

リモートパソコンからWindows®のファイル共有機能を利用する場合

リモートパソコンからネットワークAのサーバマシンを検索したり、共有ファイルを利用したりする場合は、次の設定を行ってください。

- NetBIOSフィルタリング設定を削除してください。
- 接続先設定のネットワークブロードキャストパケット送出設定を「送出する」に設定します。
- 両方のパソコンにTCP/IPプロトコル(WINSクライアント)、Microsoftネットワーククライアントをインストールしてください。サーバマシンにはMicrosoftネットワーク共有サービスをインストールしてください。
- NetBEUIプロトコルでは接続できません。
- NetBIOSフィルタリング設定を削除する場合は、以下の「主装置をご利用に当たってのご注意」をお読みください。

主装置をご利用に当たってのご注意

主装置は、LAN側に接続されたパソコンからの要求により、自動的に回線接続を行います。そのためにご使用になるPACSLIAの設定やパソコンのOS、アプリケーション等の条件により意図しない発信が行われ、通話料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。詳しくは「意図しない発信が行われる条件について」(P138)を参照してください。

リモートパソコン側の参考例

リモートパソコン側の参考例としてWindows®98 / Windows®95によりINSメイトV-30DSUに接続した場合の設定を行います。すでにTCP/IPおよびINSメイトV-30DSUがインストールされていることを前提としています。

注意：あくまでも参考例ですので実際の設定とは、異なる場合があります。設定時は接続されているターミナルアダプタやWindows®98 / Windows®95の取扱説明書をお読みください。

設定例 (Windows®98の場合)

接続先の設定

「スタート」 「プログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ダイヤルアップネットワーク」の画面を表示させます。「新しい接続」をダブルクリックします。

新しい接続のウィンドウ画面で新規に作成する「接続名」を入力し、モデムの選択にて「INSMATEV-30DSU」を選択します。

「次へ>」をクリックし接続先の電話番号を設定します。国番号は「日本(81)」を設定します。

「次へ>」をクリックし、接続名の確認後、「完了」をクリックします。

TCP/IPの設定

接続先の設定で作成したアイコンをクリックし、ウインドウメニューの「ファイル」「プロパティ」をクリックするとプロパティの画面が表示されます。

「サーバの種類」をクリックし「ダイヤルアップサーバの種類」を「PPP:インターネット,Windows NT Server,Windows 98」を選択し、詳細オプション設定はすべてチェックを外します。「使用できるネットワークプロトコル」はTCP/IPのみチェックし、その他の設定はすべてチェックを外します。

「使用できるネットワークプロトコル」から「TCP/IP設定」をクリックします。

TCP/IP設定で「サーバが割り当てたIPアドレス」をチェックします。

主装置にてDNS設定またはProxyDNS設定されている場合は「サーバが割り当てたネームサーバアドレス」をクリックします。また、設定されていない場合は「ネームサーバアドレスを指定」をクリックし、ドメイン・ネーム・サーバのIPアドレスを入力してください。

「IPヘッダ圧縮を使用」および「リモートネットワークでデフォルトのゲートウェイを使う」をチェックします。

「OK」を選択していきダイヤルアップネットワークの画面に戻ります。

設定の手順 (Windows®95の場合)

接続先の設定

「スタート」「プログラム」「アクセサリ」「ダイヤルアップネットワーク」の画面を表示させます。

「新しい接続」をダブルクリックします。

「新しい接続」のウインドウ画面で新規に作成する「接続名」を入力し、モデムの選択にて「INSMATEV-30DSU」を選択します。

「次へ>」をクリックし接続先の電話番号を設定します。国番号は「日本(81)」を設定します。

「次へ>」をクリックし、接続名の確認後、「完了」をクリックします。

TCP/IPの設定

接続先の設定で作成したアイコンをクリックし、ウインドウメニューの「ファイル」「プロパティ」をクリックするとプロパティの画面が表示されます。

「サーバの種類」をクリックし「サーバの種類」を「PPP:Windows 95,Windows NT 3.5インターネット」を選択し、詳細オプション設定はすべてチェックを外します。「使用できるネットワークプロトコル」はTCP/IPのみチェックし、その他の設定はすべてチェックを外します。

「使用できるネットワークプロトコル」から「TCP/IP設定」をクリックします。

TCP/IP設定で「サーバが割り当てたIPアドレス」をチェックします。

主装置にてDNS設定またはProxyDNS設定されている場合は「サーバが割り当てたネームサーバアドレス」をクリックします。また、設定されていない場合は「ネームサーバアドレスを指定」をクリックし、ドメイン・ネーム・サーバのIPアドレスを入力してください。

「IPヘッダ圧縮を使用」および「リモートネットワークでデフォルトのゲートウェイを使用」をチェックします。

「OK」を選択していきダイヤルアップネットワークの画面に戻ります。



お知らせ

ここでの説明は、参考例ですので、詳細につきましては、ソフトメーカー、パソコンメーカーなどにお問い合わせください。

複数の相手と接続する場合

PACSLIAは同時に2対地の異なる相手と接続することができます。相手の設定は、接続先の設定により最大16か所まで設定することができます。それぞれの相手ごとに回線関連の各種自動発信の設定により、受信したパケットを判断して必要な相手に接続します。また、接続先の設定で自動着信を設定することで、認証機能「PAP」を利用して相手を判断し接続することも可能です。

設定について

ネットワークAからISDN回線を利用し、ネットワークB、ネットワークC、ネットワークDとに対して受信したパケットにより自動発信を行う設定を説明します。

ネットワークAの主装置は、ネットワークB、C、D側の主装置に対してネットワークB、C、DのIPパケットを受信した場合にIPルーティングによる自動発信を行うように設定します。

それぞれのネットワークは次のようなものとします。

ネットワークA : IPアドレス 192.168.128.XXX

: ネットマスク 24ビット

ネットワークB : IPアドレス 192.168.1.XXX

: ネットマスク 24ビット

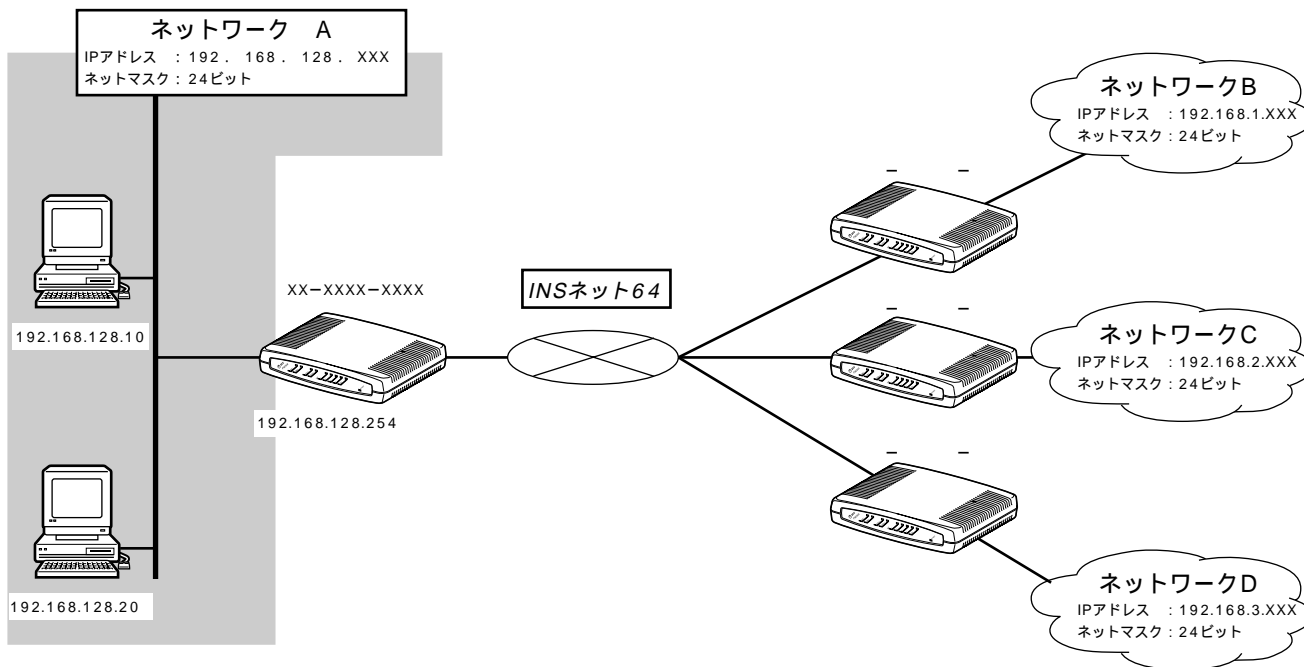
ネットワークC : IPアドレス 192.168.2.XXX

: ネットマスク 24ビット

ネットワークD : IPアドレス 192.168.3.XXX

: ネットマスク 24ビット

【構成図】



ネットワークAの主装置は次の項目の設定が必要です。

1. LAN設定 (☞P48)
2. 接続先設定 (☞P50)
3. ルーティング設定 (☞P65)

ネットワークB、C、Dの主装置は次の項目の設定が必要です。

1. LAN設定 (☞P48)
2. 接続先設定 (☞P50)
3. ルーティング設定 (☞P65)

主装置をご利用に当たってのご注意

主装置は、LAN側に接続されたパソコンからの要求により、自動的に回線接続を行います。そのためにご使用になるPACSLAの設定やパソコンのOS、アプリケーション等の条件により意図しない発信が行われ、通話料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。詳しくは「意図しない発信が行われる条件について」(P138)を参照してください。

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

LAN設定

No	データ名称	設定するデータ	
		ネットワークAの主装置	
1	インタフェース名	Net-A	
2	IPアドレス	192.168.128.254 / 24	
3	ダイナミックルーティング	しない	
4	ルーティング情報送付	しない	

接続先設定 (IPルータ接続)

No	データ名称	設定するデータ		
		ネットワークAの主装置		
		ネットワークB に対する設定	ネットワークC に対する設定	ネットワークD に対する設定
1	接続先名	Remote_B	Remote_C	Remote_D
2	自動発信	する	する	する
	相手電話番号			
3	自動着信	しない	しない	しない
4	認証要求	しない	しない	しない
5	接続先の認証	PAP	PAP	PAP
	通知ログイン名	REMOTE_B	REMOTE_C	REMOTE_D
	通知パスワード	PASS_B	PASS_C	PASS_D
6	2Bch <MP> 接続	しない	しない	しない
7	ブリッジ接続	しない	しない	しない
8	IPアドレス割り付け	しない	しない	しない
9	IPアドレス変換	しない	しない	しない
10	コールバック	しない	しない	しない

ルーティング設定 スタティックIPルーティング設定

No	データ名称	設定するデータ		
		ネットワークAの主装置		
		ネットワークB に対する設定	ネットワークC に対する設定	ネットワークD に対する設定
1	IPアドレス	192.168.1.0 / 24	192.168.2.0 / 24	192.168.3.0 / 24
2	経路先	Remote_B	Remote_C	Remote_D
3	経路先IPアドレス			
4	ホップ数	1	1	1

複数の相手と接続する場合

(前ページのつづき)

LAN設定

No	データ名称	設定するデータ		
		ネットワークBの 主装置	ネットワークCの 主装置	ネットワークDの 主装置
1	インタフェース名	Net-B	Net-C	Net-D
2	IPアドレス	192.168.1.254 / 24	192.168.2.254 / 24	192.168.3.254 / 24
3	ダイナミックルーティング	しない	しない	しない
4	ルーティング情報送出	しない	しない	しない

接続先設定 (IPルータ接続)

No	データ名称	設定するデータ		
		ネットワークBの 主装置	ネットワークCの 主装置	ネットワークDの 主装置
1	インタフェース名	Remote_A	Remote_A	Remote_A
2	自動発信	しない	しない	しない
3	自動着信	する	する	する
	相手電話番号	××××××××××	××××××××××	××××××××××
4	認証要求	PAP	PAP	PAP
	相手ログイン名	REMOTE_B	REMOTE_C	REMOTE_D
	相手パスワード	PASS_B	PASS_C	PASS_D
5	接続先の認証	受け入れない	受け入れない	受け入れない
6	2Bch <MP> 接続	しない	しない	しない
7	ブリッジ接続	しない	しない	しない
8	IPアドレス割り付け	しない	しない	しない
9	IPアドレス変換	しない	しない	しない
10	コールバック	しない	しない	しない

ルーティング設定 スタティックIPルーティング設定

No	データ名称	設定するデータ		
		ネットワークBの 主装置	ネットワークCの 主装置	ネットワークDの 主装置
1	IPアドレス	192.168.128.0 / 24	192.168.128.0 / 24	192.168.128.0 / 24
2	経路先	Remote_A	Remote_A	Remote_A
3	経路先IPアドレス			
4	ホップ数	1	1	1

ここでは、IPアドレス変換機能を使用して商用インターネットサービスプロバイダと端末型ダイヤルアップ接続による設定例を示します。

- 端末型ダイヤルアップ接続の方法は、接続したプロバイダからIPアドレスの動的な割り付けが行われ、割り付けられたIPアドレスを使用してインターネットなどにアクセスします。
- IPアドレス変換機能は、ローカルなネットワークに接続されたネットワーク端末のIPアドレスを、プロバイダから割り当てられたIPアドレスに変換しインターネットなどと通信を行います。ただし、端末型ダイヤルアップ接続の方法では、ローカルなネットワーク側からのアクセスは可能ですが、インターネット側からローカルネットワークへのアクセスはできません。

1
より
内線
電話
機能
を
使
つ

2
電
話
機
能
の
詳
細
設
定

3
電
話
機
能
を
便
利
に
使
つ
設
定
例

4
ル
ー
タ
機
能
の
詳
細
設
定

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
ル
ー
タ
の
主
な
設
定
例

7
ご
参
考
に

設定について

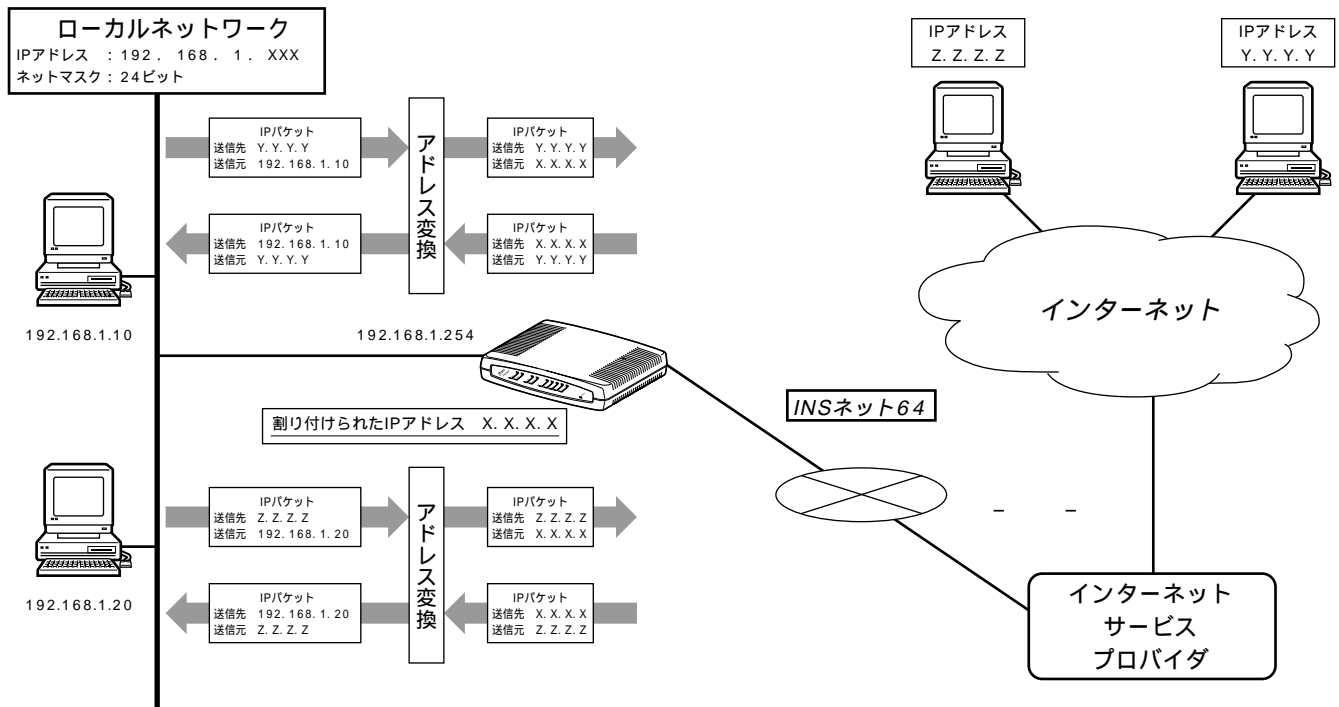
端末型ダイヤルアップによるインターネット接続を行います。

接続先設定は、接続モードを「IPルータ」とし、IPアドレス変換を「端末型ダイヤルアップ」に設定します。

それぞれのネットワークは次のようなものとします。

ローカルネットワーク：IPアドレス 192.168.1.XXX
：ネットマスク 24ビット

【構成図】



ローカルネットワークの主装置は次の項目の設定が必要です。

1. LAN設定 (☞ P 48)
2. 接続先設定 (☞ P 50)
3. ルーティング設定 (☞ P 65)



お知らせ

本設定は、「かんたん設定」によるインターネット設定を行うことにより、簡単に設定できます。

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

主装置をご利用に当たってのご注意

主装置は、LAN側に接続されたパソコンからの要求により、自動的に回線接続を行います。そのためにご使用になるPACSIAの設定やパソコンのOS、アプリケーション等の条件により意図しない発信が行われ、通話料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。詳しくは「意図しない発信が行われる条件について」(P138)を参照してください。

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

LAN設定

No	データ名称	設定するデータ
		ローカルネットワークの主装置
1	インタフェース名	Net-A
2	IPアドレス	192.168.1.254 / 24
3	ダイナミックルーティング	しない
4	ルーティング情報送出	しない

接続先設定 (IPルータ設定)

No	データ名称	設定するデータ
		ローカルネットワークの主装置
1	接続先名	INTERNET
2	自動発信	する
	相手電話番号	
3	自動着信	しない
4	認証要求	しない
5	接続先の認証	PAP
	通知ログイン名	インターネットサービスプロバイダから割り当てられたログイン名
	通知パスワード	インターネットサービスプロバイダから割り当てられたパスワード
6	2Bch <MP> 接続	しない
7	ブリッジ接続	しない
8	IPアドレス割り付け	しない
9	IPアドレス変換	端末型ダイヤルアップ
10	コールバック	しない

ルーティング設定 デフォルトルート設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	経路先	INTERNET
2	経路先IPアドレス	
3	ホップ数	1

ここでは、IPアドレス変換機能を使用して商用インターネットサービスプロバイダとLAN型ダイヤルアップ接続による設定例を示します。

LAN型ダイヤルアップ接続は、認定機関から割り当てられる1つ以上のグローバルなIPアドレスを使用して、プロバイダに接続しインターネットなどにアクセスする方法です。

- 主装置のIPアドレス変換機能は、ローカルなネットワークに接続されたネットワーク端末のIPアドレスを、認定機関から割り当てられたIPアドレスに変換しインターネットなどと通信を行います。
- 割り当てられたIPアドレスが複数ある場合は、接続先設定のIPアドレス変換テーブルの設定によりグローバルなIPアドレスとローカルなネットワークのIPアドレスを対応させることにより、インターネット側からローカルネットワークへのアクセスが可能になります。
- 主装置は、ローカルネットワーク側からインターネットなど外部にパケットを転送する場合、受信したパケットのIPアドレスからIPアドレス変換テーブル設定を検索し、一致する場合はローカルIPアドレスに対応するグローバルIPアドレスに変換してパケットを送出します。このとき、テーブルに一致しないパケットに関しては、主装置に割り付けられたグローバルなIPアドレスに変換します。また、インターネットなど外部からのパケットに対しても同様にテーブルを検索し変換を行います(ただし、この場合、一致しないものに関しては破棄されます)。

設定について

LAN型ダイヤルアップによるインターネット接続を行います。

接続先設定は、接続モードを「IPルータ」とし、IPアドレス変換を「LAN型ダイヤルアップ」に設定します。割り付けられたIPアドレスには、インターネットサービスプロバイダから主装置用に割り付けられたIPアドレスを設定します。インターネット側からローカルネットワーク上のパソコンにアクセスする場合は、グローバルIPアドレスとローカルIPアドレスの組を設定します。

(次ページへつづく)

1
より
内線
電話
機を
便利
に使
う

2
電話
機能
の
詳細
設定

3
電話
機能
を
便利
に使
う
設定
例

4
ル
ー
タ
機
能
の
詳細
設定

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
ル
ー
タ
の
主
な
設定
例

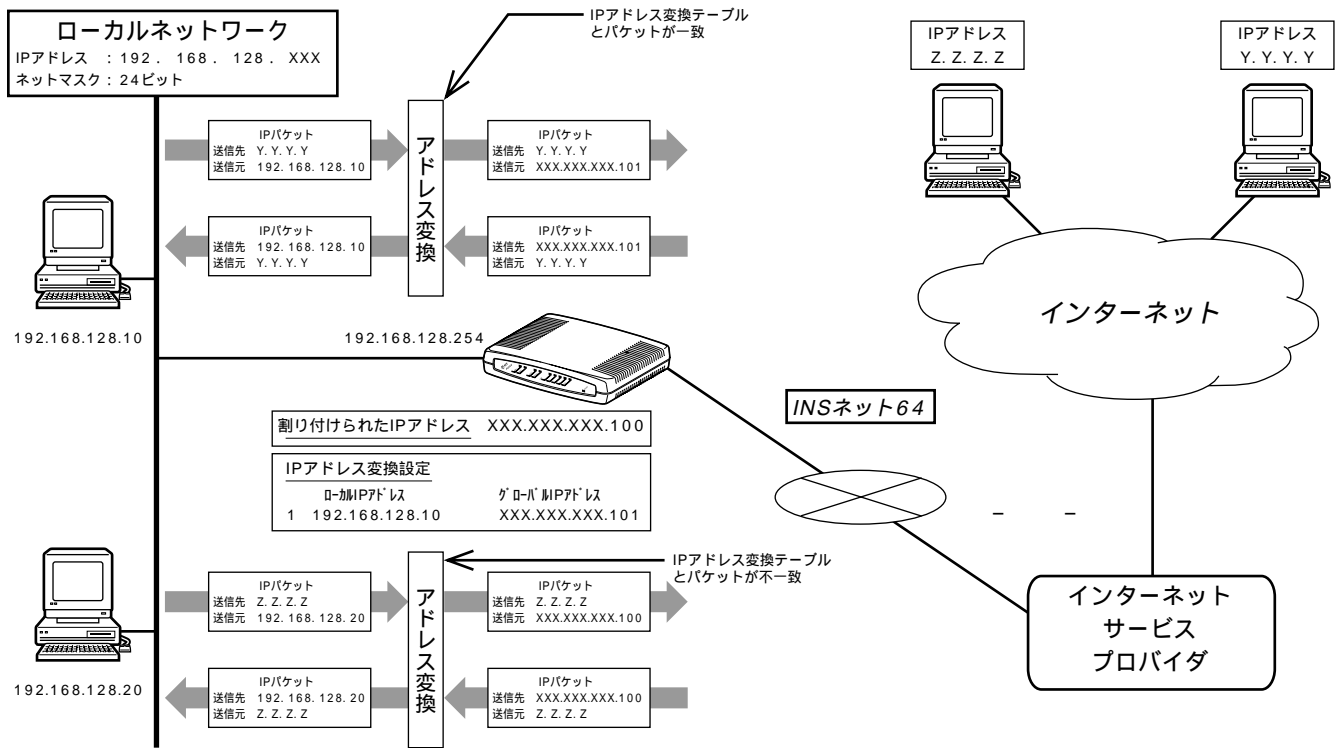
7
ご
参
考
に

(前ページのつづき)

それぞれのネットワークは次のようなものとします。

ローカルネットワーク : IPアドレス 192.168.128.XXX
: ネットマスク 24ビット

【構成図】



ローカルネットワークの主装置は次の項目の設定が必要です。

1. LAN設定 (☞ P 48)
2. 接続先設定 (☞ P 50)
3. ルーティング設定 (☞ P 65)

主装置をご利用に当たってのご注意

主装置は、LAN側に接続されたパソコンからの要求により、自動的に回線接続を行います。そのためにご使用になるPACSIAの設定やパソコンのOS、アプリケーション等の条件により意図しない発信が行われ、通話料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。詳しくは「意図しない発信が行われる条件について」(☞P138)を参照してください。

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

LAN設定

No	データ名称	設定するデータ
		ローカルネットワークの主装置
1	インタフェース名	Net-A
2	IPアドレス	192.168.128.254 / 24
3	ダイナミックルーティング	しない
4	ルーティング情報送出	しない

接続先設定 (IPルータ接続)

No	データ名称	設定するデータ
		ローカルネットワークの主装置
1	接続先名	INTERNET
2	自動発信	する
	相手電話番号	
3	自動着信	しない
4	認証要求	しない
5	接続先の認証	PAP
	通知ログイン名	インターネットサービスプロバイダから割り当てられたログイン名
	通知パスワード	インターネットサービスプロバイダから割り当てられたパスワード
6	2Bch <MP> 接続	する
7	ブリッジ接続	しない
8	IPアドレス割り付け	しない
9	IPアドレス変換	LAN型ダイヤルアップ
	割り付けられたIPアドレス	XXX.XXX.XXX.100
	IPアドレス変換テーブル (1)	XXX. XXX. XXX.101 (グローバルIPアドレス) -192.168.128.10 (ローカルIPアドレス)
10	コールバック	しない

1: IPアドレス変換テーブルは、最大16個まで登録が可能です。

ルーティング設定 デフォルトルート設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	経路先	INTERNET
2	経路先IPアドレス	
3	ホップ数	1



ワンポイント

外部からのアクセスが不要なパソコンは外部からのアクセスが不要なパソコンのIPアドレスは、IPアドレス変換テーブルに設定しないことにより外部からの不正なアクセスを防止できます。この場合、内部から外部へのアクセスは端末型ダイヤルアップ接続と同様に可能です。

ソースルーティングによる複数プロバイダとの接続設定例

PACSLIAは、ソースルーティングにより2対地の異なるインターネットサービスプロバイダと接続することができます。

設定について

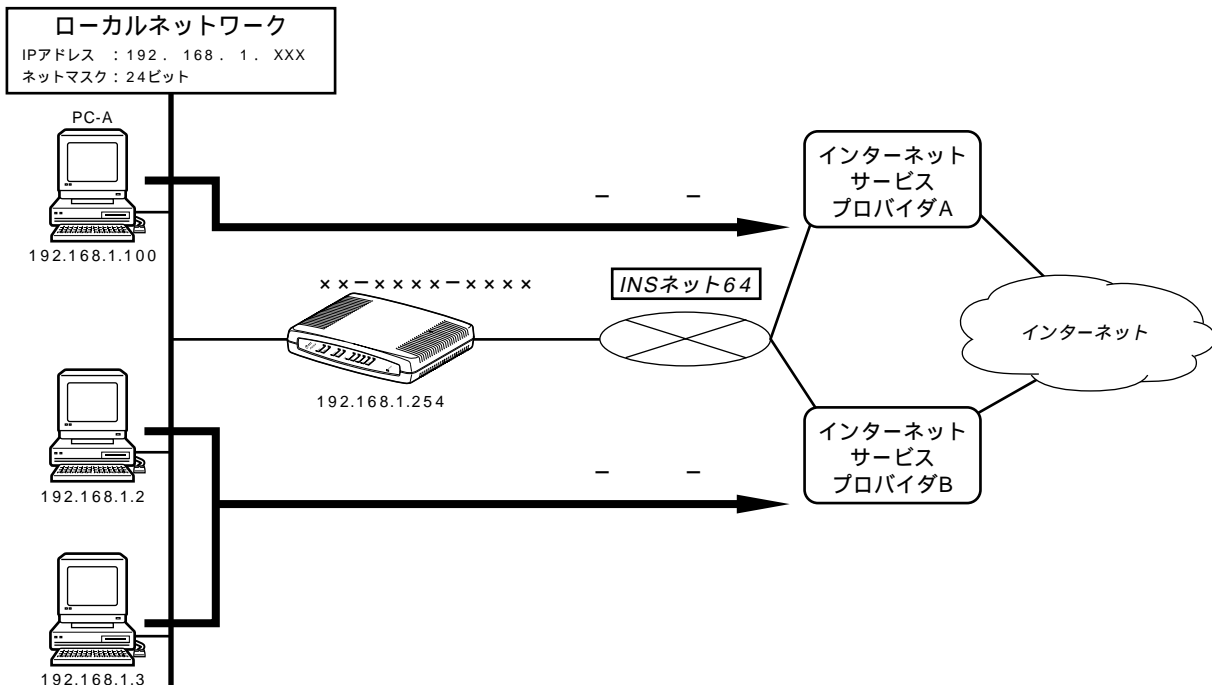
ローカルネットワークから受信したパケットによりルーティングを行い、インターネットサービスプロバイダAまたはインターネットサービスプロバイダBとの接続を行います。

接続先設定は、それぞれのインターネットサービスプロバイダに対して行い、ソースルーティングまたはデフォルトルートによりパケットをルーティングします。

ローカルネットワーク上に接続されたPC-AからはインターネットサービスプロバイダAへ接続し、その他のパソコンはインターネットサービスプロバイダBへ接続するものとします。

ネットワークA	: IPアドレス	192.168.1.XXX
	: ネットマスク	24ビット
PC-A	: IPアドレス	192.168.1.100
	: ネットマスク	24ビット
	: デフォルトゲートウェイ	192.168.1.254
	: DNSサーバ	インターネットサービスプロバイダAのDNSサーバ
その他のPC	: IPアドレス	192.168.1.XXX
	: ネットマスク	24ビット
	: デフォルトゲートウェイ	192.168.1.254
	: DNSサーバ	192.168.1.254

【構成図】



お知らせ

PC-Aとその他のパソコンの両方で主装置のProxyDNS機能を使用することはできません。どちらか一方は必ずインターネットサービスプロバイダのDNSサーバを使用してください。

ローカルネットワークの主装置は次の項目の設定が必要です。

1. LAN設定 (☞P48)
2. 接続先設定 (☞P50)
3. ルーティング設定 (☞P65)
4. ProxyDNS設定 (☞P72)

主装置をご利用に当たってのご注意

主装置は、LAN側に接続されたパソコンからの要求により、自動的に回線接続を行います。そのためにご使用になるPACSIAの設定やパソコンのOS、アプリケーション等の条件により意図しない発信が行われ、通話料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。詳しくは「意図しない発信が行われる条件について」(☞P138)を参照してください。

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

LAN設定

No	データ名称	設定するデータ	
		ローカルネットワークの主装置	
1	インタフェース名	Net-A	
2	IPアドレス	192.168.1.254 / 24	
3	ダイナミックルーティング	しない	
4	ルーティング情報送付	しない	

接続先設定 (IPルータ接続)

No	データ名称	設定するデータ	
		ローカルネットワークの主装置	
		インターネットサービスプロバイダAに対する設定	インターネットサービスプロバイダBに対する設定
1	接続先名	Inet-A	Inet-B
2	自動発信	する	する
	相手電話番号		
3	自動着信	しない	しない
4	認証要求	しない	しない
5	接続先の認証	PAP	PAP
	通知ログイン名	インターネットサービスプロバイダAから割り当てられたログイン名	インターネットサービスプロバイダBから割り当てられたログイン名
	通知パスワード	インターネットサービスプロバイダAから割り当てられたパスワード	インターネットサービスプロバイダBから割り当てられたパスワード
6	2Bch < MP > 接続	しない	しない
7	ブリッジ接続	しない	しない
8	IPアドレス割り付け	しない	しない
9	IPアドレス変換	端末型ダイヤルアップ	端末型ダイヤルアップ
10	コールバック	しない	しない

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

ルーティング設定 ソースルーティング設定

No	データ名称	設定するデータ
		ローカルネットワークの主装置
1	送信元IPアドレス	192.168.1.100/32
2	経路先	Inet-A
3	経路先IPアドレス	
4	ホップ数	1

ルーティング設定 デフォルトルート設定

No	データ名称	設定するデータ
		ローカルネットワークの主装置
1	経路先	Inet-B
2	経路先IPアドレス	
3	ホップ数	1

ProxyDNS設定

No	データ名称	設定するデータ
		ローカルネットワークの主装置
1	ProxyDNS機能	する
2	DNS問い合わせ先	Inet-B
3	プライマリDNSサーバ	
4	セカンダリDNSサーバ	
5	NetBIOS名前解決	しない

アクセスサーバ接続によるコールバックを行います。

ここでのコールバックは、相手からの着信に対してログイン名とパスワードにより指定された相手に対してコールバックを行う場合の設定を行います。

- 接続するパソコン側は、ISDN回線に接続するために同期式通信を行うターミナルアダプタ (TA) やISDNカード、リモートアクセスを行うためのソフトウェア (Windows® 98のダイヤルアップネットワーク等) が必要になります。
- 接続先設定は、接続モードを「アクセスサーバ」に設定し、割り付けるIPアドレスとコールバック「する」、ログイン名に対応する相手の電話番号を設定します。
- リモートパソコン設定は、接続時のログイン名、パスワードの設定が必要です。また、接続時に主装置から動的にIPアドレスを割り付けるように設定する必要があります。

1
より
内線
電話
機能
を
使
う

2
詳
細
電
話
機
能
の
設
定

3
に
電
話
機
能
を
使
う
設
定
例
を
利
用

4
詳
細
ル
ー
タ
機
能
の
設
定

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
ル
ー
タ
の
主
な
設
定
例

7
ご
参
考
に

設定について

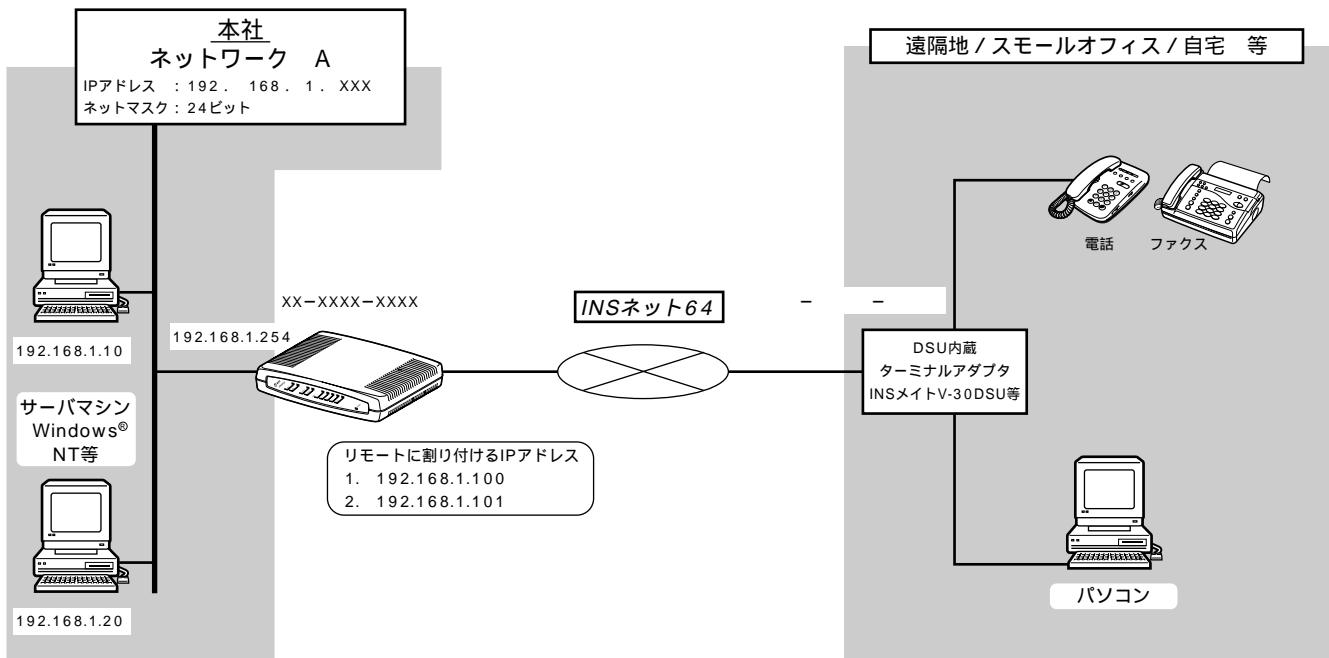
接続先設定は、接続モードを「アクセスサーバ」とし、コールバックを「する」、コールバック方式を「相手電話番号を指定」に設定します。

それぞれのネットワークは次のようなものとします。

ネットワークA : IPアドレス 192.168.1.XXX
 : ネットマスク 24ビット

リモート (遠隔地) に自動的に割り当てるIPアドレス
 : 192.168.1.100
 : 192.168.1.101

【構成図】



ネットワークAの主装置は次の項目の設定が必要です。

1. LAN設定 (☛ P 48)
2. 接続先設定 (☛ P 50)

(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

LAN設定

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	インタフェース名	Net-A
2	IPアドレス	192.168.1.254 / 24
3	ダイナミックルーティング	しない
4	ルーティング情報送付	しない

接続先設定 (アクセスサーバ接続)(1)

No	データ名称	設定するデータ
		ネットワークAの主装置
1	接続先名	RMT_ACC
2	自動着信	する
	相手電話番号 (2)	
3	認証要求	PAP
	相手ログイン名 (2)	REMOTE_A
	相手パスワード	A_PASS
4	2Bch <MP> 接続	しない
5	No. 1 IPアドレス	192.168.1.100
	No. 2 IPアドレス	192.168.1.101
6	コールバック	する
	コールバック方式 (ログイン名: REMOTE-A)	相手電話番号を指定
	相手電話番号	

1 : アクセスサーバ接続モードは、接続先の設定で1つしか登録できません。

2 : 相手電話番号および相手ログイン名/パスワードは最大16個まで設定可能です。



ワンポイント

コールバック方式について

コールバック発信するときの相手電話番号は、コールバック方式および相手電話番号の設定により次のようになります。

「相手から指定」 : リモートパソコンから電話番号が通知され、その番号に対してコールバック発信を行います。

「相手電話番号を指定」 : コールバック設定の相手電話番号に設定されている番号に対してコールバック発信を行います。

リモートパソコンからWindows®のファイル共有機能を利用する場合

リモートパソコンからネットワークAのサーバマシンを検索したり、共有ファイルを利用したりする場合は、次の設定を行ってください。

- NetBIOSフィルタリング設定を削除してください。
- 接続先設定のネットワークブロードキャストパケット送出設定で「送出する」を選択します。
- 両方のパソコンにTCP/IPプロトコル（WINSクライアント）、Microsoftネットワーククライアントをインストールしてください。サーバマシンにはMicrosoftネットワーク共有サービスをインストールしてください。
- NetBEUIプロトコルでは接続できません。
- NetBIOSフィルタリング設定を削除する場合は、以下の「主装置をご利用に当たってのご注意」をお読みください。

主装置をご利用に当たってのご注意

主装置は、LAN側に接続されたパソコンからの要求により、自動的に回線接続を行います。そのためにご使用になるPACSIAの設定やパソコンのOS、アプリケーション等の条件により意図しない発信が行われ、通話料や、インターネットサービスプロバイダの使用料がよけいにかかる場合がありますのでご注意ください。詳しくは「意図しない発信が行われる条件について」(P138)を参照してください。

アクセスサーバ接続によるPIAFS通信を行う場合の設定例を示します。

設定について

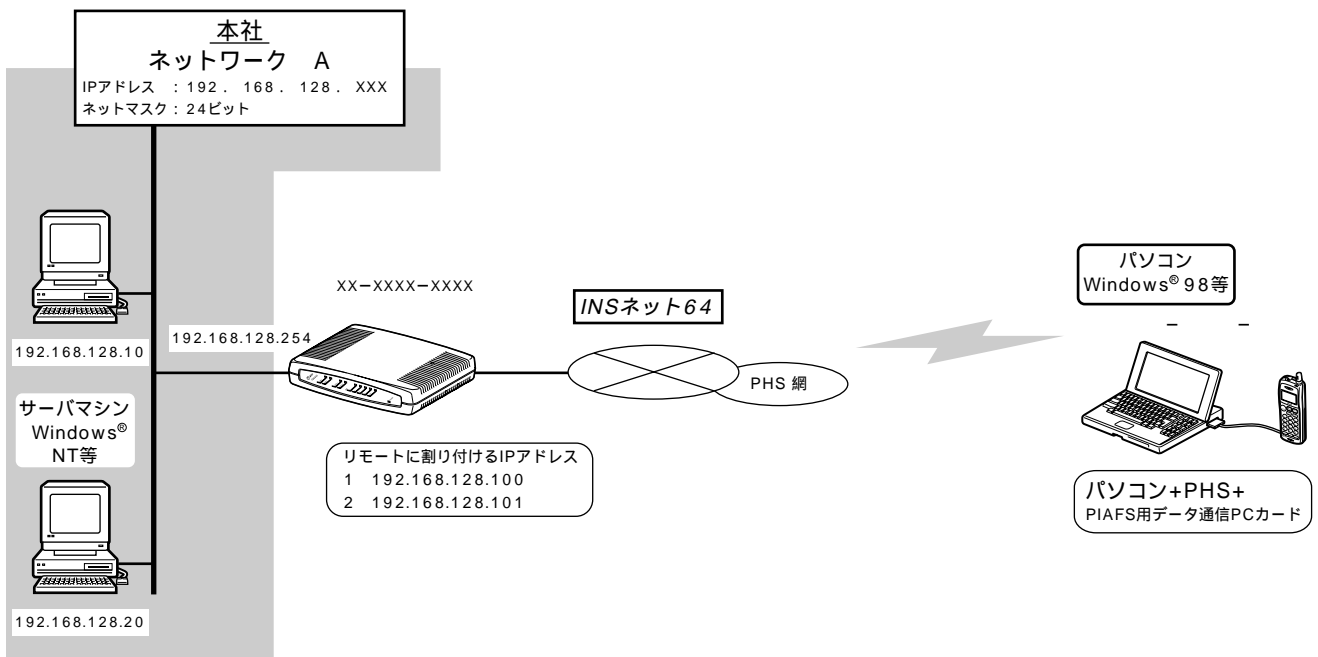
アクセスサーバ接続により、PHSと接続したパソコンと、PHSのデータ通信標準規格であるPIAFSによる通信を行うことができます。PIAFS通信を行うことにより、モバイル端末から主装置を経由して、本社のサーバへアクセスすることなどが可能になります。

PIAFS通信を行う場合、PIAFS通信用のデータ設定は特に必要ありません。通常のアksesサーバ接続と同様の設定を行ってください。(☞P118)

また、PIAFS通信は通常、着信接続のみですが、PIAFS接続後コールバックを行う場合は、発信接続を行います。データ設定は、「アクセスサーバ接続によるコールバックの設定例」を参照してください。(☞P133)

注意：パソコン側の設定は、Windows®98や接続されているPIAFS用データ通信PCカードの取扱説明書をお読みください。リモートパソコンからWindows®のファイル共有機能を利用する場合は、120ページのワンポイントを参照してください。

【構成図】



お知らせ

PIAFSの通信方式は、「PIAFS仕様書 第2.0版」に準拠します。ただし、通信中の速度切替には対応しないため、速度切替を行う機器との接続はできません。

DHCPサーバ機能によるIPアドレスの自動割り当てを行う場合の設定例を示します。

1
より
内線
便利
に機
を使
つ

2
詳
電
話
機
能
の
設
定

3
に
電
話
機
能
を
使
つ
て
設
定
例
を
利
用

4
詳
ル
ー
タ
機
能
の
設
定

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
ル
ー
タ
の
主
な
設
定
例

7
ご
参
考
に

設定について

DHCPサーバ機能により、ネットワーク端末に対してIPアドレスの動的割り付けを行うことができます。ネットワーク端末は、IPアドレスを自動的に割り当てる設定にすることで、主装置に設定されているデータによりIPアドレスを割り付けます。DHCPによるIPアドレスの割り付けは、設定されているIPアドレスの範囲から割り付ける方法と、静的に割り付ける方法があります。

以下の項目を設定してください

設定方法については「4 ルータ機能の詳細設定」を参照してください。この設定表に記載されていない項目については、すべて初期値を設定してください。

DHCPサーバ機能により、192.168.1.1～192.168.1.10までの10個を割り付けるIPアドレスに設定する場合は、次のようになります。

No	データ名称	設定するデータ
1	DHCPサーバ機能	する
2	割り付けIPアドレス	192.168.1.1
3	割り付け数	10
4	リース時間	24 (時間)
5	デフォルトゲートウェイ	192.168.1.254
6	プライマリWINSサーバ	
7	セカンダリWINSサーバ	

静的にIPアドレスを割り付けるには、次のように設定します。

ホスト名: HOSTにIPアドレス: 192.168.1.20を割り付けます。

DHCP割り付けテーブル設定

No	データ名称	設定するデータ
1	IPアドレス	192.168.1.20
2	ホスト名	HOST
3	MACアドレス	



お知らせ

端末のMACアドレスは、接続されているLANカード/ボードに記載されています。詳しくは使用しているLANカード/ボードの取扱説明書を参照してください。

DHCPによるIPアドレスの割り付けは、LAN側のみサポートとなります。

IPアドレスの割り付けは、端末から通知されるホスト名またはMACアドレスが一致した端末に割り付けます。

すでにDHCPサーバマシンがネットワークに接続されている場合は、主装置のDHCPサーバ機能を「しない」に設定し、DHCPサーバマシン側で一括管理してください。

意図しない発信が行われる条件について

PACSIAは、お買い求め時の設定ではパソコンから受信したパケットにより自動発信を行うため、パソコンの設定や起動しているアプリケーションによっては、以下のような原因で意図しない発信が行われる場合があります。

NetBIOSによる定期的なDNS問い合わせ

Windows® 95 / Windows® 98でファイル共有サービスを使用している場合に、NetBIOS over TCP / IPによりDNSサーバに定期的にパケットが送出されることによって、不要な発信が発生します。

対策 IPパケットフィルタリング設定により、NetBIOSのポート（137～139）をフィルタリングすることにより回避することができます。PACSIAでは、お買い求め時の設定でNetBIOSフィルタリングが設定されています。



お知らせ

ProxyDNS機能が「する」に設定されている場合は、接続先側ではNetBIOSの名前解決パケットをフィルタリングできないため、NetBIOSフィルタリングはLAN側に設定してください。

電子メールソフトによる定期的なメールチェック

電子メールソフトの設定でメールの自動確認を行う設定にしていると、ソフトで設定した間隔や時刻などで定期的に発信を行います。

対策 メールチェックの間隔を長くするか、自動メールチェックを行わないように設定してください。

ニュースや広告等を定期的に更新するソフト

パソコンにインターネットからニュースや広告等を定期的に更新するソフトがインストールされている場合、そのソフトが起動していると広告等をチェックするために発信が行われます。

対策 ソフトの使用を禁止することで発生を回避することができます。

IPアドレスとは

IP (Internet Protocol) により接続されるパソコンやワークステーションなどのネットワーク端末がそれぞれの機器を特定するために割り付けられるアドレスをIPアドレスといいます。

IPアドレスは、32ビットからなり8ビットごとに10進数で 192.128.128.1 というように表現します。また、IPアドレスの中でホストを識別する部分とネットワークを識別する部分に分けられます。

IPアドレスにはネットワーク部分を識別するクラスというものがあり、ネットワークの規模により割り付け可能なホストの数が決められます。

クラスは、IPアドレスの最初のビットにより以下のように判断されます。

クラス	IPアドレス 先頭の4ビット(*は任意)
クラスA	0***
クラスB	10**
クラスC	110*

クラス別のアドレス一覧を以下に示します。

クラスA	0	ネットワーク (7ビット)	ホスト (24ビット)		
クラスB	1	0	ネットワーク (14ビット)	ホスト (16ビット)	
クラスC	1	1	0	ネットワーク (21ビット)	ホスト (8ビット)

IPアドレスを主装置に割り付けるには

主装置へ割り付けるIPアドレスは、インターネットなどグローバルなネットワークに接続するような場合、インターネットサービスプロバイダなどから割り付けられたIPアドレスを設定します。

また、ローカルなネットワークに接続するような場合は、ネットワーク管理者から付与されたアドレスを設定します。

一般に、ローカル(プライベート)ネットワークでは以下のIPアドレスを使用します。

クラス	プライベートアドレスの範囲
クラスA	10.0.0.0 ~ 10.255.255.255
クラスB	172.16.0.0 ~ 172.31.255.255
クラスC	192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

1
より
内線
電話
機能
に
使用
する

2
詳細
設定
機能
の
設定

3
電話
機能
を
便利
に
使用
する
設定
例

4
ルータ
機能
の
詳細
設定

5
ルータ
の
運用

6
設定
例
の
主な

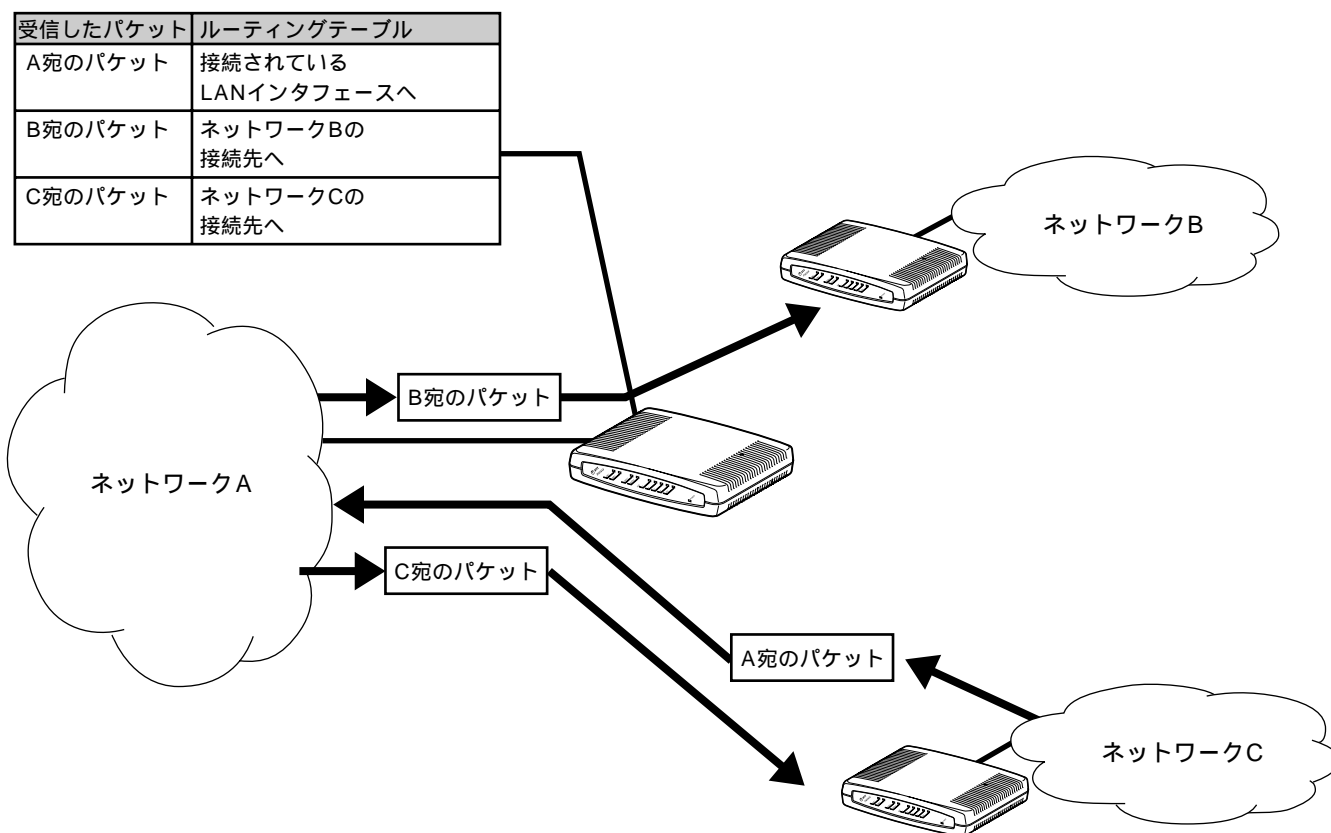
7
ご
参考に

IPルータの動作

PACSLIAは、LANインタフェースまたは接続先から受信したパケットの宛先をルーティングテーブルにより検索し、指定されたネットワークにパケットを転送します。

動作例

ネットワークAの主装置は、接続先設定でネットワークB、Cの2つの設定を行っているとして、ここでネットワークB、C宛のパケットをそれぞれの接続先にルーティング(経路指定)するようにルーティングテーブルを設定します。これらの設定により、各インタフェースで受信したパケットをそれぞれのネットワークにルーティングを行います。(注意:ネットワークB、Cに接続されている主装置も同様にルーティングの設定が必要です。)



IPルータとブリッジの違い

PACSLIAでは、接続先の動作モードを設定することでIPルータによる接続とブリッジの接続を使い分けることができます。以下にIPルータとブリッジについて説明します。

IPルータ

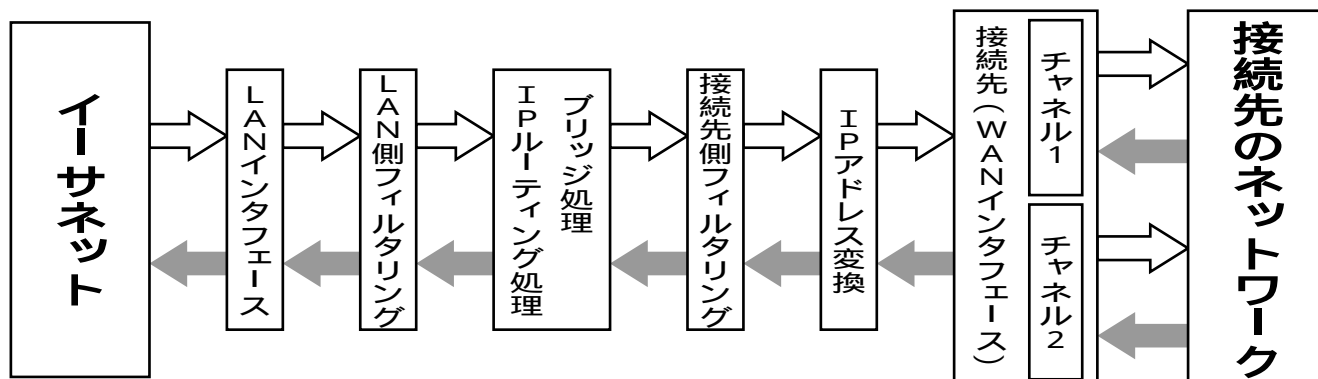
異なるIP(インターネットプロトコル)ネットワークを接続します。必要なIPパケット以外は流しませんので、必要なときだけ回線を接続し、パケットが流れない状態が続くと回線を切断します。

ブリッジ

同じネットワーク同士を接続するための機器で、すべてのパケットを流します。また、フィルタリング機能を利用して必要なパケットのみを通過させることによりネットワークのトラフィックを分散する機能もあります。

PACSLAのフィルタリングは、それぞれのインタフェース(LANインタフェース、接続先)から受信したパケットに対して行います。まず受信したインタフェースごとに設定されているフィルタリングテーブルと比較しフィルタリング/フォワーディングを行います。また、各インタフェースにパケット送出時にも同様にフィルタリング/フォワーディングを行います。パケットがフィルタリングテーブルの条件と一致する場合にフィルタリング(破棄)するかフォワーディング(転送)するかの設定は、フィルタリング設定(☞P85～95)で決定します。

パケットの流れとフィルタリングの関連を以下に示します



フィルタリング設定の方法について

フィルタリングの動作としては、「特定のパケットのみをフィルタリングする場合」と「特定のパケットのみをフォワーディングする場合」があります。

- 特定のパケットのみをフィルタリングする場合は、フィルタリングするパケットの条件を指定し、フィルタリング種別を「フィルタリング」に設定します。
- 特定のパケットのみをフォワーディングする場合は、すべての条件を「指定なし」としてフィルタリング種別が「フィルタリング」の設定を行います。この設定によりすべてのパケットがフィルタリングされるため、フォワーディングするパケットについては条件を指定して、フィルタリング種別を「フォワーディング」に設定します。

ICMPパケットによる発信をフィルタリングする場合

ICMP (pingなど) パケットを、通信中はフォワードするが通信中以外のときにフィルタリングする場合は、以下のように設定します。

- フィルタリング設定

No.	IPアドレス		プロトコル ID	ポート		フィルタリング方向	フィルタリング種別
	送信先	送信元		送信先	送信元		
1	*	*	1	*	*	送信	通信中のみフォワード

- フィルタリングテーブル

接続先	フィルタリング設定	
	1	
すべてのインタフェース	<input type="checkbox"/>	
LAN1	<input type="checkbox"/>	
INTERNET	<input checked="" type="checkbox"/>	

インターネットへのアクセスを制限する場合

ローカルネットワークからインターネットへアクセスするときに、HTTPサーバへのアクセスのみを許可する場合は、以下のように設定します。

- フィルタリング設定

No.	IPアドレス		プロトコル ID	ポート		フィルタリング方向	フィルタリング種別
	送信先	送信元		送信先	送信元		
1	*	*	*	*	*	送信	フィルタリング
2	*	*	*	HTTP	*	送信	フォワーディング

- フィルタリングテーブル

接続先	フィルタリング設定	
	1	2
すべてのインタフェース	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
LAN1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
INTERNET	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

(次ページへつづく)

1
内線電話機をより便利に使う

2
電話機能の詳細設定

3
電話機能を利用しやすく設定例

4
ルータ機能の詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な設定例

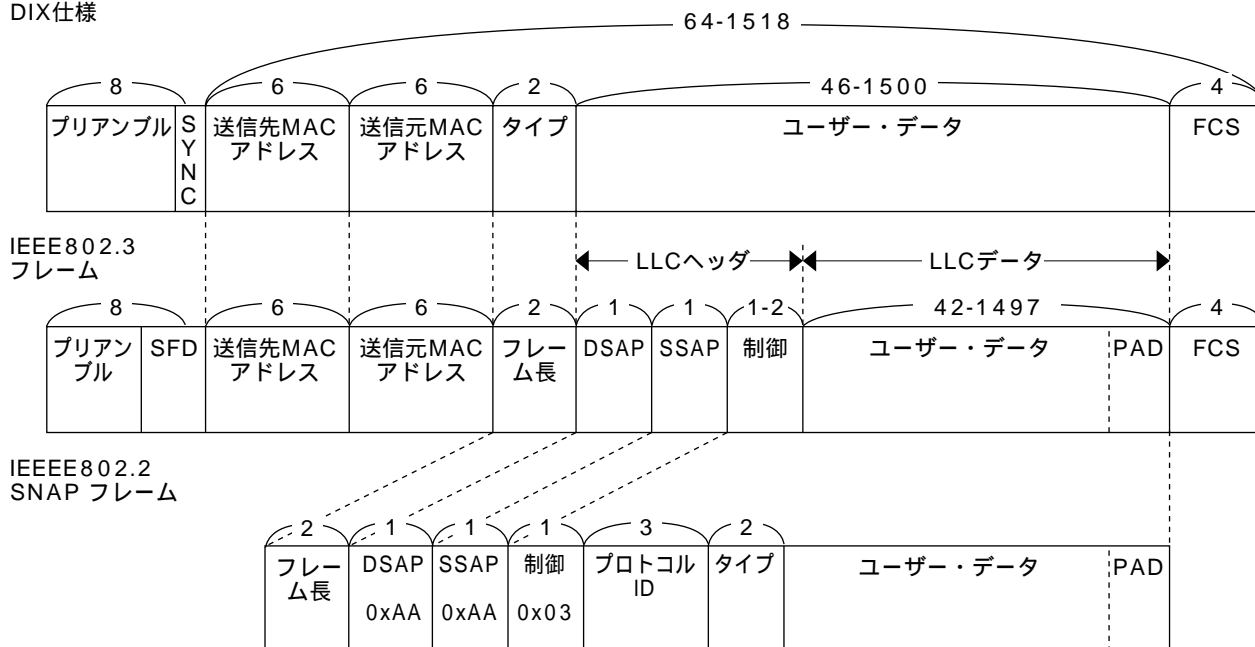
7
ご参考に

(前ページのつづき)

イーサネットパケットの構造

主装置が收容するイーサネット (CSMA/CD型) LANでは、DIX仕様、IEEE802.3フレームにより下図に示すような形式で転送されます。各フィルタリング機能は、これらのフォーマットに従いフィルタリングを行います。

イーサネットフレーム
DIX仕様



SFD : 開始フレーム・デマリタ
FCS : フレーム・チェック・シーケンス
DSAP : 送信先サービスアクセスポイント
SSAP : 送信元サービスアクセスポイント
PAD : パディング
LLC : 論理リンク制御

フレームの詳細

種類	名称	RFC	状況
イーサネット	Internet Protocol on Ethernet Networks	RFC 894	標準化
IEEE802.3	Internet Protocol on IEEE802	RFC 1042	標準化

MACフレームのフィルタリング

MACフレームに関連するフィルタリングでは、イーサネットパケット構造で示したフレームから各種フィルタリングを行います。

- MACアドレスフィルタリング
各フレームの送信元MACアドレス / 送信先MACアドレスとテーブルデータを比較してフィルタリングを行います。
- イーサネットタイプフィルタリング
イーサネット (DIX仕様) フレームのタイプフィールド、またはIEEE802.2SNAPフレームのタイプフィールドとテーブルデータを比較しフィルタリングを行います。
- IEEE802.3フレームフィルタリング
IEEE802.3フレームパケットに対してフィルタリングを行います。

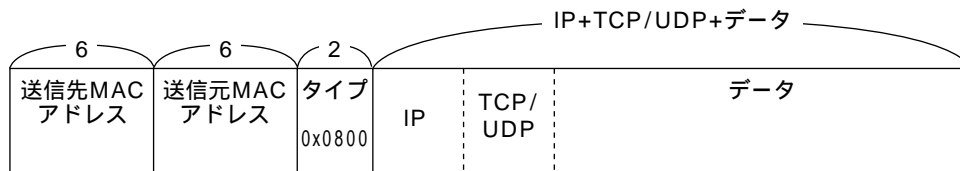
IPパケットの構造とフィルタリング

IPパケットフィルタリングでは、次に示すIPデータグラムおよびTCPセグメント/UDPデータグラムの形式から各フィルタリングを行います。

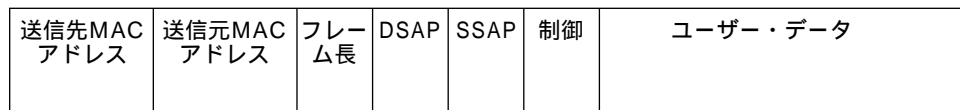
IPパケットは、イーサネット（DIX仕様）フレーム、IEEE802.2SNAPフレームのタイプフィールドがIP（0x800）として判断します。

- 送信元IPアドレスフィルタリング
IPデータグラムの送信元IPアドレスとテーブルデータを比較してフィルタリングを行います。
- 送信先IPアドレスフィルタリング
IPデータグラムの送信先IPアドレスとテーブルデータを比較してフィルタリングを行います。
- プロトコルIDフィルタリング
IPデータグラムのプロトコル番号とテーブルデータを比較してフィルタリングを行います。
- 送信元ポートフィルタリング
TCPセグメント/UDPデータグラムの送信元ポート番号テーブルデータを比較してフィルタリングを行います。
- 送信先ポートフィルタリング
TCPセグメント/UDPデータグラムの送信先ポート番号テーブルデータを比較してフィルタリングを行います。

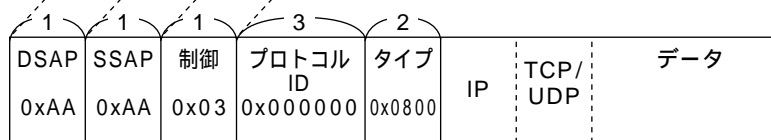
イーサネットフレーム
DIX仕様



IEEE802.3
フレーム



IEEE802.2
SNAP フレーム



(次ページへつづく)

フィルタリングについて

(前ページのつづき)

IPデータグラム

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1

版番号	長さ	サービスタイプ	全長
識別値			フラグ
生存時間	プロトコル番号		フラグメントオフセット
ヘッダチェックサム			
送信元IPアドレス			
送信先IPアドレス			
オプションリスト			パディング
データ			

TCPセグメント

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1

送信元ポート番号					送信先ポート番号				
順序番号									
ACK番号									
データオフセット	予約済み	U R G	A C K	P S H	R S T	S Y N	F I N	ウィンドウ	
チェックサム					緊急データポインタ				
オプションリスト								パディング	
データ									

UDPデータグラム

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1

送信元ポート番号					送信先ポート番号				
パケット長					チェックサム				
データ									

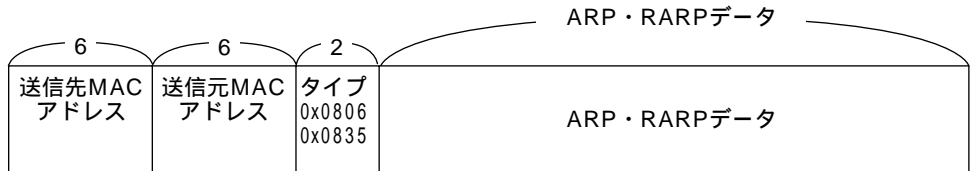
ARP・RARPパケットの構造とフィルタリング

ARP・RARPパケットは、イーサネット（DIX仕様）フレームのタイプフィールド、または、IEEE802.2 SNAPフレームのタイプフィールドにより判断され、それぞれARP（0x806）、RARP（0x8035）により区別されます。

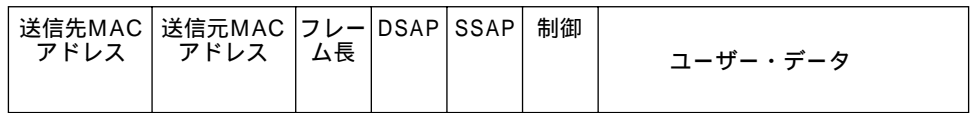
• IPパケットのプロトコルフィルタリング

IPパケットのプロトコルフィルタリングでは、IPパケットと同時にARP・RARPパケットもフィルタリングされます。

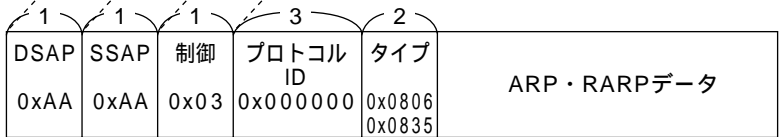
イーサネットフレーム
DIX仕様



IEEE802.3
SNAP フレーム



IEEE802.2
SNAP フレーム



ARPデータ

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1

ハードウェアアドレスタイプ					プロトコルタイプ									
ハードウェアアドレス長					プロトコルアドレス長					オペコード				
要求側ハードウェアアドレス (Nバイト)														
要求側プロトコルアドレス (Mバイト)														
応答側ハードウェアアドレス (Nバイト)														
応答側プロトコルアドレス (Mバイト)														

(次ページへつづく)

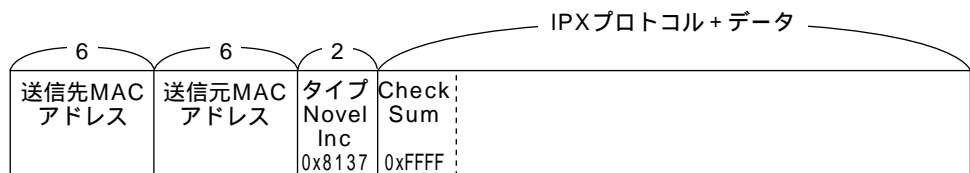
(前ページのつづき)

NetWareパケットの構造とフィルタリング

NetWareパケットフィルタリングでは、次に示すNetWareパケットの形式から各フィルタリングを行います。NetWareパケットはイーサネット (DIX仕様) フレーム、IEEE802.2 SNAPフレームのタイプフィールドがNetWareInc (0x8137、0x8138) でかつ、データ部の先頭2バイトが0xFFFFの場合にNetWareパケットと判断します。IEEE802.3フレームの場合は、データ部の先頭2バイトが0xFFFFのときにNetWareパケットと判断します。

- NetWareパケットフィルタリング
NetWareパケットのフィルタリングを行います。

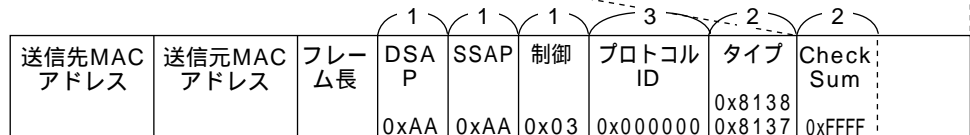
イーサネットフレーム
DIX仕様



IEEE802.3
フレーム



IEEE802.2
SNAP フレーム



IEEE802.2
NW フレーム



NetWareパケットプロトコル部

0	1	2	3
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1
Check Sum		Length	
Transport Control		Packet Type	
Destination Node Address			
Destination Network Address			
Destination Socket		Source Node Address(HI)	
Source Node Address(LOW)		Source Network Address(HI)	
Source Network Address(LOW)		Source Node Address	

AppleTalkパケットの構造とフィルタリング

AppleTalkパケットは、EtherTalk 1.0 がイーサネット（DIX仕様）フレーム、EtherTalk2.0 がIEEE802.2 SNAPフレームによりカプセルされます。

AppleTalkパケットのフィルタリングでは、それぞれのフレームのタイプが0x809Bと一致する場合にパケットをAppleTalkパケットとして判断します。

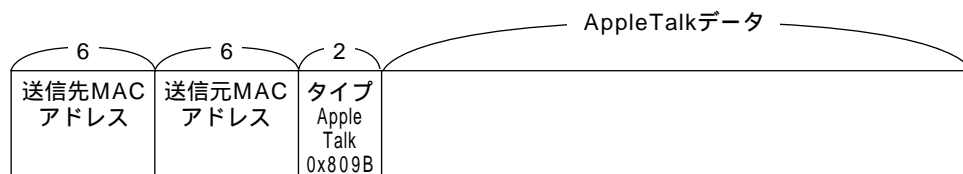
- AppleTalkパケットのフィルタリング

AppleTalkパケットのフィルタリングでは、同時にARP（0x80F3）についてもフィルタリングを行います。

- ブロードキャストフィルタリング

AppleTalkのブロードキャストアドレスは、MACフレームの送信先MACアドレスが0x090007FFFFFFの場合にフィルタリングを行います。

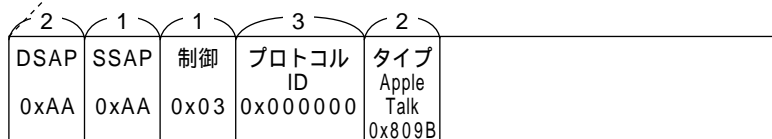
イーサネットフレーム
DIX仕様



IEEE802.3
フレーム



IEEE802.2
SNAP フレーム



ここでは、主装置が発信時・着信時にどのように動作するかを説明します。

通信の種別は次のとおりです

接続するインタフェースの接続モード、バルク設定、暗号化通信等の設定はすべて同じにしてください。一方でも異なると、正常に通信が行えません。

1. PACSIAの主装置相互によるルータ接続
2. PACSIAの主装置対他社ルータによるルータ接続
3. PACSIAの主装置対PC接続によるリモートアクセス接続 (IPパケットのみ)
4. PACSIAの主装置相互によるブリッジ接続

発信動作

発信動作は、次の要因により行われます。

- ルーティング情報による自動発信
- MACアドレス自動発信
- パケットのプロトコルタイプによる自動発信 (IP、NetWare、AppleTalk)
- IPアドレス自動発信

「ルーティング情報による自動発信」について

受信したパケットが接続先に対してルーティングの設定がされていて、かつ、その接続先が自動発信するように設定されている場合に発信を行います。

「IPアドレス自動発信」について

IPアドレス自動発信は、発信動作を起動する要因として設定されたIPアドレスを受信したとき、そのIPアドレスが自動発信IPアドレステーブルに設定されていれば、対応する接続先名を接続先から検索し、一致した場合にその接続先の設定に従って自動発信を行います。

「MACアドレス自動発信」について

MACアドレス自動発信もIPアドレス自動発信と同様に、受信したMACアドレスが、自動発信MACアドレスに設定されていれば対応する接続先により接続を行います。

「プロトコルタイプによる自動発信」について

プロトコルタイプによる自動発信は、受信したパケットのプロトコルのタイプ (IP、NetWare、AppleTalk) が、自動発信プロトコルテーブルに設定されていれば、プロトコルタイプに対応する接続先により接続を行います。

お知らせ

発信動作について、以下の設定を必要とします。

- 自動発信要因 (自動発信用IPアドレス、自動発信用MACアドレス、自動発信用プロトコルパケット)
- 自動発信に対する接続先

着信動作

主装置は、着信時に通知される相手の電話番号およびサブアドレスにより接続する接続先を決定することができます。

- 1 接続先設定の接続モードが「IPルータ」、「ブリッジ」、「アクセスサーバ」のいずれかに設定され、かつ自動着信が「する」に設定されている接続先を検索します。
- 2 相手から通知された電話番号と一致する接続先を検索します。
接続先が存在しない場合は、「不特定着信設定」の接続先を検索します。該当する接続先がない場合には着信応答しません。
- 3 着信応答した場合は、相手ログイン名/相手パスワードによる認証を行います。
 - 相手から受信されたLCPオプションで認証を要求された場合はCHAPまたはPAPの認証を許可します。
 - LCPが確立した時点で、「LCPネゴシエーション結果」、「認証要求設定」と「接続先の認証設定」の結果から認証を行い、ログイン名/パスワードが一致した場合に接続します。ログイン名/パスワードが一致しない場合は切断します。

1
より
内線
便利
電話機
を使う

2
電話機
機能
の
詳細
設定

3
電話機
機能
を
便利
に
使う
設定
例

4
ルータ
機能
の
詳細
設定

5
ルータ
の
運用

6
ルータ
の
主な
設定
例

7
ご
参考
に

コールバックについて

着信時に、発信側からの要求に対して、コールバックによる発信を行います。コールバックの方式は、CBCP (Proposal for Callback Control Protocol:draft-ietf-pppext-callback-cp-02.txt) を使用します。

コールバックの設定は、接続先設定により行います。着信時、CBCPにより相手装置からコールバックのオプションを要求された場合に、接続先の設定でコールバック「しない」で設定されている場合はコールバックを行いません。

コールバックを行う電話番号を決定するためには、次の2つの方法があります。

発信側が電話番号を通知する方法

着信時に認証により発信者から通知されるログイン名に対応した電話番号の設定が「相手から指定」になっている場合は、発信側に対して「コールバックする電話番号の要求」と、「コールバックを拒否する」という2つのいずれかを通知します。

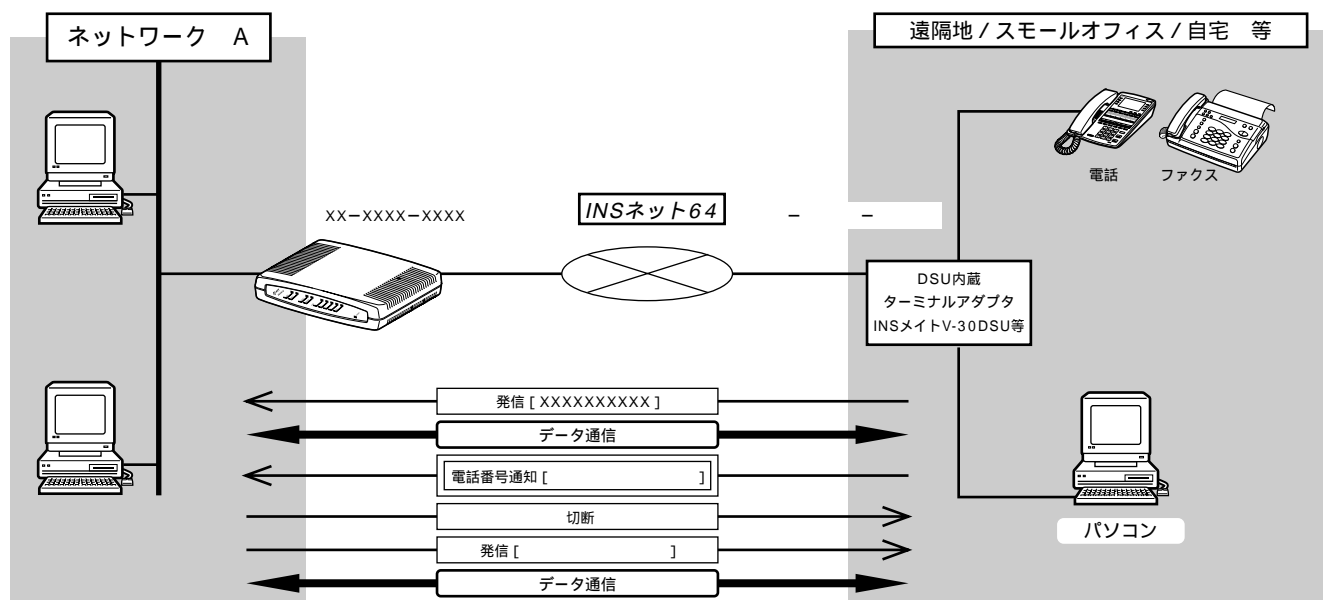
発信者側は、電話番号を通知するか、もしくはコールバック拒否を選択します。このとき発信者側から電話番号を通知した場合は、回線を切断し、発信者が通知した電話番号により自動発信を行います。発信者側からコールバック拒否で接続された場合は、コールバックせずそのまま接続します。

以下に発信側が電話番号を通知する場合の設定例、および動作を示します。

接続先設定

コールバック : 「する」
 コールバック方式 : 「相手から指定」
 相手電話番号 :

【構成図】



お知らせ

使用するターミナルアダプタの機種によっては、コールバック接続に対応していないものがあります。

コールバックを行う場合は、必ず認証要求設定をしてください。認証要求設定が「しない」の場合、コールバックを行うことはできません。

発信側に対して設定されている電話番号でコールバックを行う方法

着信時に認証により発信者から通知されるログイン名に対応するコールバックの電話番号が設定されている場合は、発信側に対して設定されている電話番号によりコールバックを行います。

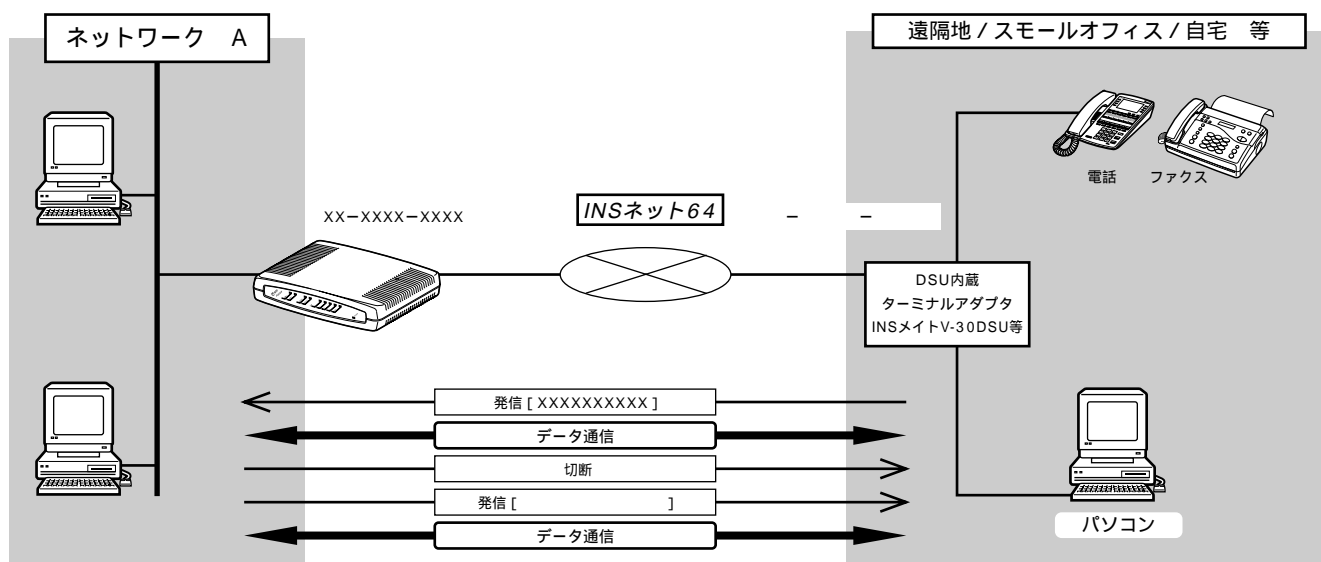
発信者側がこの設定に対して応答した場合は、回線を切断し、設定されている電話番号により自動発信を行います。発信者側がこの設定に応答しない場合は、そのまま回線は切断されます。

以下に発信側に対して設定されている電話番号でコールバックを行う場合の設定例、および動作を示します。

接続先設定

- コールバック : 「する」
- コールバック方式 : 「相手電話番号を指定」
- 相手電話番号 :

【構成図】



お知らせ

相手電話番号の設定は電話番号とサブアドレスを含み、最大登録桁数は36桁です。
コールバックを行う場合は、必ず認証要求設定をしてください。認証要求設定が「しない」の場合、コールバックを行うことはできません。

IPアドレス変換機能について

IPアドレス変換機能は、NAT (The IP Network Address Translator:RFC1631) を独自拡張したものでローカルLANのIPアドレスをグローバルIPアドレスに変換します。アドレス変換機能を使用することで、グローバルなネットワーク (インターネット) から内部のローカルネットワークを隠蔽することが可能なため、セキュリティ効果も得られます。

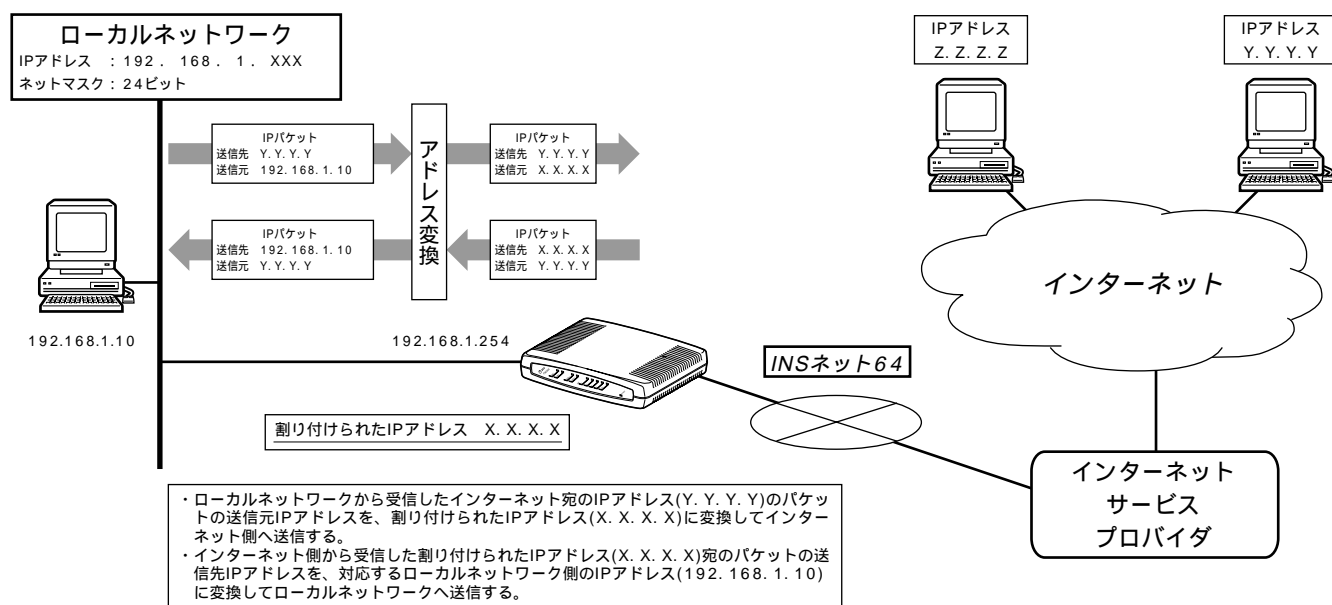
IPアドレス変換機能では、IPヘッダ内のIPアドレスの変換にともない、チェックサムの変換も行います。また、上位プロトコルがTCPの場合は、TCPヘッダ内のポート番号、SEQ/ACK番号、チェックサムの変換を行い、UDPの場合は、UDPヘッダ内のポート番号、チェックサムの変換を行います。

IPアドレス変換は接続先設定により設定を行います。また、IPアドレス変換機能は、接続方法により次の2つの方法があります。

端末型ダイヤルアップ接続によるIPアドレス変換

端末型ダイヤルアップ接続によるIPアドレス変換は、インターネットサービスプロバイダなどに接続時に相手から割り当てられるグローバルなIPアドレスに対してローカルIPアドレスを変換する方法です。この方法は、ローカルLAN側からグローバルネットワークに対するパケットのローカルIPアドレスをグローバルIPアドレスに変更して送信し、グローバルネットワーク側から受信したパケットのグローバルIPアドレスをローカルIPアドレスに変更します。

【構成図】



お知らせ

端末型ダイヤルアップ接続によるIPアドレス変換は、グローバルネットワークからローカルネットワークへのアクセスはできません。

1
より
内線
便利
電話
機能
を使
う

2
詳細
電話
機能
設定
の

3
に電
話機
能を
便利
に使
う設
定例

4
詳細
ルー
ター
機能
設定
の

5
ルー
ター
の運
用

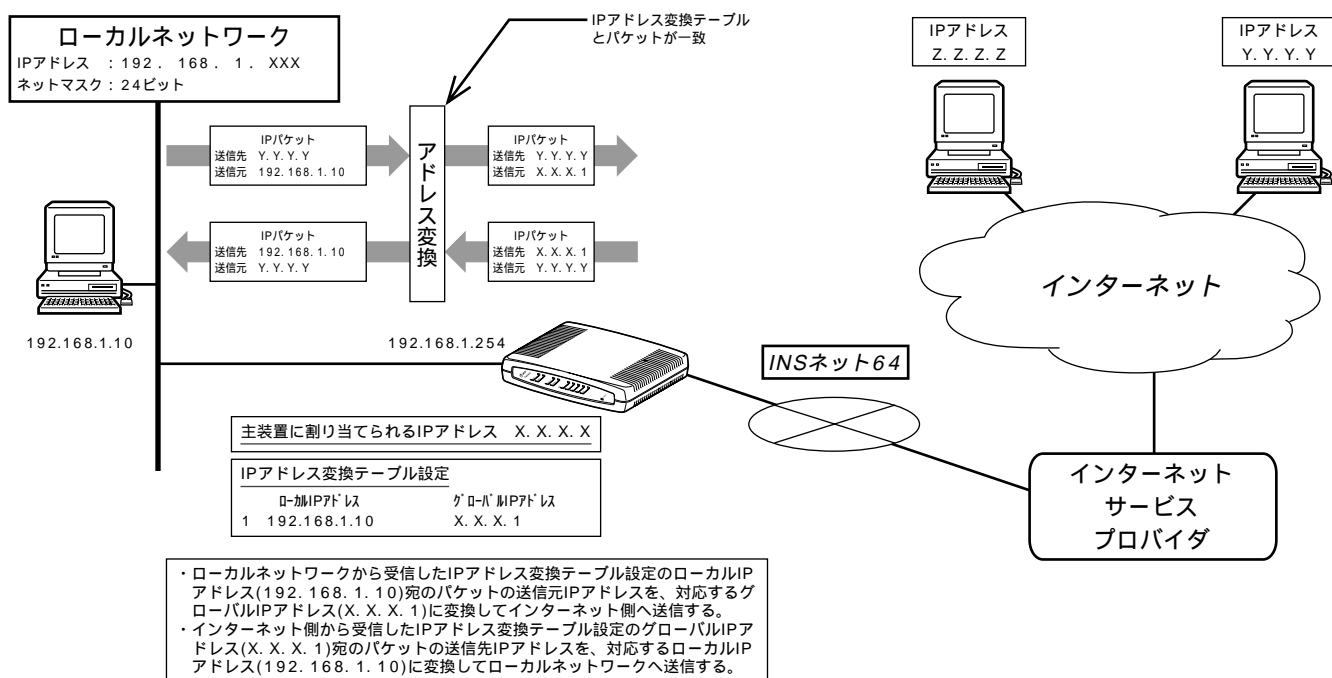
6
設定
例
ルー
ター
の主
な

7
ご参
考に

LAN型ダイヤルアップ接続によるIPアドレス変換

LAN型（ネットワーク型）ダイヤルアップ接続によるIPアドレス変換は、インターネットサービスプロバイダから正式に割り当てられたグローバルIPアドレスを用いてIPアドレス変換を行う機能です。グローバルIPアドレスは、複数登録（最大登録数16）可能でそれぞれのIPアドレスに対してローカルIPアドレスを割り当てる変換テーブルを登録することで、グローバルネットワークからローカルネットワークへのアクセスが可能となります。

【構成図】



お知らせ

LAN型ダイヤルアップ接続により複数のIPアドレスをプロバイダから割り当てられている場合は、グローバルなIPアドレスに対してローカルネットワークへのIPアドレス変換テーブル（接続先設定）を設定することにより、グローバルネットワークから指定されたローカル端末へのアクセスが可能になります。

DHCPによる動的アドレス割り付け

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) は、クライアント機能を持つ端末に対して、IPアドレス・DNSサーバアドレス・ゲートウェイアドレスを割り付けることができます。

PACSLAのDHCP機能を使用することにより、端末への設定が容易になります。

DHCPを使用する利点は、ネットワーク端末でDHCPクライアント機能を利用することにより、DHCPサーバからIPアドレスを自動的に割り当てることができます。これによりネットワーク端末へのIPアドレス設定をDHCPによる動的割り付けに設定することで、ネットワーク端末側の設定も容易になります。

また、IPアドレスと同時に、ネットマスクや、DNSアドレス、ゲートウェイアドレスも通知するため、これらの情報を一元管理することができます。

PACSLAのDHCPサーバ機能は、次のデータを割り付けまたは通知します。

Client Server-assigned IP address

クライアントに割り付けるIPアドレスです。

動的な割り付けと静的な割り付けがあり、DHCPサーバ設定に従いIPアドレスを割り付けます。

Server IP address(DHCP Server)

DHCPサーバとしての主装置のLANインタフェースで設定されているIPアドレスを通知します。

Subnet mask

主装置のLANインタフェースで設定されているサブネットマスクを通知します。

Gateway Address

デフォルトゲートウェイアドレスを通知します。

DHCPサーバ設定のデフォルトゲートウェイを通知します。

Domain Name Server address

DNSサーバアドレスを通知します。

ProxyDNS機能を「する」に設定されている場合は、主装置のIPアドレスを通知し、「しない」に設定されている場合は、DNSサーバアドレス通知設定のプライマリDNSサーバ、セカンダリDNSサーバのIPアドレスを通知します。

NetBIOS over TCP/IP Name Server

DHCPサーバ設定で登録されたプライマリWINSサーバおよびセカンダリWINSサーバを通知します。

- 指定されたIPアドレスの範囲から自動的に割り付ける動的な割り付け

パソコン側へは、自動的に設定されたIPアドレスを割り付けるためIPアドレスを意識する必要がありません。

DHCPサーバ設定の割り付けを行う先頭IPアドレスを設定し、割り付け数分のIPアドレスから空いているIPアドレスを割り付けます。

- DHCP割り付けテーブルによる静的な割り付け

動的な割り付けと同様に自動的にIPアドレスを割り付けますが、ネットワーク端末ごとに固定のIPアドレスを割り付けます。これは、サーバなど外部からアクセスされるような場合に設定します。

DHCPクライアントからのアドレス要求において、要求しているクライアントのホスト名またはMACアドレスからDHCP割り付けテーブルを比較し、一致した場合に登録されているIPアドレスを割り付けます。



お知らせ

同じネットワーク内で他のDHCPサーバがすでに起動している場合は、主装置のDHCPサーバ機能を「しない」に設定してください。

DHCPサーバ機能は、初期設定で「する」に設定されています。

ネットワーク端末側のDHCPクライアント設定については、Windows® 95 / 98などの取扱説明書をお読みください。

WindowsNT[®] 4.0 / Windows[®] 2000

必要な準備

PACISIAの「かんたん設定」を利用して、電話とインターネットの設定を行う場合には、パソコン側で以下の準備が必要です。

WindowsNT [®] 4.0 / Windows [®] 2000	
LANカード / ボード	主装置を利用する場合にパソコンに装着されていることが必要です。お使いのパソコンに適するLANカード / ボードをご用意ください。
WWWブラウザ	市販品やフリーウェアなどをご用意ください。電子メールなども同様です。主装置の設定を行う場合には、次のWWWブラウザを推奨します。 <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 5以上 • Netscape Navigator 4.0以上
10BASE-Tケーブル	主装置とパソコン、またはハブを接続するときに必要です。10BASE-Tケーブルは、主装置とパソコンを直接接続する場合にはストレートケーブルを使用してください。ハブと接続する場合は、「他のハブとのカスケード接続（かんたんガイド⇨P43）」を参照してください。
インターネットサービスプロバイダへの加入	インターネット接続を行う場合、インターネットにアクセスするサービスを提供するプロバイダに加入するのが一般的です。



ワンポイント

Windows[®] 95 / Windows[®] 98の設定を行うには「パソコンの接続」（かんたんガイド⇨P42）を参照してください。



お知らせ

ここでの説明は、一例を示しています。詳細は、ソフトウェアメーカー、パソコンメーカー、LANカード / ボードメーカー、インターネットサービスプロバイダ等にお問い合わせください。

TCP / IPプロトコルおよびLANカード / ボードのソフトウェア（ネットワークドライバ）のインストールには、Windows[®] NT / Windows[®] 2000のCD-ROMまたは、フロッピーディスクやLANカード / ボードメーカから提供されたフロッピーディスクが必要になる場合があります。

Windows[®] 95は、Microsoft[®] Windows[®] 95 operating systemの略です。

Windows[®] 98は、Microsoft[®] Windows[®] 98 operating systemの略です。

Windows NT[®] 4.0は、Microsoft[®] Windows NT[®] operating system Version 4.0の略です。

Windows[®] 2000は、Microsoft[®] Windows[®] 2000 operating systemの略です。

1
より線電話機
に使用2
電話機能
の詳細設定3
電話機能
設定例4
ルータ機能
の詳細設定5
ルータの
運用6
ルータの
設定例7
参考に

Windows NT® 4.0

主装置の設定を行う前に必要に応じてお使いのパソコンで次のような操作を行ってください。

- ① パソコンを起動
- ② LANカード / ボードの設定
- ③ TCP / IPのインストール
- ④ TCP / IPの設定

① パソコンを起動する

パソコンの電源を入れ、起動します。
デスクトップ画面の表示になります。

② LANカード / ボードの設定を行う

すでにLANカード / ボードを使用している場合は、「TCP / IPのインストール」へ進んでください。

1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定] をポイントして、[コントロールパネル] をクリックします。

[コントロールパネル] が表示されます。

お知らせ

お使いのLANカード / ボードの取扱説明書を参照し、指示に従って選択してください。

2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

「ネットワーク」画面が表示されます。

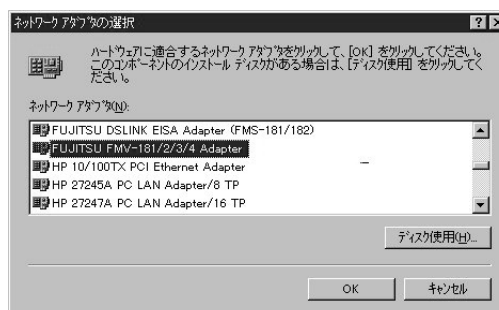


3 [アダプタ] タブをクリックしてから、「追加」ボタンをクリックします。



4 [ネットワークアダプタ] から適切なものを選択し、「OK」ボタンをクリックします。

「ネットワークアダプタの選択」画面が表示されます。



③ TCP/IPのインストールを行う

1 「ネットワーク」画面で [プロトコル] タブをクリックします。

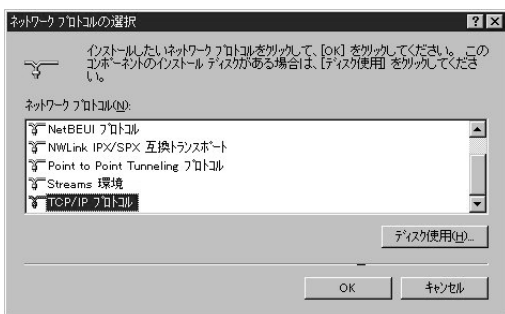


2 [ネットワークプロトコル] に [TCP/IPプロトコル] があるか確認します。

ある場合は、「TCP/IPの設定」へ進んでください。

3 「追加」ボタンをクリックします。

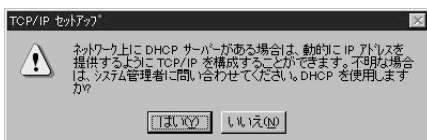
「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されます。



4 [ネットワークプロトコル] から、[TCP/IPプロトコル] を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

TCP/IPプロトコルがインストールされます。

次のメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックしてください。



④ TCP/IPの設定を行う

1 [TCP/IPプロトコル] をダブルクリックします。または、「プロパティ」ボタンをクリックします。

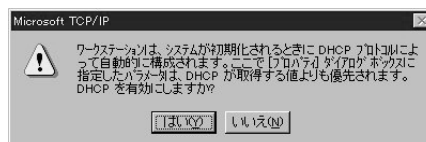


2 [IPアドレス] タブをクリックし、[DHCPサーバからIPアドレスを取得する] をクリックします。

「TCP/IPのプロパティ」画面が表示されます。



次のメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックしてください。



(次ページへつづく)

(前ページのつづき)

- 3 [DNS] タブをクリックし、[ドメイン名] および [DNSサービスの検索順] に値が設定されている場合は削除します。



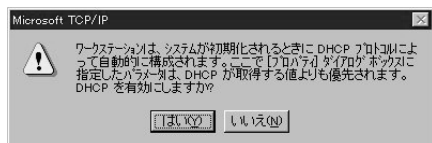
- 4 お使いのパソコンのホスト名を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

[ホスト名] は何を設定してもかまいません。適当な名前を入力してください。

「OK」ボタンをクリックすると、「ネットワーク」画面に戻ります。

- 5 「OK」ボタンをクリックします。

次のメッセージが表示されたら、[はい] をクリックし、パソコンを再起動してください。



Windows® 2000

主装置の設定を行う前に必要に応じてお使いのパソコンで次のような操作を行ってください。

- 1 パソコンを起動
- 2 LANカード / ボードの設定
- 3 TCP / IPのインストール
- 4 TCP / IPの設定

1 パソコンを起動する

パソコンの電源を入れ、起動します。
デスクトップ画面の表示になります。

2 LANカード / ボードの設定を行う

すでにLANカード / ボードを使用している場合は、「TCP / IPのインストール」へ進んでください。

1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定] をポイントして、[コントロールパネル] をクリックします。

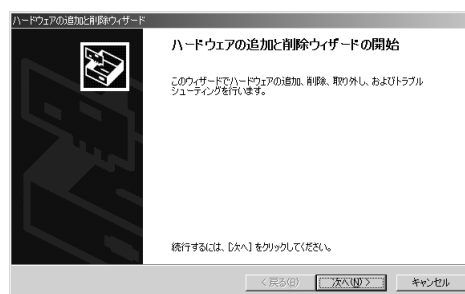
[コントロールパネル] が表示されます。

お知らせ

お使いのLANカード / ボードの取扱説明書を参照し、指示に従って選択してください。

2 [ハードウェアの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。

「ハードウェアの追加と削除ウィザードの開始」画面が表示されます。



3 画面に表示される指示に従って、LANアダプタ / カードの設定をします。

3 TCP / IPのインストールを行う

1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定] をポイントして、[コントロールパネル] をクリックします。

[コントロールパネル] が表示されます。

2 コントロールパネルの [ネットワークとダイヤルアップ接続] をダブルクリックします。

「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面が表示されます。

(次ページへつづく)

1
より
便利
に
使
つ

2
詳
細
設
定
の

3
に
使
つ
設
定
例

4
詳
細
設
定
機
能
の

5
ル
ー
タ
の
運
用

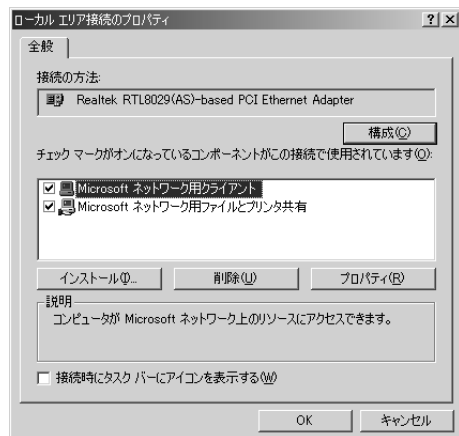
6
設
定
例
の
主
な

7
参
考
に

(前ページのつづき)

- 3 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が表示されます。

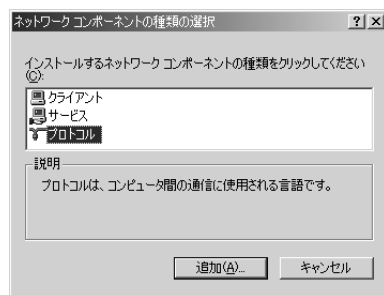


- 4 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] があるか確認します。

ある場合は「TCP/IPの設定」へ進んでください。

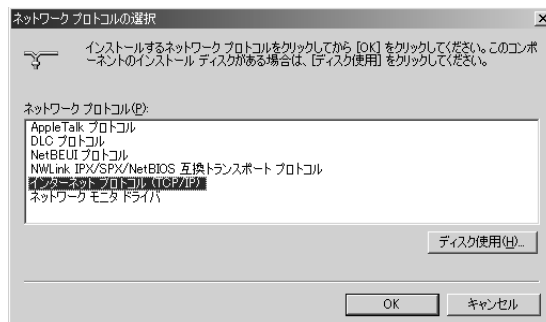
- 5 「インストール」ボタンをクリックします。

「ネットワークコンポーネントの種類を選択」画面が表示されます。



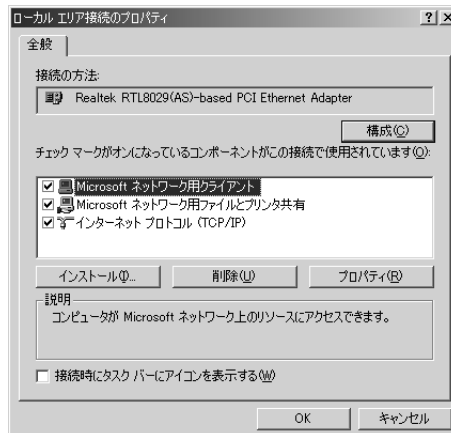
- 6 [プロトコル] を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されます。



- 7 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

TCP/IPプロトコルがインストールされます。

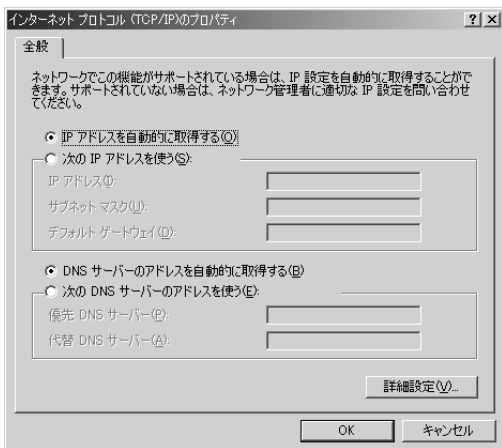


4 TCP/IPの設定を行う

1 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



2 [IPアドレスを自動的に取得する] と [DNSサーバのアドレスを自動的に取得する] をクリックします。



3 「詳細設定」ボタンをクリックします。

「TCP/IP詳細設定」画面が表示されます。



4 [IPアドレス] に [DHCP有効] または [デフォルトゲートウェイ] は空欄になっていることを確認します。

5 「OK」ボタンをクリックします。

「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面に戻ります。

6 「OK」ボタンをクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」画面に戻ります。

7 「OK」ボタンをクリックします。

Macintosh

必要な準備

PACSLAの「かんたん設定」を利用して、電話とインターネットの設定を行う場合には、パソコン側で以下の準備が必要です。

	Macintoshの場合	
LANカード / ボード	主装置を利用する場合にパソコンに装着されている必要があります。お使いのパソコンに適するLANカード / ボードをご用意ください。	
WWWブラウザ	市販品やフリーウェアなどをご用意ください。電子メールなども同様です。主装置の設定を行う場合には、次のWWWブラウザを推奨します。 <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 5以上 • Netscape Navigator 4.0以上 	
TCP / IPソフトウェア	漢字Talk7.1をご利用の場合	「MacTCP」をご用意ください。
	漢字Talk7.5および漢字Talk7.5.1をご利用の場合	漢字Talkに付属の「MacTCP」をご用意ください。
	漢字Talk7.5.2および漢字Talk7.6.1以降をご利用の場合	漢字Talkに付属の「MacTCP」または「Open Transport」をご用意ください。
10BASE-Tケーブル	主装置とパソコン、またはハブを接続するときに必要です。10BASE-Tケーブルは、主装置とパソコンを直接接続する場合にはストレートケーブルを使用してください。ハブと接続する場合は、「他のハブとのカスケード接続（かんたんガイドP43）」を参照してください。	
インターネットサービスプロバイダへの加入	インターネット接続を行う場合、インターネットにアクセスするサービスを提供するプロバイダに加入するのが一般的です。	



お知らせ

ここでの説明は、一例を示しています。詳細は、ソフトウェアメーカー、パソコンメーカー、LANカード / ボードメーカー、インターネットサービスプロバイダ等にお問い合わせください。

TCP / IPプロトコルおよびLANカード / ボードのソフトウェア（ネットワークドライバ）のインストールには、MacintoshのCD-ROMまたは、フロッピーディスクが必要になる場合があります。

Macintosh

主装置の設定を行う前に必要に応じてお使いのパソコンで次のような操作を行ってください。

- 1 Macintoshの起動
- 2 TCP/IPソフトウェアのインストール
- 3 TCP/IPソフトウェアの設定
お使いになるTCP/IPソフトウェア(MacTCP、OpenTransport)によって、操作内容が異なります。

1 Macintoshを起動する

Macintoshの電源を入れ、起動します。

2 TCP/IPソフトウェアのインストールを行う

LANボードを新規に購入したときは、専用の機能拡張書類が付属している場合があります。インストールドキュメントに従って、システムフォルダ内の機能拡張フォルダにコピーしてください。MacTCPとOpenTransportは、ともにインストールドキュメントに従ってシステムフォルダにインストールしてください。漢字Talk7.5以降をご利用の場合は、通常はすでにインストールされていますので、インストールは不要です。MacTCPおよびOpenTransportをインストールした場合は、Macintoshを再起動してください。

(次ページへつづく)



お知らせ

MacTCPおよびOpenTransportはなるべく新しいバージョンをご用意ください。新しいバージョンのソフトウェアは各種雑誌やftpサイトなどで入手してください。

1
より
内線
電話
機能
を
使
う

2
詳
細
電
話
機
能
の
設
定

3
電
話
機
能
を
使
う
設
定
例

4
ル
ー
タ
機
能
の
設
定

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
ル
ー
タ
の
主
な
設
定
例

7
ご
参
考
に

(前ページのつづき)

③ TCP/IPのインストールを行う

MacTCPをお使いになる場合

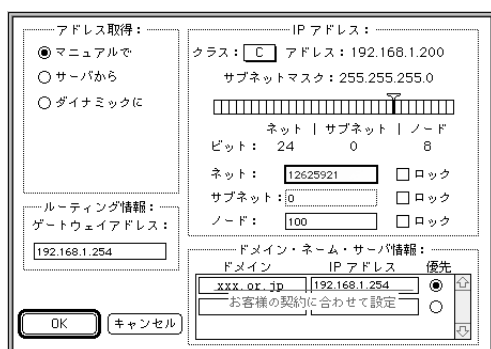
MacTCPをお使いになる場合は、DHCP機能を使用しないで、IPアドレスを固定します。

1 「MacTCPコントロールパネル」を開きます。



2 [Ethernet]を選択し、[詳しく]をクリックします。

詳細設定パネルが表示されます。



3 次のように設定します。

- | | |
|----------------|--|
| アドレス取得 | : マニュアルで |
| ルーティング情報 | |
| • ゲートウェイアドレス | : 主装置のIPアドレスを設定します。
192.168.1.254 |
| IPアドレス | |
| • クラス | : クラスC を選択 |
| ドメイン・ネーム・サーバ情報 | |
| • ドメイン | : お客様のご契約されたインターネットサービスプロバイダから指定されたドメイン名 |
| • IPアドレス | : 主装置のIPアドレスを設定します。
192.168.1.254 |

4 「OK」ボタンをクリックします。

MacTCPコントロールパネルに戻ります。

5 IPアドレスに「192.168.1.XX」と入力します。



6 コントロールパネルを閉じます。

7 Macintoshを再起動します。

OpenTransportをお使いになる場合

OpenTransportをお使いになる場合は、DHCP機能をご利用ください。

1 [TCP/IPコントロールパネル]を開きます。

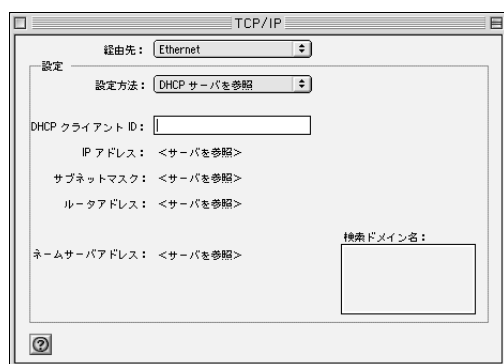
2 次のように設定します。

経路先 :Ethernet

設定方法 :DHCPサーバを参照

DHCPサーバクライアントID

:必要な場合は設定してください



次の設定項目については、DHCPにより自動で割り付けます。すでに設定されている場合は、削除してください。

- サブネットマスク
- ルータアドレス
- ネームサーバアドレス

3 TCP/IPコントロールパネルを閉じます。

Macintoshを再起動する必要はありません。

1
より
便利
に
使
う

2
詳
細
設
定
の

3
に
使
う
機
能
を
便
利
に
使
う
例

4
詳
細
設
定
の
機
能

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
ル
ー
タ
の
主
な
設
定
例

7
ご
参
考
に

かんたんガイドと応用ガイドを総合した用語の説明です。

数字

10BASE-T……………IEEE802.3で規格されたもので、イーサネット（CSMA/CD）LANでデータ転送速度が10 Mbps、伝送媒体としてツイストペアケーブルを用います。通常、LAN機器とハブを接続するような場合に使用されるケーブルを指します。

アルファベット

AppleTalkプロトコル……………取扱説明書で使用しているAppleTalkプロトコルは、AppleTalkに関連するパケットの総称として使用しています。特にプロトコルを指しているわけではありません。

ARP (Address resolution protocol) ……

ARPは、特定のIPアドレスを持っているホストのMACアドレスを検索するためのプロトコルです。

ARPテーブル……………ARPにより検索されたIPアドレスとMACアドレスの対応テーブルです。

ASCII文字……………米国規格協会（ANSI）が制定した標準符号。ASCIIは7ビットで構成され、制御文字、特殊文字、数字、英大・小文字の128種類の文字を表現します。

CHAP(Challenge Authentication Protocol) ……

PAPと同様に認証を行うプロトコルですが、パスワードを通知するときにパスワードを暗号化して送ることでパスワードの盗聴を防ぐため、よりセキュリティが高いプロトコルです。

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol<RFC2131>) ……

DHCPは、IPアドレスやDNSサーバアドレスなど、ネットワーク端末の設定情報を動的に割り付けるプロトコルです。

DNS(Domain Name System) ……

DNSは、ネットワークのIPアドレスとドメイン名を解決するためのシステムで、ドメイン名から対応するIPアドレスへの変換/逆変換を行います。

DSU(Digital Service Unit) ……ISDN回線などのデジタル回線の終端装置。NTT側の伝送路と機器間の信号の変換や接続を行います。

INSネット64……………INSネットサービスの中で、1回線で情報チャンネル（B）2本、信号チャンネル（D）1本を同時に利用できるサービスです。

IPアドレス……………TCP/IPで通信をする場合に、ネットワーク上の機器を特定するために使用される番号を指します。IPアドレスは、4バイトのデータからなり、インターネットに接続中のすべての機器に個別のIPアドレスが割り当てられています。

IPプロトコル……………取扱説明書で使用しているIPプロトコルまたはIPプロトコルタイプは、IPに関連するパケットの総称として使用しています。特にプロトコルとして存在するわけではありません。

IPマスカレード……………IPアドレス変換方式の一つで、ローカルネットワークに接続された複数の端末のIPアドレスを、1つのグローバルIPアドレスに変換することにより、複数の端末からインターネットへ接続することができます。また、IPアドレスの変換を行うことで、ローカルネットワークを外部から隠蔽することができるため、セキュリティ効果が得られます。

LAN型ダイヤルアップIP接続・・・インターネットに接続するために、通信事業者などにモデムやTAにより公衆網を利用して接続する方法の一つで、必要なときだけ通信事業者に接続します。ただし、端末型ダイヤルアップIP接続とは異なり、IPアドレスの動的な割り付けは行いません。このため、接続するときのIPアドレスは、インターネットでグローバルなIPアドレスを認定機関から割り当ててもらわなければならない必要があります。

MACアドレス・・・・・・・・・・MACアドレスは、イーサネットに接続時に使用される物理的なアドレスで、データ通信時に送信先 / 送信元アドレスで使用されるものです。MACアドレスとイーサネットアドレスは同義語です。
MACアドレスは6バイトからなり、各LAN端末ごとにユニークな値が割り当てられます。(MACアドレスは、LANのインタフェースに世界で1つ割り当てられる番号です。また、変更も不可能です。)

NAT(The IP Network Address Translator)・・・
NATは、RFC1631で提案されているIPアドレスの変換方式で、インターネットなどで使用するグローバルなIPアドレスとローカルなIPアドレスを変換する方式について記載されています。

NetWareプロトコル・・・・・・・・取扱説明書で使用しているNetWareプロトコルとは、NetWareに関連するパケットの総称として使用しています。特にプロトコルを指しているわけではありません。

PAP(Password Authentication Protocol)・・・
パスワード認証プロトコルで、ネットワークアクセス時にパスワードにより認証を行い、不正なアクセスを防ぐためのプロトコルです。

PING・・・・・・・・・・PINGとはIPアドレスを持つ相手の装置が現在ネットワークで接続されているかを確認するためのコマンドを指します。PINGコマンドではICMPのエコー要求 / 応答機能を利用して相手を確認します。

PPP(Point to Point Protocol < RFC1661 >)・・・
公衆網などのシリアル回線においてデータ転送を行う場合の標準化プロトコルです。

ProxyDNS・・・・・・・・・・ネットワーク端末からのDNS問い合わせをDNSサーバへ中継します。また中継されたデータのキャッシュを行うことで、DNS問い合わせに対して代理で応答することができます。

RFC(Request for Comments)・・・
IETF(Internet Engineering Task Force)がとりまとめている文章のことを指し、TCP/IPやPPPなどの規格としても知られています。

RIP(Routing Information Protocol)・・・
IPに関するルーティングテーブルをルータ間でやりとりするプロトコルです。このプロトコルを使用することにより、ルータ間でルーティング情報を更新し、更新したテーブルにもとづき、ルーティングを行います。

TCPヘッダ圧縮・・・・・・・・・・Van JacobsonがRFC1144にて提案したTCP/IP圧縮アルゴリズムです。

五十音

【ア行】

空き外線・・・・・・・・・・使用していない外線で、発信・着信できる外線のことです。

(次ページへつづく)

用語の説明（総合編）

（前ページのつづき）

- イーサネット……………1970年代に米国ゼロックス社が開発し、現在では代表的なLANの規格の一つです。インターネットの標準化組織であるIEEE802委員会が標準化した802.3CSMA/CDとイーサネットとは同義語として扱われることがあります。
- イーサネットタイプ……………イーサネットフレームにおける2バイトのデータで、上位レイヤのプロトコル種別を指します。
例) Internet Protocol (IP) = 0800、AppleTalk over Ethernet = 809B、Novell NetWare IPX = 8137
- インターネット……………インターネットとは、世界150か国以上にまたがり企業や学術施設、商用ネットワークなどを相互に結んだ世界最大のネットワークです。
- オフフック……………ハンドセットを取りあげることです。
- オンフック……………ハンドセットを置くことです。
- オンフックダイヤル……………ハンドセットを置いたまま、スピーカボタンを押し、ダイヤルボタンを押すことです。

【力行】

- 外線捕捉……………「ツー」という外線発信音が聞こえる状態を外線捕捉の状態といいます。この状態のときに外へ電話をかけることができます。
- 簡易自動再発信……………外線発信時に、相手の方がお話し中や応答しないときにセットすると、相手の方が応答するまでに自動的に再ダイヤルする機能のことです。
- キーパッド……………INSネット64に送出するデータのことです。

【サ行】

- サービスクラス……………外線発信の規制や許可などのサービスを電話機ごとに設定するクラスのことです。
- サブアドレス……………INSネット64を利用するときに、補助的に使用する内線番号のことです。
- 自営標準PS……………自営標準プロトコルを採用している特定のPHS対応電話機（デジタルコードレス電話機）のことです。
- シフトJIS(シフトJISコード)……………漢字コードを表すコード体系の一つで、MS-DOS、Windows®、OS/2など、多くのパソコンOSに採用されています。
- 商用インターネットサービスプロバイダ……………
商用インターネットサービスプロバイダとは、インターネットへの接続を有償で提供する接続サービス事業者です。
- 静的IPマスカレード……………静的IPマスカレードとは、IPアドレス変換機能を利用時に、ポート番号から接続するローカルネットワーク端末へ意に割り付けを行う機能です。この場合、指定されたポート番号のIPパケットは、すべて対応するローカルネットワーク端末へ転送されます。
- スタッキングダイヤル……………電話機から過去にかけた相手の電話番号を読み出し、発信することです。
- スピーカ受話……………スピーカで相手の声を聞くことです。

【タ行】

- ターミナルアダプタ(TA)……………ターミナルアダプタは、ISDNを使用しシリアルインタフェースなどを備えた通信機器で、データや信号フォーマットの変更を行い、データ通信を行う機器です。一般にRS-232Cインタフェースを備えたものであれば、電話回線に接続したモデム用を使用することができます。

ダイヤルインサービス ……外線から直接内線電話機を呼び出すサービスです。

代理応答 ……他の端末への着信に応答できる機能のことです。

端末型ダイヤルアップIP接続 ……インターネットに接続する場合に、通信事業者にもデムやTAにより公衆網を利用して接続する方法の一つで、必要なときだけ通信事業者に接続します。また、この接続方法では、通信事業者のサーバからIPアドレスの動的な割り付けを行い、割り付けられたIPアドレスによりインターネットにアクセスします。

着信音 ……電話がかかってきたときに鳴る呼出音のことです。

【ナ行】

内線ホットライン ……電話機の外線ボタンに内線番号を設定し、外線ボタンを押すことによりワンタッチで内線電話機を呼び出すことです。

ネットマスク ……ネットマスクは、IPアドレスのネットワーク部分を識別するためのマスクを表し、IPアドレスの先頭ビットからのビット数をネットワーク部分と判断します。また取扱説明書では、フィルタリングなどで受信したIPアドレスを比較するビットとしてネットマスクを使用している場合もあります。

【ハ行】

バージョンアップ ……最新のプログラムをダウンロードすることにより、最新の機能をご利用になれます。詳しくは、P108～109を参照してください。

ハブ (HUB) ……ハブはLANに接続させる中継器としての役割を持ち、複数の10BASE-Tを収容することによりネットワークを構築することができます。また、ハブは複数の10BASE-TのRJ45のポートを複数収容し、ネットワーク機器とスター型で接続します。

ハンズフリー ……ハンドセットを使わないで、内蔵マイクによりお話しができる状態のことです。ハンズフリー応答、ハンズフリー通話などがあります。

フィルタリング ……送信 / 受信されるパケットの内容を判断し、パケットを通過させる / 破棄するを決定することです。

フォワード ……送信するまたは受信したパケットを通過させることを指します。

プリセットダイヤル ……オンフック状態でダイヤルしたあとに、外線捕捉または内線捕捉をして発信する機能のことです。

プロトコルタイプ ……取扱説明書で使用しているプロトコルタイプという言葉は、IPやNetWare、AppleTalkなどの各プロトコルの種別を表しています。

【ヤ行】

呼出状態転送 ……通話中に相手を保留し、転送先の相手呼び出したときに、相手が応答する前に転送することです。

1
より内線電話機を
便利に使う

2
詳細電話機能の
設定

3
電話機能を利用
する設定例

4
ルータ機能の
詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な
設定例

7
参考

かんたんガイドと応用ガイドを総合した索引です。
「㊦」のついているページは、かんたんガイドを参照してください。

数字

12回線受話増スター電話機	㊦18,㊦19
12回線デジタルカール	
コードレススター電話機	㊦18,㊦19
12回線録音スター電話機	㊦18,㊦19
6回線ISDN停電スター電話機	㊦18,㊦19
6回線標準スター電話機	㊦18,㊦19
6回線防水スター電話機	㊦18,㊦19

アルファベット

AppleTalkパケット	147
ARP	
ARPテーブル	106
ARPパケット	145
CNG	
CNG検出	30
CNG検出回数	30
DATAランプ	㊦23
defaultルート	66
DIPスイッチ	㊦24,㊦35
DHCP	
DHCPサーバ設定	69
DHCPによるIPアドレスの	
自動割り当て設定例	137
DHCPによる動的アドレス割り付け	154
DHCP割り付け状態	106
DNS	
DNSキャッシュテーブル	105
DNS通知設定	74
DSU切り離しスイッチ	㊦24,㊦34
FAX	
FAX信号検出 (CNG検出)	30
FAX信号検出回数 (CNG検出回数)	30
FAX接続内線指定	30
FAX発信時G2 / G3指定	30
FTP設定	97
HUB	
HUBポート	㊦24
HUBランプ	㊦23
INS	
INS回線設定	15
INSキャッチホンサービス	7
INSネット64回線接続ジャック	㊦24

INSボイスワープ	9
INSマジックボックス	9
INSネットサービス	
主なINSネットサービスの対応状況	㊦112
ISDN回線	
ISDN回線の接続	㊦34
ISDN回線のチェック	㊦37
回線の接続と設定スイッチの設定例	㊦36
IP	
IPルータ	53,140
IPアドレス	139
IPアドレス自動発信設定	81
IPアドレスの割り付け方法	139
IPアドレス変換機能	125,127,152
IPパケットフィルタリング設定	85
IPマスカレード	
静的IPマスカレード設定	79
IPルーティング	
IPルーティング情報	104
IPルーティング接続	113
i・ナンバー	
i・ナンバー契約	16
i・ナンバーサービス	㊦116
i・ナンバー設定	16
i・ナンバー着信電話機	16
LAN	
LAN型ダイヤルアップ接続	110,127
LAN設定	48
Macintosh	162
MACアドレス	
MACアドレス自動発信設定	82
MACアドレスフィルタリング設定	90
NetBIOS	
NetBIOSによる定期的なDNS問い合わせ	138
NetBIOSフィルタリング	86
NetWareパケット	146
PBX形発信時捕捉回線	23
PB信号送出時間設定	30
PIAFS通信	136
PING	99
POWERランプ	㊦23
ProxyDNS設定	72
RARPパケット	145
TENスイッチ	㊦26,㊦38
Windows®	
Windows® 98	㊦44

Windows® 2000	155
WindowsNT® 4.0	155

五十音

【ア行】

アース端子	㊦ 24
空き外線自動捕捉	㊦ 107
アクセスサーバ	60
アクセスサーバ接続	118, 133, 136
アナログ通信機器	㊦ 19
アナログポート (TEL1、TEL2 / ドアホン)	㊦ 24
アナログポートのチェック	㊦ 40
アナログポートフッキング検出時間	30
アナログポートフッキング操作	23
アラーム	5
イーサネット	
イーサネットパケット	142
イーサネットタイプフィルタリング設定	92
意図しない発信	138
インターネット	
インターネットのチェック	㊦ 57
運用	
運用時に利用できる操作	98
運用方法	98
エイジング時間設定	84
応答	12
音	6
こんな音がしたら	㊦ 132
オプション電話機	㊦ 130
オフフック	
オフフック外線自動捕捉	23, 36
オンフック	
オンフックダイヤル	㊦ 82
オンフック転送	23
音量	
スピーカ音量	㊦ 79
着信音量	㊦ 78
ハンドセット受話音量	㊦ 79
音量調節ボタン	㊦ 25

【カ行】

回線	
回線未応答通知	15
回線ランプ	㊦ 23

外線	
外線キー定義	23
外線着信	㊦ 84, ㊦ 120
外線発信	㊦ 80, ㊦ 118
外線ボタン	㊦ 25
外線ランプ	㊦ 28
角度調節足	㊦ 26
カスケード	
カスケードスイッチ	㊦ 24
カスケード接続	㊦ 43
カレンダー	㊦ 74
簡易自動再発信	㊦ 89
かんたん	
かんたんガイドの目次	㊦ 11
かんたん設定	㊦ 47
かんたん設定を行う	㊦ 49
キータッチトーン	23
機能	
機能特番	10
機能ボタン	㊦ 25
キャッチホン (INSキャッチホンサービス)	7
共通	
共通短縮ダイヤル	㊦ 66, ㊦ 94
共通保留	㊦ 86
極性切替スイッチ	㊦ 24, ㊦ 37
切替	
切替時刻	29
システムモードの切替	5
保留メロディの切替	39
クリアボタン	㊦ 25
警告	
長時間保留警告	㊦ 86, ㊦ 103
警報	
長時間通話警報	㊦ 81
契約者回線番号	15
限定	
主装置からダイヤルアップ接続する	
回線を限定する	47
ファクスや単体電話機から発信する	
回線を限定する	43
構成図	㊦ 18
口頭転送	㊦ 102
コールバック	133, 150
故障かな? と思ったら	㊦ 133

1
より
内線
電話
機能
を
使
う

2
詳
電
話
機
能
の
設
定

3
に
電
話
機
能
を
使
う
設
定
例

4
詳
ル
ー
タ
機
能
の
設
定

5
ル
ー
タ
の
運
用

6
設
定
例
の
主
な

7
ご
参
考
に

個別

- 個別短縮ダイヤル……………㊦67,㊦98,㊦123
- 個別着信 (外線個別着信)……………4,25
- 個別保留……………㊦87,㊦121

【サ行】

- サービスクラス……………23,37
- 再送ボタン……………㊦25
- 再ダイヤル
 - 同じ相手にかかけ直す……………㊦88
 - 再ダイヤルに記憶されている
 - 電話番号を消去する……………㊦89
 - 再ダイヤル番号を確認する……………㊦89
 - 自動的に再ダイヤルする……………㊦89
 - 単体電話機でかける……………㊦122
- サブアドレス
 - サブアドレスがあるときは……………㊦81
 - サブアドレス通知サービス……………㊦116
 - 着サブアドレスダイヤルイン設定……………19
- 三者通話……………7
- システム設定……………30
- 自動発信
 - IPアドレス自動発信設定……………81
 - MACアドレス自動発信設定……………82
 - プロトコルタイプ自動発信設定……………83
- 自動保留……………㊦103
- 主装置……………㊦22
- 受話口……………㊦25
- 仕様……………㊦141
- 初期化
 - お買い求め時の状態に戻すには……………㊦71
 - 設定データを初期化するには……………㊦69
- スイッチ
 - DIPスイッチ……………㊦24,㊦35
 - DSU切り離しスイッチ……………㊦24,㊦34
 - TENスイッチ……………㊦26,㊦38
 - カスケードスイッチ……………㊦24,㊦43
 - 極性切替スイッチ……………㊦24,㊦37
 - 設定スイッチ……………㊦34
 - 電源スイッチ……………㊦24
 - フックスイッチ……………㊦25
- スクロールボタン……………㊦25
- スケジュール設定……………75
- スタッキングダイヤル……………㊦89
- スピーカ……………㊦25

- スピーカ音量……………㊦79
- スピーカ受話……………㊦81
- スピーカボタン……………㊦25
- スピーカランプ……………㊦28

静的IPマスカレード設定……………79
接続

- IPアドレス変換機能を使用した
 - インターネット接続1……………125
- IPアドレス変換機能を使用した
 - インターネット接続2……………127
- IPルーティング接続……………113
- ISDN回線の接続……………㊦34
- LAN型ダイヤルアップ接続……………110,127
- アクセスサーバ接続……………118,133,136
- 接続の手順……………㊦33
- ソースルーティングによる
 - 複数プロバイダとの接続……………130
- 端末型ダイヤルアップ接続……………125
- 電話機等の接続……………㊦38
- パソコンの接続……………㊦42
- 複数の相手と接続する……………122
- ブリッジ接続……………116

接続先情報……………102
接続先設定……………50

- IPルータ……………53
- アクセスサーバ……………60
- ブリッジ……………57

設置

- 主装置の設置……………㊦31

設定

- Windows® 98の設定……………㊦44
- オフフック外線自動捕捉の設定……………36
- かんたん設定……………㊦47
- 設定一覧表示……………107
- 設定画面の流れ……………㊦72
- 設定スイッチ……………㊦34
- 設定データの初期化……………㊦69
- 設定手順……………㊦30
- 設定特番……………10
- 設定方法……………㊦47
- 設定ボタン……………㊦25
- 設定ランプ……………㊦28
- 設定例……………㊦58
- 短縮・ワンタッチ設定……………㊦65

ドアホンからのチャイム音が鳴る
電話機の設定 42
時計アラームの設定 5
内線の呼出方法の設定 41
内線ホットラインの設定 35
パスワード設定 ㉠68
発信規制の設定 37
不在着信転送の設定 4
ルータ機能設定 48

送話口 ㉠25
ソースルーティング 68,130

【夕行】
ダイナミックMACアドレステーブル 106

ダイヤル
ダイヤル中特番 10
ダイヤルボタン ㉠25

ダイヤルイン
ダイヤルインサービス ㉠116
ダイヤルイン設定 18
ダイヤルイン番号 18

代理応答 ㉠106,㉠127

短縮
短縮ダイヤルカード ㉠101
短縮ボタン ㉠25
短縮・ワンタッチ設定 ㉠65

短縮ダイヤル
共通短縮ダイヤルで電話をかける ㉠96
共通短縮ダイヤルを登録する ㉠94
個別短縮ダイヤルで電話をかける ㉠100
個別短縮ダイヤルを登録する ㉠98
単体電話機でかける ㉠123
登録されている短縮ダイヤルを
確認する ㉠95,㉠99
登録されている短縮ダイヤルを
消去する ㉠95,㉠99
パソコンから設定する ㉠66,㉠67

単体電話機
同じ相手にかけ直す ㉠122
短縮ダイヤルで電話をかける ㉠123
単体電話機等の接続 ㉠40
電話を受ける ㉠120
電話をかける ㉠118
電話を取りつぐ ㉠126

端末
端末型ダイヤルアップ接続 125
端末未応答通知 23

チェック
ISDN回線のチェック ㉠37
アナログポートのチェック ㉠40
インターネットのチェック ㉠57
停電用電話機のチェック ㉠39
内線電話機のチェック ㉠39

チャイム音 42

着サブアドレス 19
着サブアドレス着信種別 19
着サブアドレスダイヤルイン設定 19

着信 12
サブアドレスでファクスに着信させる 44
着信拒否 ㉠85,㉠105
着信転送 8
着信転送時応答設定 17
着信未応答通知 ㉠85
着信未応答通知タイマ 30
着信ランプ ㉠28
着信リソースBOD設定 96

着信音 6
指定した電話機だけ
着信音を鳴らす ㉠85,㉠120
着信音が鳴らないようにする ㉠85,㉠105
着信音量 ㉠78

長時間
長時間通話警報 23,㉠81
長時間通話警報周期 30
長時間通話警報鳴動時間 30
長時間保留警告 ㉠86,㉠103

通常 / 明瞭切替ボタン ㉠27

通信
通信中着信通知 17
通信中転送 7

通信料金
通信料金管理設定 77
通信料金情報 105

通話 12
通話中着信 ㉠104
通話料金表示 23

デジタル
デジタルカール
コードレス電話機 ㉠18,㉠19,㉠130

- デジタルコードレス電話機 …… ㉞18, ㉞19
- デジタルシステムKT形
 - コードレス電話機 …… ㉞18, ㉞19
- デジタルシステム
 - コードレス接続装置 …… ㉞18, ㉞19
- デジタルシステム
 - コードレス電話機 …… ㉞18, ㉞19, ㉞130
- デジタル通信機器 …… ㉞19
- デジタル通信機器接続ジャック
 - (S/T点サービスポート) …… ㉞24
- デジタル通信機器の接続 …… ㉞41
- ディスプレイ …… ㉞25
 - ディスプレイの見方 …… ㉞29
- 停電
 - 停電電話機ポート …… ㉞24
 - 停電になったときは …… ㉞131
 - 停電用電話機 …… ㉞18, ㉞19, ㉞25
 - 停電用電話機のチェック …… ㉞39
- 電源
 - 電源ケーブル …… ㉞24
 - 電源スイッチ …… ㉞24
- 転送 …… 13
 - オンフック転送 …… 23
 - 口頭転送 …… ㉞102
 - 着信転送 …… 8
 - 通信中転送 …… 7
 - 転送トーキ …… 8
 - 転送元トーキ …… 8
 - 不在着信転送 …… 4
 - 保留転送 …… ㉞102, ㉞126
 - 呼出状態転送 …… ㉞103, ㉞127, 30
- 電話
 - 電話機能一覧 …… 11
 - 電話機能設定 …… 15
- 電話がかかってきたとき
 - 外線着信に应答する …… ㉞84
 - 単体電話機で受ける …… ㉞120
 - 続けてかかってきた電話に应答する …… ㉞85
 - ハンドセットを取りあげてから应答する …… ㉞85
 - 別の電話機で应答する …… ㉞106
- 電話機
 - 電話機コード差込口 …… ㉞26
 - 電話機等の接続 …… ㉞38
- でんわばんサービス・でんわばんWサービス …… 8
- 電話を受ける
 - 外線着信に应答する …… ㉞84
 - 単体電話機で受ける …… ㉞120
- 電話をかける
 - 空いている外線を選んで電話をかける …… ㉞107
 - 最後にかけた相手にかけ直す …… ㉞88
 - 短縮ダイヤルでかける …… ㉞96, ㉞100
 - 単体電話機でかける …… ㉞118
 - 着信の記録を表示してかける …… ㉞108
 - 電話番号を確認してからかける …… ㉞83
 - ハンズフリーでかける …… ㉞109
 - ハンドセットを置いたままかける …… ㉞82
 - ハンドセットを取りあげてかける …… ㉞80
 - ワンタッチボタンでかける …… ㉞92
- 電話を取りつく
 - 単体電話機で取りつく …… ㉞126
 - 内線電話機で取りつく …… ㉞102
- ドアホン …… 13, 42
 - ドアホンからの呼び出しに应答する …… ㉞111
 - ドアホン設定 …… 34
 - ドアホン着信鳴動電話機 …… 34
 - ドアホン通話音量設定 …… 34
 - ドアホンの周囲の音を聞く …… ㉞111
 - ドアホンポート …… ㉞24
- 動作
 - 着信動作 …… 149
 - 発信動作 …… 148
- 登録
 - 共通短縮ダイヤルを登録する …… ㉞94
 - 個別短縮ダイヤルを登録する …… ㉞98
 - 単体電話機に個別短縮ダイヤルを
 - 登録する …… ㉞123
 - 内線電話機に名前を登録する …… 40
 - ワンタッチボタンに登録する …… ㉞90
- 特長 …… ㉞16
- 特番一覧 …… 10
- 時計 …… ㉞76
- 時計アラーム …… 5
- 【ナ行】
- 内線
 - 内線個別音声呼出 …… ㉞105
 - 内線電話機設定 …… 23
 - 内線電話機ポート …… ㉞24
 - 内線ハンズフリー应答 …… ㉞105

内線ボタン	㊦ 25
内線ホットライン	35
内線名称	23
内線呼出選択	23
内線ランプ	㊦ 28
内線通話	
お話し中の方を呼び出す	㊦ 104
内線でお話しする	㊦ 104, ㊦ 128
内線電話機を一斉に呼び出す	㊦ 105
内線の呼出方法を変える	㊦ 105
内線電話機	
受話音量増大電話機	㊦ 27
停電用電話機	㊦ 25
停電用電話機のチェック	㊦ 39
内線電話機の接続	㊦ 38
内線電話機のチェック	㊦ 39
標準電話機	㊦ 25
名前	
内線電話機に名前を登録する	40
ナンバー・ディスプレイ (発信電話番号表示サービス)	㊦ 114
ネットワークサービス	7, 14
ご利用になれる各種 ネットワークサービス	㊦ 112

【八行】

バージョンアップ	108
パケット	
AppleTalkパケット	147
ARPパケット	145
IPパケット	143
NetWareパケット	146
RARPパケット	145
イーサネットパケット	142
パケット統計情報	103
パスワード	
パスワード設定	㊦ 68
パソコン	
Macintosh	162
Windows® 2000	155
Windows® 98	㊦ 44
WindowsNT® 4.0	155
パソコンの接続	㊦ 42
パソコンの設定	155
パソコンのネットワーク設定	㊦ 44

発サブアドレス	23
発サブアドレス通知	23
発信	11
発信規制	37
発信許可番号	37
発信許可番号設定	21
発信禁止番号	37
発信禁止番号設定	22
発信時通知 i・ナンバー	16
発信者番号	23
発信者番号ダイヤルイン設定	20
発信者番号通知	23
ハンズフリ - 通話	㊦ 109
ハンドセット	㊦ 25
ハンドセットコード	㊦ 25
ハンドセットコード差込口	㊦ 26
ハンドセット受話音量	㊦ 79
非ダイヤル中特番	10
表示	13
設定一覧表示	107
レポート表示	102
昼モード	5
品名紙	㊦ 26
ファクス	14
フィルタリング	141
AppleTalkパケットのフィルタリング	147
IPパケットのフィルタリング	143
MACアドレスフィルタリング設定	90
NetWareパケットのフィルタリング	146
イーサネットタイプフィルタリング設定	92
プロトコル/フレームタイプ フィルタリング設定	94
MACフレームのフィルタリング	142
ARP・RARPパケットのフィルタリング	145
フィルタリング情報	103
付加契約者番号	16
不在着信転送	4
不在着信転送タイマ	30
付属品	㊦ 22
フッキング操作	㊦ 121, ㊦ 125, ㊦ 126
フックスイッチ	㊦ 25
フックボタン	㊦ 25
プッシュホンサービス	㊦ 119
不特定着信設定	64
プリセットダイヤル	㊦ 83, ㊦ 89, ㊦ 97, ㊦ 100

1
より内線電話機を便利に使う

2
電話機能の詳細設定

3
電話機能を利用し設定例

4
ルータ機能の詳細設定

5
ルータの運用

6
ルータの主な設定例

7
ご参考に

- ブリッジ 57
 - ブリッジ接続 116
- フレックスホン設定 17
- プロトコル
 - プロトコル/フレームタイプ
 - フィルタリング設定 94
 - プロトコルタイプ自動発信設定 83
- 防水電話機 ㉠18, ㉠19, ㉠130
- 放送着信 4, 15
 - 放送着信鳴動電話機 15
- 保守サービス ㉠142
- ボタン
 - 音量調節ボタン ㉠25
 - 外線ボタン ㉠25
 - 機能ボタン ㉠25
 - クリアボタン ㉠25
 - 再送ボタン ㉠25
 - スクロールボタン ㉠25
 - スピーカボタン ㉠25
 - 設定ボタン ㉠25
 - ダイヤルボタン ㉠25
 - 短縮ボタン ㉠25
 - 通常/明瞭切替ボタン ㉠27
 - 内線ボタン ㉠25
 - フックボタン ㉠25
 - 保留ボタン ㉠25
 - マイクボタン ㉠25
 - メニューボタン ㉠25
 - ワンタッチボタン ㉠25
- 保留 13
 - 他の電話機で取れないように
 - 保留する(個別保留) ㉠87, ㉠121
 - 単体電話機で保留する ㉠121
 - 普通に保留する(共通保留) ㉠86
 - 保留音選択 30
 - 保留警告開始タイマ 30
 - 保留転送 ㉠102, ㉠126
 - 保留ボタン ㉠25
 - 保留メロディ 39
- 【マ行】
 - マイク ㉠25
 - マイクボタン ㉠25
 - マイクランプ ㉠28
 - マニュアル操作 100
 - マニュアル切断 101
 - マニュアル発信 100
 - ミキシングモード 7
 - メニューボタン ㉠25
 - モード
 - 昼モード 5
 - モード切替設定 29
 - モード種別 29
 - 夜モード 5
- 【ヤ行】
 - 用語
 - 用語の説明(総合編) 166
 - 呼出
 - 内線呼出方法の設定 41
 - 呼出状態転送 ㉠103, ㉠127, 30
 - 夜モード 5
- 【ラ行】
 - ランプ
 - DATAランプ ㉠23
 - HUBランプ ㉠23
 - POWERランプ ㉠23
 - 回線ランプ ㉠23
 - 外線ランプ ㉠28
 - スピーカランプ ㉠28
 - 設定ランプ ㉠28
 - 着信ランプ ㉠28
 - 内線ランプ ㉠28
 - マイクランプ ㉠28
 - ランプの表記 ㉠28
 - 利用例 ㉠20
 - ルータ
 - ルータ機能設定 48
 - ルーティング
 - IPルーティング情報 104
 - IPルーティング接続 113
 - ルーティング設定 65
 - defaultルート 66
 - スタティックIPルーティング 67
 - ソースルーティング 68
 - レポート表示 102
 - ログ 104
 - 録音電話機 ㉠18, ㉠19, ㉠130
 - 録音電話機設定 23

【ワ行】

話中着信可否	23
ワンタッチ	
短縮・ワンタッチ設定	㊦65
ワンタッチダイヤル	㊦65
ワンタッチダイヤルカード	㊦93
ワンタッチボタン	㊦25
登録されているワンタッチ	
ボタンを確認する	㊦91
パソコンから設定する	㊦65
ワンタッチボタンで電話をかける	㊦92
ワンタッチボタンに登録する	㊦90
ワンタッチボタンに内線番号に登録する ..	㊦91

1
より
内線電話機を
便利に使う

2
詳細設定
電話機能の

3
に使う設定例
電話機能を利用

4
詳細設定
ルータ機能の

5
ルータの運用

6
設定例
ルータの主な

7
ご参考に

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ：<http://www.ntt-east.co.jp/ced/>
<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ： 0120 - 109217

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

©2000 NTTEAST・NTTWEST



本2089-2(2000.10)

BR-トリセツ-<1>